

令和4年度

卒業生・修了生・就職先調査報告書

令和5年3月

福島大学教育推進機構 高等教育企画室

令和4年度 卒業生・修了生・就職先調査報告書

【目次】

まえがき	1
概要	3
第1章 福島大学の教育に関する卒業生アンケート	6
第1節 概要と分析	6
第2節 単純集計	35
第1項 人間発達文化学類の卒業生	35
第2項 行政政策学類の卒業生	43
第3項 経済経営学類の卒業生	51
第4項 現代教養コースの卒業生	59
第5項 共生システム理工学類の卒業生	67
第2章 福島大学の教育に関する修了生アンケート	75
第1節 概要と分析	75
第2節 単純集計	95
第1項 人間発達文化研究科の修了生	95
第2項 地域政策科学研究科の修了生	104
第3項 経済学研究科の修了生	113
第4項 共生システム理工学研究科の修了生	121
第3章 就職先に対する大学・大学院教育の成果に関するアンケート	129
第1節 概要と分析	129
第2節 単純集計	138
第1項 企業等アンケート	138
第2項 機関アンケート	145

まえがき

本調査報告書は、2022年に福島大学の卒業生・修了生・就職先に対して実施された調査結果をまとめたものである。調査の目的は、採用先における本学卒業生・修了生の評価や、大学・大学院の教育の効果および学修成果を明らかにすることである。卒業生・修了生調査は2022年10月1日から2022年10月31日にかけて、就職先調査は2022年12月15日から2023年1月31日にかけて実施した。また、調査の方法については、卒業生・修了生調査では依頼ハガキを郵送し、Web調査を実施した。就職先調査ではWeb調査と郵送のいずれかの方法で回答を集めた。調査は主に教育推進機構が中心となって実施し、高等教育企画室が結果のまとめと分析を担当した。

「福島大学の教育に関する卒業生アンケート調査」については、過去6年間（2016～2021年）の福島大学の学士課程卒業生を対象に実施された。質問項目は、属性（性別・入学年・在学時の所属・卒業後の在学経験・現在の就業状況、現在の年収）、在学時の教育に対する評価、就業後における大学時代の経験の重要性、各種能力の修得状況、希望通りの職場・生活、および自由記述（印象に残る教育・授業、在学中身につけてほしい事）である。現在の年収（総支給額）は新設の質問項目である。なお、調査票は人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類・共生システム理工学類・現代教養コースの5種類を作成し、各卒業生に配布された。大部分の設問は共通しているが、一部・学類やコースの実情に応じた質問内容となっている。回収は5,720名に送付され、406名から回答を得られた。宛先不明などによる返送371を除くと、回収率は7.6%である。

「福島大学の教育に関する修了生アンケート調査」については、過去6年間（2016～2021年）の福島大学の修士課程修了生・博士後期課程修了生・専門職学位課程修了生を対象とした。質問項目は、属性（性別・入学年・在学時の所属・卒業後の在学経験・現在の就業状況）、在学時の教育に対する評価、就業後における大学院時代の経験の重要性、各種能力の修得状況、希望通りの職場・生活、および自由記述（印象に残る教育・授業、在学中身につけてほしい事）である。卒業生調査と同様に、修了生調査では現在の年収（総支給額）の設問を新設した。調査票の回収状況は、533名に送付し、65名から回答を得た。宛先不明などによる返送36を除くと、回収率は13.1%である。

就職先に対するアンケートについては、過去3年間で福島大学の卒業生および修了生の採用実績のある企業等、および公共機関を対象に実施された。調査票は企業等向け、公共機関向けの2種類が作成され、配布された。質問項目には、属性（所在地・従業員数・業種・採用状況）、大学時代の経験の重要性、福島大学卒業生の能力水準、および自由記述（在学中身につけてほしい事）が含まれた。このうち、属性および採用状況に関する設問は、企業等と公共機関によって異なる。調査票の送付数は379件で、回答は138件であった。返送7を除くと、回収率は37.1%である。

なお、調査項目は、平成22年度、25年度、令和元年度に行われた「福島大学の教育に関する卒業生アンケート」および「就職先企業に対する大学教育の成果に関するアンケート」と共通している。福島大学では2019年度から新カリキュラムが導入された。今回の調査は、旧カリキュラム学生の最終年度の調査であり、令和元年度の調査項目と共通しているが、次回の調査では新カリキュラムの教育効果を明らかにするため、調査項目を大幅に変更する予定である。

最後に、調査の実施にあたって、教務課およびキャリアセンターのご協力に感謝を申し上げます。なお、調査に協力し、自由記述で有益なコメントを寄せて下さった本学の卒業生、修了生および雇用者の方々に心から謝意を表したい。

令和4年度実施 卒業生・修了生・就職先アンケート回収状況

	当初送付数 (A)	宛先不明等 返送 (B)	差引対象 者数 (A) - (B) = (C)	計 (無回答・重 複分除く)	回収率
人間発達文化学類	1729	110	1619	170	10.5%
行政政策学類	1298	76	1222	95	7.8%
経済経営学類	1332	95	1237	55	4.4%
共生システム理工学類	1027	58	969	65	6.7%
現代教養コース	334	32	302	19	6.3%
小計	5720	371	5349	406*	7.6%
大学院	533	36	497	65	13.1%
小計	533	36	497	65	13.1%
企業等	308	7	301	102	33.9%
公共機関	78	0	78	36	46.2%
小計	379	7	372	138	37.1%
合計	6632	414	6218	609	9.8%

*所属学類に回答しなかった2名を含む

概要

福島大学教育に関する卒業生・修了生・就職先調査報告書 概要

高等教育企画室

1. 調査概要

(1) 実施時期：2022年10月1日～2022年10月31日（卒業生・修了生）、
2022年12月15日～2023年1月31日（就職先）

(2) 実施方法：

- 卒業生・修了生調査：Web調査
- 就職先調査：Web調査と郵送

(3) 回収率

- 卒業生調査：406件 回収率：7.6%
- 修了生調査：65件 回収率：13.1%
- 就職先調査：138件 回収率：37.1%

2. 分析結果の概要

(1) 卒業生調査

①卒業後の自己評価の傾向：

情報収集力（85%）やコミュニケーション力（76%）、自らを律して行動できる力（76%）を比較的高く評価する一方で、外国語（24%）やキャリアデザイン力（42%）、プレゼンテーション力（42%）を比較的低く評価している。

②在学生に対する助言「コミュニケーション能力」や「外国語能力」等の重要性：

上記の傾向と同様に、自由記述では、学生に在学中に身につけて欲しいこととして、コミュニケーション能力や外国語能力などの発信力に関連する意見が多く寄せられた。また、関心を追求する力や自主学習など、学び習慣に関する意見も少なくない。

③「情報教育科目」の重要性の指摘：

教育制度・内容の評価について、令和元年の調査と同様に、「情報教育科目」の重要性を指摘する声が高まっている（全学類：69%、各学類別（現代教養コースを除き）：上位1位）。情報化社会の進展の中で、情報教育科目のニーズが高まっていることが背景にあると推測される。

④卒業後3年と卒業後6年の卒業生による教育制度・内容の評価の違い

特修プログラムや外国語科目等の多くの教育制度・内容に対して、卒業後6年経過した卒業生は、卒業後3年経過した卒業生よりも高く評価している。卒業後6年の卒業生は、比較的中堅のポジションにあたり転職経験がある者が多く、大学の教育制度・内容の価値を十分に理解できるようになっている可能性がある。大学の教育制度や内容を評価するためには、卒業後一定期間社会で経験を積んだ人を対象とした追跡調査を実施し、その知見を大学教育の成果に関する議論に取り入れていく必要がある。

(2) 修了生調査

①修了後の自己評価の傾向：

自分たちの多角的・総合的な思考（85％）や自ら学修する習慣（84％）や情報収集力（83％）を比較的に高く評価する一方で、外国語能力（25％）や健康や運動に関する科学的認識（41％）や異文化の理解（44％）を比較的に低く評価している。自分たちの情報収集力の修得力や自ら学修する習慣が高い点は、修了生および卒業生調査に共通した特徴である。また、外国語能力が低い点も、卒業生調査の結果と共通する。

②大学院の教育への高い評価：

福島大学大学院の教育の評価について、「授業科目について目標が明確であったかどうか」（98％）、「研究指導は十分に行われたかどうか」（88％）、「自主的に学修を進めるための環境が十分整っていたかどうか」（86％）、「自主学修のための教員の配慮が十分であったか」（92％）、「修得した学力や能力への満足度」（87％）などの項目では、いずれも高い評価（8割以上の高評価）が得られている。

③大学院教育の経験と必要性の関連：

修了生には、大学院時代の授業について、どれほど含まれていたか(頻度)、どれほど必要であると考えるか(必要性)を尋ねている。その結果「専門的知識を身につける」「幅広い知識を身につける」「ディベートやプレゼンテーション」「知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練」のような授業は、経験頻度も高く、必要性も高く認識されていることがわかる。また、本調査では、授業内容の経験と必要性の相関をみてみると、全ての項目において有意な正の相関が確認された。これは、授業を通じて得られる経験の意義(必要性)が、実際に学生が経験することでより強く実感されることを示している。このことは、経験者でなければと大学院教育の成果を把握することは難しいことを示唆している。

(3) 就職先調査

①「自ら人間関係をつくる力」、「多角的・総合的な思考」等を重視する傾向：

福島大学出身者に限らず、採用された大卒者の働く上での能力について、企業側は「コミュニケーション力」、「自ら人間関係をつくる力」、「多角的・総合的な思考」、「必要な場合にはリーダーシップを発揮する力」、「自ら学ぶ習慣」を非常に高く評価している。しかし、卒業生の調査結果では、自らの「情報収集能力」や「自らを律して行動できる力」などが高く評価されることが異なる。

②卒業生自身と就職先による「採用・選考時の評価点」の乖離：

卒業生自身と就職先の「採用・選考時の評価点」を検討してみた結果、「成績(研究成果含む)」、「サークル等の実績」、「人的なネットワーク」では、卒業生と就職先の間には有意差がみられた(Mann-WhitneyのU検定)。特に企業側では成績(研究成果を含む)を最も重視している。大学・大学院時代の成績は就職では重視されないとも言われることが多いが、今回の調査では企業は成績を最も重視していることが示唆されている。

③卒業生自身と採用先による「大学時代の経験の重要性」の乖離：

卒業生は「専門分野の修得による考え方の訓練」、「卒業論文等の経験」、「アルバイトの経験」、「教員との交流」を重要視しているが、それと比較すると企業はこれらの経験をあまり重視していないことがわかる。一方、「研究室・ゼミでの経験」、「友人・先輩との交流」は、卒業生より採用先に重要視されている。これらの項目では、Mann-Whitney の U 検定により、いずれも有意な差がみられた。

④「働きかけ力」と「創造力」が福大生に不足している能力：

就職先調査では、福大生に不足している能力を指摘する声は非常に少ない。その原因は、他大学の卒業生との差(不足)を強く感じていないためと考えられる。しかし、「働きかけ力」と「創造力」については、不足している能力としての選択が優れた能力を上回っており、卒業生と共通の評価である。この結果は、平成 22 年度調査や令和元年度調査と同様の傾向が見られた。

⑤大学院教育の学習成果の把握の困難さ：

今回の調査では、キャリアセンターの協力を得て、就職先調査で採用した方の働く上での能力等において、学部卒業者と大学院修了者に求める能力等の違いについて探索的に調査した。その結果、殆どの回答(約 9 割)は「違いはない」といった回答が得られた。前述したように、大学院教育の成果を把握することは経験者でなければ難しいため、学部卒業が主体となる日本の労働市場では、雇用者は大学院で身につけた知識や技能、態度を評価するための観点を必ずしも十分に検討できていない可能性がある。

補足：

- ① 学類別や研究科別データは、報告書各章の第 2 節にまとめた。詳細な回答は、各章の第 2 節をご参照いただきたい。
- ② いずれの調査の自由記述でも、福島大生に身につけて欲しいことなど、非常に建設的な意見が寄せられている。個人情報保護のため自由記述の掲載を割愛した。

第1章 福島大学の教育に関する卒業生アンケート

第1節 概要と分析

本章は、学部の卒業生を対象とした「福島大学の教育に関する卒業生アンケート」の集計結果をまとめたものである。第1節では、各学類および現代教養コース（夜間主）の調査票を総合した集計結果について紹介する。具体的には、属性（性別・入学年・在学時の所属・卒業後の在学経験・現在の就業状況、現在の年収）、在学時の教育に対する評価、就業後における大学時代の経験の重要性、各種能力の修得状況、および自由記述（印象に残っている教育・授業、在学中に身につけて欲しいこと）について概括的に論じる。また、第2節では各学類および現代教養コース（夜間主）それぞれの回答をまとめた。学類別の回答については、本章第2節をご参照いただきたい。

◎回答者の属性

「福島大学の教育に関する卒業生アンケート」回答者の属性は次の通りにある。まず性別は「男性」190名（47%）、「女性」214名（53%）、「未記入」2名（0%）であった（表1-1）。入学年については、「2013年」56名（14%）、「2014年」68名（17%）、「2015年」63名（16%）、「2016年」57名（14%）、「2017年」69名（17%）、「2018年」69名（17%）、「その他」19名（5%）、「未記入」5名（1%）であった（表1-2）。卒業年は、「2017年」56名（14%）、「2018年」65名（16%）、「2019年」61名（15%）、「2020年」60名（15%）、「2021年」71名（17%）、「2022年」70名（17%）、「未記入」4名（1%）であった（表1-2）。在学時の所属は、「人間発達文化学類」170名（42%）、「行政政策学類」95名（23%）、「経済経営学類」55名（14%）、「共生システム理工学類」65名（16%）、「現代教養コース」19名（5%）であった（表1-3）。

また現在令和4年度の学生現員は、男性58%、女性42%である（表1-1）。所属は、人間発達文化学類30%、行政政策学類22%、経済経営学類25%、共生システム理工学類19%、現代教養コース3%である。現員の構成を比較すると、卒業生調査の回答者の割合は、女性、人間発達文化学類の割合が高い一方で、経済経営学類が低い。そのため、本章は4学類および現代教養コースを合計した調査結果であるが、データを解釈するにあたって、このような性別や学類の偏りを有するデータであることに留意が必要である。

卒業後の在学経験については、「なし」367名（90%）、「福島大学の大学院博士前期課程・修士課程」19名（5%）、「他大学の大学院博士前期課程・修士課程」14名（3%）、「その他」5名（1%）、「未記入」1名（0%）であった（表1-4）。なお、現在の就業状況は、「常時雇用の社員・職員」347名（85%）、「パート・アルバイト・臨時の社員・職員」16名（4%）、「自営業主・家族従業者」3名（1%）、「無職」18名（4%）、「学生」12名（3%）、「その他」8名（2%）、「未記入」2名（0%）であった（表1-5）。よって、卒業生調査の集計結果は、常時雇用の身分にある卒業生の意見を強く反映したものと考えられる。

回答者の就職した年を尋ねた結果、「2017年」56名（14%）、「2018年」52名（13%）、「2019年」62名（15%）、「2020年」55名（14%）、「2021年」67名（17%）、「2022年」71名（17%）、「その他」12名（3%）、「未記入」31名（8%）であった（表1-6）。仕事先の業種については、割合が大きい順に、「教育・学習支援業」99名（24%）、「他に分類されない公務」75名（18%）、「医療・福祉」

37名(9%)、「製造業」31名(8%)、「情報通信業」29名(7%)、「卸売・小売業」25名(6%)、「金融・保険業」21名(5%)、「複合サービス事業」16名(4%)、「他に分類されないサービス業」14名(3%)、「電気・ガス・熱供給・水道業」9名(2%)、「建設業」7名(2%)、「運輸業」6名(1%)、「その他」4名(1%)、「不動産業」4名(1%)、「農林水産業」3名(1%)、「飲食店、宿泊業」2名(0%)、「未記入」24名(6%)であった(表1-7)。職種は、「一般事務」126名(31%)、「営業・販売職」49名(12%)、「サービス職」38名(9%)、「技術職」44名(11%)、「専門職」84名(21%)、「その他」365名(90%)、「未記入」41名(10%)であった(表1-8)。

勤務先規模(常用雇用者数)は、「29名以下」29名(7%)、「30-99名」43名(11%)、「100-499名」79名(19%)、「500-999名」21名(5%)、「1,000-4,999名」37名(9%)、「5,000-9,999名」16名(4%)、「10,000名以上」25名(6%)、「未記入」24名(6%)であった(表1-9)。

現在の年収(総支給額)は「200-299万円」130名(32%)、「300-399万円」125名(31%)、「400-499万円」65名(16%)、「500-599万円」9名(2%)、「600-699万円」5名(1%)、「700-799万円」3名(1%)、「その他」10名(2%)、「未記入」22名(5%)であった(表1-10)。

表 1-1 性別

性別	回答者	現員
男性	190(47%)	2107(58%)
女性	214(53%)	1547(42%)
未記入	2(0%)	0(0%)
計	406(100%)	3654(100%)

※上表では現員数は食農学類(平成31年4月設置)を除いた割合を示している。

表 1-2 入学年と卒業年(西暦)

入学	2011	2(0%)	卒業	2015	1(0%)
	2012	12(3%)		2016	17(4%)
	2013	56(14%)		2017	56(14%)
	2014	68(17%)		2018	65(16%)
	2015	63(16%)		2019	61(15%)
	2016	57(14%)		2020	60(15%)
	2017	69(17%)		2021	71(17%)
	2018	69(17%)		2022	70(17%)
	2019	4(1%)		2023	1(0%)
	2020	1(0%)		未記入	4(1%)
	未記入	5(1%)		計	406(100%)
	計	406(100%)			

表 1-3 在学時の所属

所属	回答者	現員
人間発達文化学類	170(42%)	1106(30%)
行政政策学類	95(23%)	811(22%)
経済経営学類	55(14%)	930(25%)
共生システム理工学類	19(5%)	705(19%)
現代教養コース	65(16%)	102(3%)
未記入	2(0%)	0(0%)
計	406(100%)	3654(100%)

※上表では現員数は食農学類(平成31年4月設置)を除いた割合を示している。

※上表では現代教養コースの現員数は行政政策学類夜間主を含めた割合を示している。

表 1-4 卒業後の在学経験

在学 経験	なし	90%
	福島大学の大学院博士前期課程・修士課程	(5%)
	他大学の大学院博士前期課程・修士課程	(3%)
	その他	(1%)
	未記入	(0%)
	計	100%

表 1-5 現在の就業状況

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	347 (85%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	16 (4%)
	3 自営業主・家族従業者	3 (1%)
	4 無職	18 (4%)
	5 学生	12 (3%)
	6 その他	8 (2%)
	未記入	2 (0%)
	計	406 (100%)

表 1-6 就職した年（西暦）

入学	1989	1 (0%)
	1991	1 (0%)
	2013	1 (0%)
	2015	1 (0%)
	2016	7 (2%)
	2017	56 (14%)
	2018	52 (13%)
	2019	62 (15%)
	2020	55 (14%)
	2021	67 (17%)
	2022	71 (17%)
	2023	1 (0%)
	未記入	31 (8%)
	計	406 (100%)

表 1-7 仕事先の業種

業種	1 農林水産業	3 (1%)
	2 鉱業	0 (0%)
	3 建設業	7 (2%)
	4 製造業	31 (8%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	9 (2%)
	6 情報通信業	29 (7%)
	7 運輸業	6 (1%)
	8 卸売・小売業	25 (6%)
	9 金融・保険業	21 (5%)
	10 不動産業	4 (1%)
	11 飲食店、宿泊業	2 (0%)
	12 医療、福祉	37 (9%)
	13 教育、学習支援業	99 (24%)
	14 複合サービス事業	16 (4%)
	15 他に分類されないサービス業	14 (3%)
	16 他に分類されない公務	75 (18%)
	17 その他	4 (1%)
		未記入
	計	406 (100%)

表 1-8 仕事の職種

職種	1 一般事務	126 (31%)	
	2 営業・販売職	49 (12%)	
	3 サービス職	38 (9%)	
	4 技術職	44 (11%)	
	5 専門職	84 (21%)	
	6 その他	24 (6%)	
		未記入	41 (10%)
		計	406 (100%)

表 1-9 勤務先の規模(常用雇用者数)

規模	1 29名以下	29 (7%)
	2 30-99名	43 (11%)
	3 100-499名	79 (19%)
	4 500-999名	21 (5%)
	5 1,000-4,999名	37 (9%)
	6 5,000-9,999名	16 (4%)
	7 10,000名以上	25 (6%)
	8 官庁(国家公務)	10 (2%)
	9 地方公共団体(地方公務)	61 (15%)
	10 学校(教育機関)	50 (12%)
	11 公団・事業団等(準公務)	7 (2%)
	12 その他	4 (1%)
		未記入
	計	406 (100%)

表 1-10 現在の年収（総支給額）

年収	収入はない	5 (1%)
	200 万円未満	22 (5%)
	200-299 万円	130 (32%)
	300-399 万円	125 (31%)
	400-499 万円	65 (16%)
	500-599 万円	9 (2%)
	600-699 万円	5 (1%)
	700-799 万円	3 (1%)
	1300-1399 万円	1 (0%)
	1500 万円以上	1 (0%)
	分からない・答えたくない	18 (4%)
	未記入	22 (5%)
	計	406 (100%)

◎在学時の教育に対する評価

卒業生調査では、大学時代の授業経験（8項目）について、どれほど含まれていたか（頻度）、またどれほど必要であるかと考えるか（必要性）を尋ねている。具体的には、これらの項目は「出席を重視」「小テスト・課題が頻繁」「厳しい成績評価」「学生「参加型」の授業」「課題成果の発表・報告」「チームでの課題取組み」「外国語に接する」「理解度や興味への配慮」である。

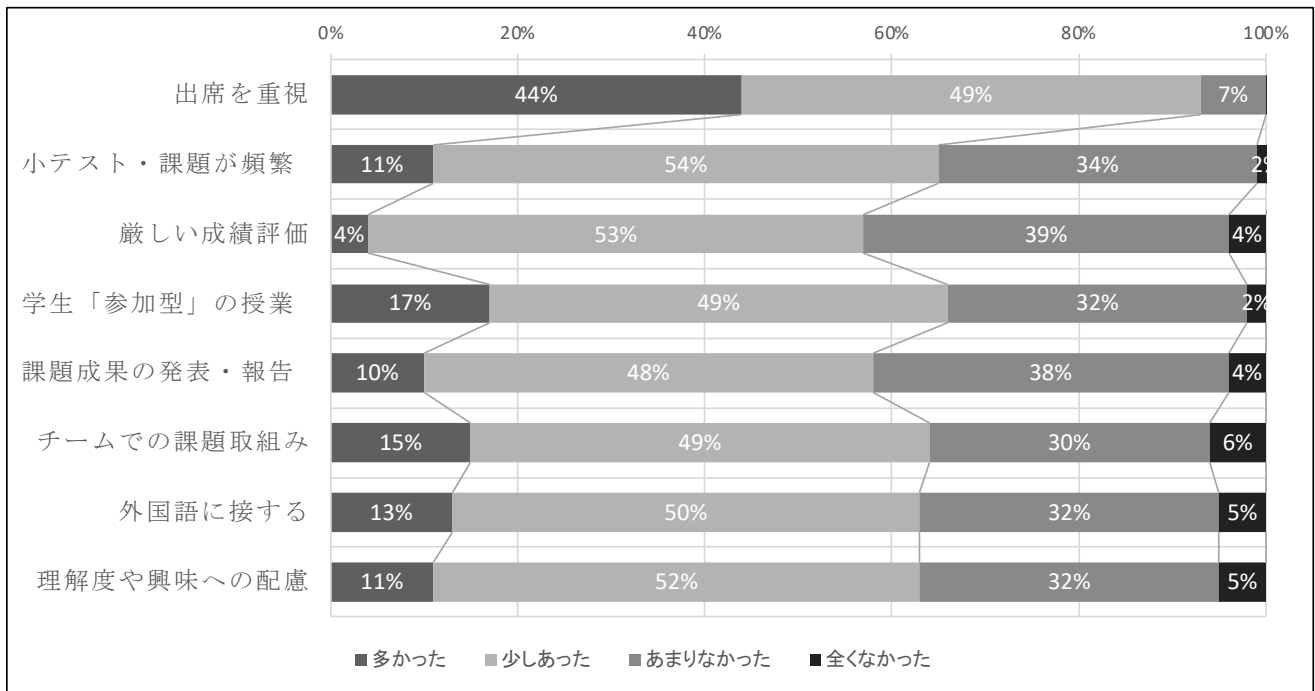
まず授業内容の経験頻度では、「出席を重視する授業が多かった」ことは、「多かった」「少しあった」を合わせて9割超えている。また、その他の項目は「多かった」「少しあった」を合わせても、5～6割程度である（図1-1）。この結果は、前回（令和元年度）の調査結果と大きく変わらない。

また、2018年度以前（卒業後6年）と2019年度以降（卒業後3年）に卒業した学生を比較すれば、「小テスト・課題が頻繁」を除き、全ての項目にはほとんど差がない。「小テスト・課題が頻繁」を「多かった」「少しあった」とする回答者は、2019年度以降に卒業した学生（70%）が2018年度以前（59%）より多い。その理由は、コロナ禍でのオンライン授業導入のため、出席確認のかわりに授業ごとの小テストや課題が多くなっているからと思われる（図1-1-比較）。

一方、授業の必要性では、「理解度や興味への配慮」を「とても必要」とする回答者が最も多い（図1-2）。そのほか、「学生「参加型」の授業」「チームでの課題取組み」に対するニーズも高く、「課題成果の発表・報告」、「チームでの課題取組み」、「外国語に接する」が続いている。また、「とても必要」「ある程度必要」を合わせて、いずれの項目も6割超えている。

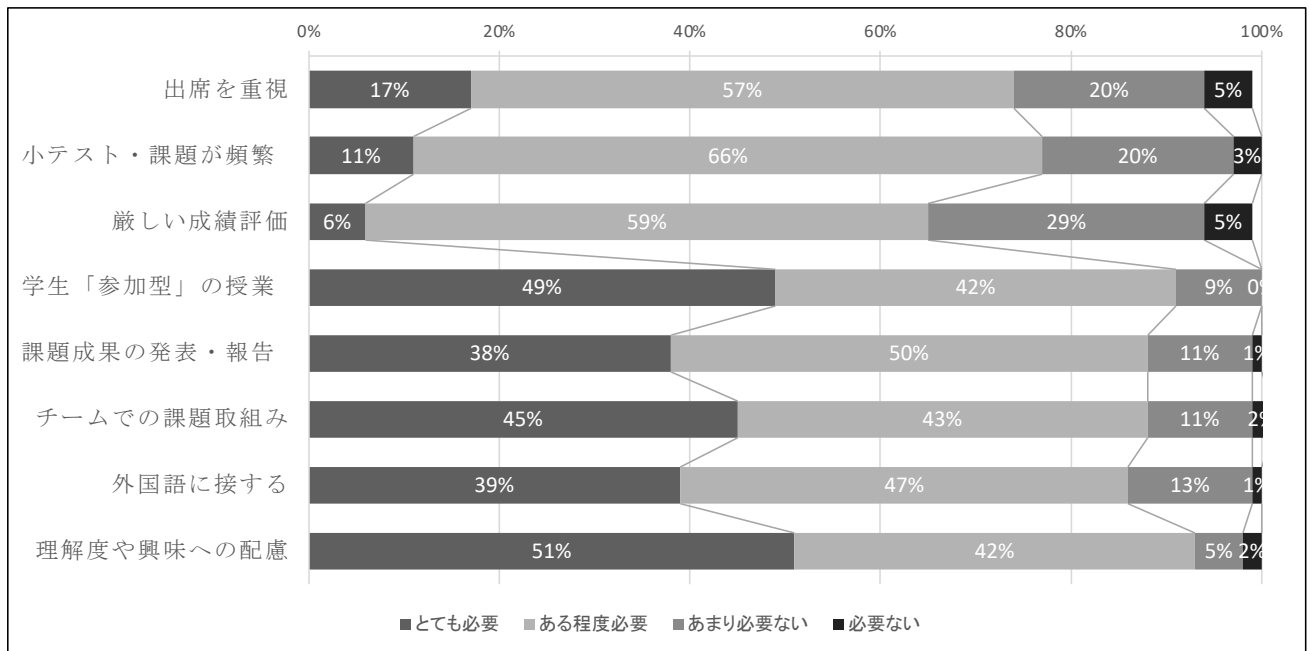
2018年度以前の卒業生を2019年度以降に比較すれば、全ての項目にはほとんど差がない（図1-2-比較）。卒業後3年と卒業後6年の卒業生は、大学授業の必要性に対して同じ意見をもっている。

図 1-1. 大学時代の授業経験（頻度）



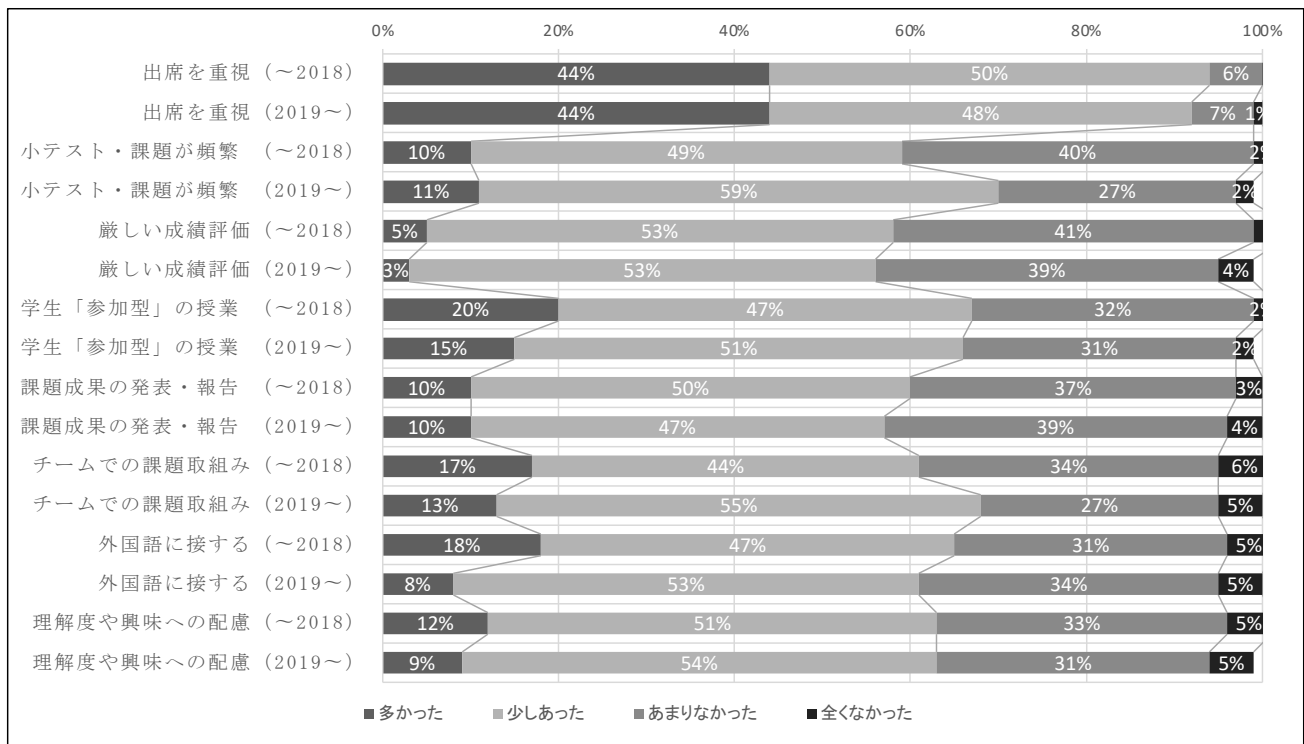
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-2. 大学時代の授業経験（必要性）



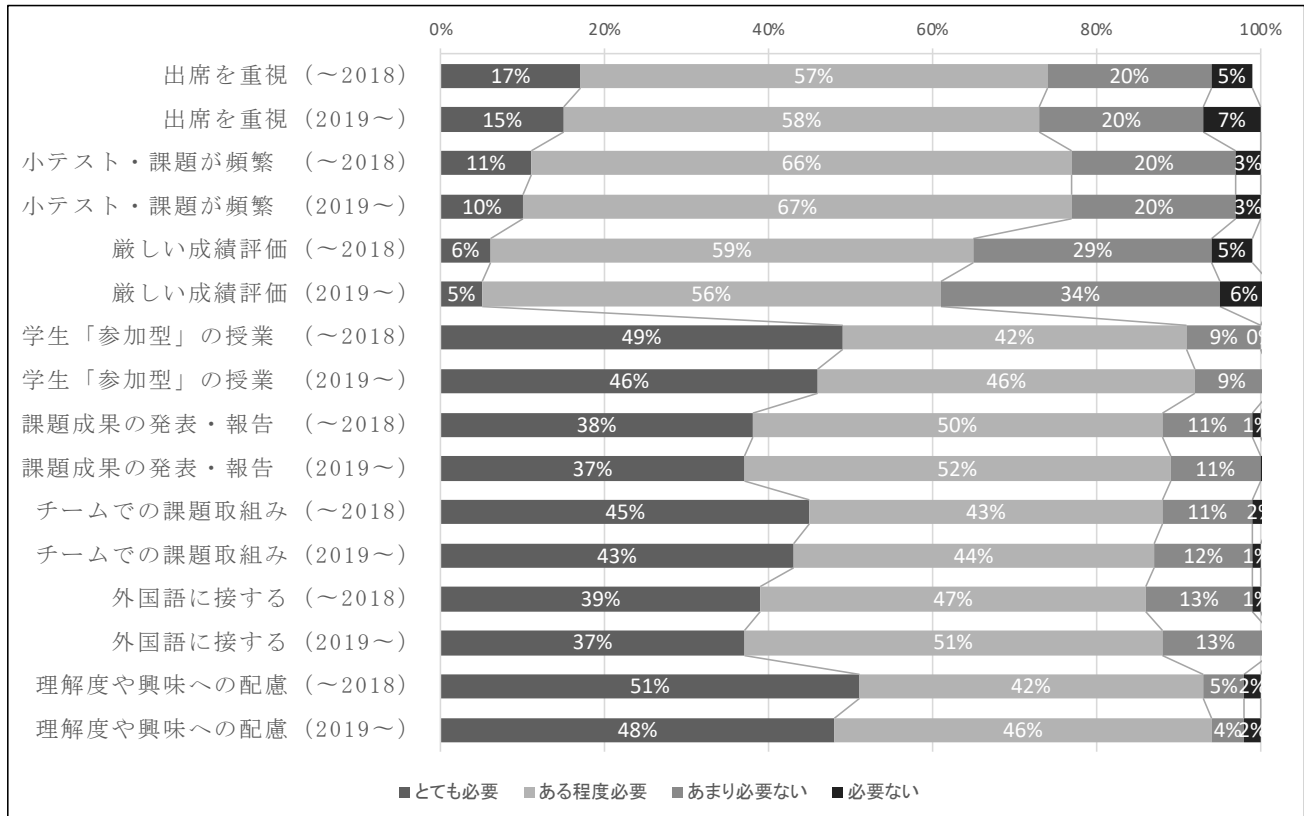
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-1-比較. 卒業後 3 年と 6 年の卒業生における大学時代の授業経験（頻度）



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-2-比較. 卒業後 3 年と 6 年の卒業生における大学時代の授業経験（必要性）



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

◎教育制度・内容の評価

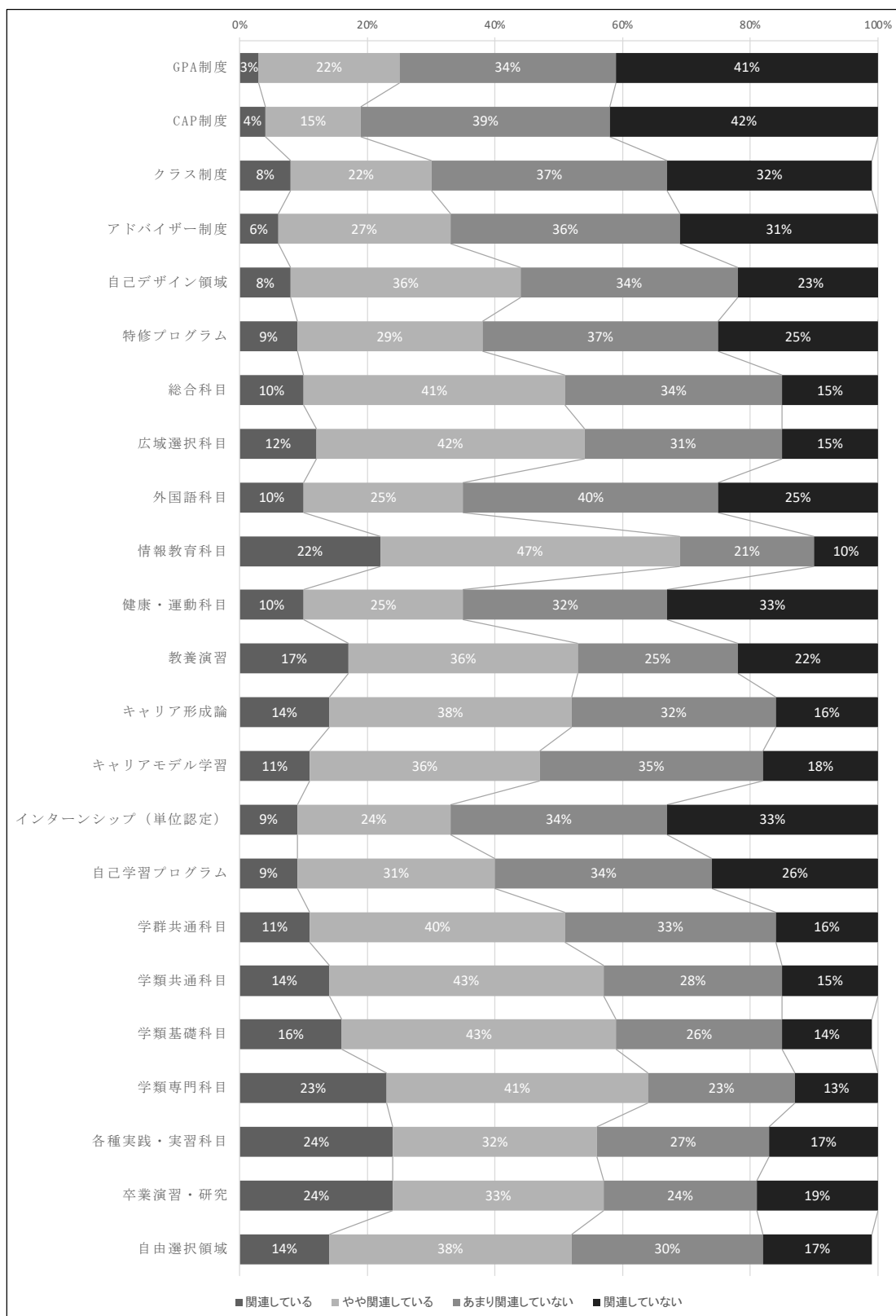
図 1-3～8 では、福島大学の教育制度・内容の集計結果を示している。これらは、全学類・コースの卒業生を対象とした共通の設問である。具体的には、「福島大学の教育制度・内容は、現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか」（４段階）について尋ねている。ここでは、全学類・コースの結果、卒業後３年と６年の卒業生の比較結果、および学類・コース別の結果を確認する。

まず各項目が関連しているかどうかについては、「関連している」「やや関連している」の合計割合を確認していく。割合が高い順に３項目（同率含む）を見てみると、卒業生調査では、「情報教育科目」69%、「学類専門科目」64%、「学類共通科目」59%である（図 1-3）。

また、卒業後３年と６年の卒業生の比較結果をみてみると、割合が高い順に３項目は同じであるが、「自己デザイン領域」（６年：49%、３年：39%）、「特修プログラム」（６年：43%、３年：33%）、「健康・運動科目」（６年：41%、３年：32%）、「外国語科目」（６年：39%、３年：32%）、「インターンシップ（単位認定）」（６年：37%、３年：30%）、「学群共通科目」（６年：55%、３年：48%）、「学類共通科目」（６年：61%、３年：54%）、「学類基礎科目」（６年：63%、３年：58%）に対して、卒業後６年経過した卒業生は、卒業後３年経過した卒業生よりも高く評価している（図 1-3-比較）。卒業後６年の卒業生は、比較的中堅ポジションであったり転職経験がある者が多く、これにより大学の教育制度・内容を強く意思するようになったと考えられる。大学の教育制度や内容を評価するためには、卒業後一定期間社会で経験を積んだ人を対象とした追跡調査を実施し、その知見を大学教育の成果に関する議論に取り入れていく必要があると考えられる。

また学類・コース別の結果をみてみると、人間発達文化学類は「情報教育科目」76%、「各種実践・実習科目」71%、「学類専門科目」70%である（図 1-4）。行政政策学類は、「情報教育科目」と「学類基礎科目」が同率で56%、「学類専門科目」55%である（図 1-5）。経済経営学類は「情報教育科目」77%、「学類専門科目」70%、「学類基礎科目」68%である（図 1-6）。共生システム理工学類は「情報教育科目」67%、「卒業演習・研究」と「学類専門科目」が同率で56%である（図 1-7）。現代教養コースは「キャリア形成論」78%、「学類専門科目」67%、「広域選択科目」61%である（図 1-8）。学類によってばらつきはあるが、「情報教育科目」は選択される割合が高い。令和元年度の調査結果とは同様であり、情報化社会の進展の中で、情報教育科目のニーズが高いと推測される。

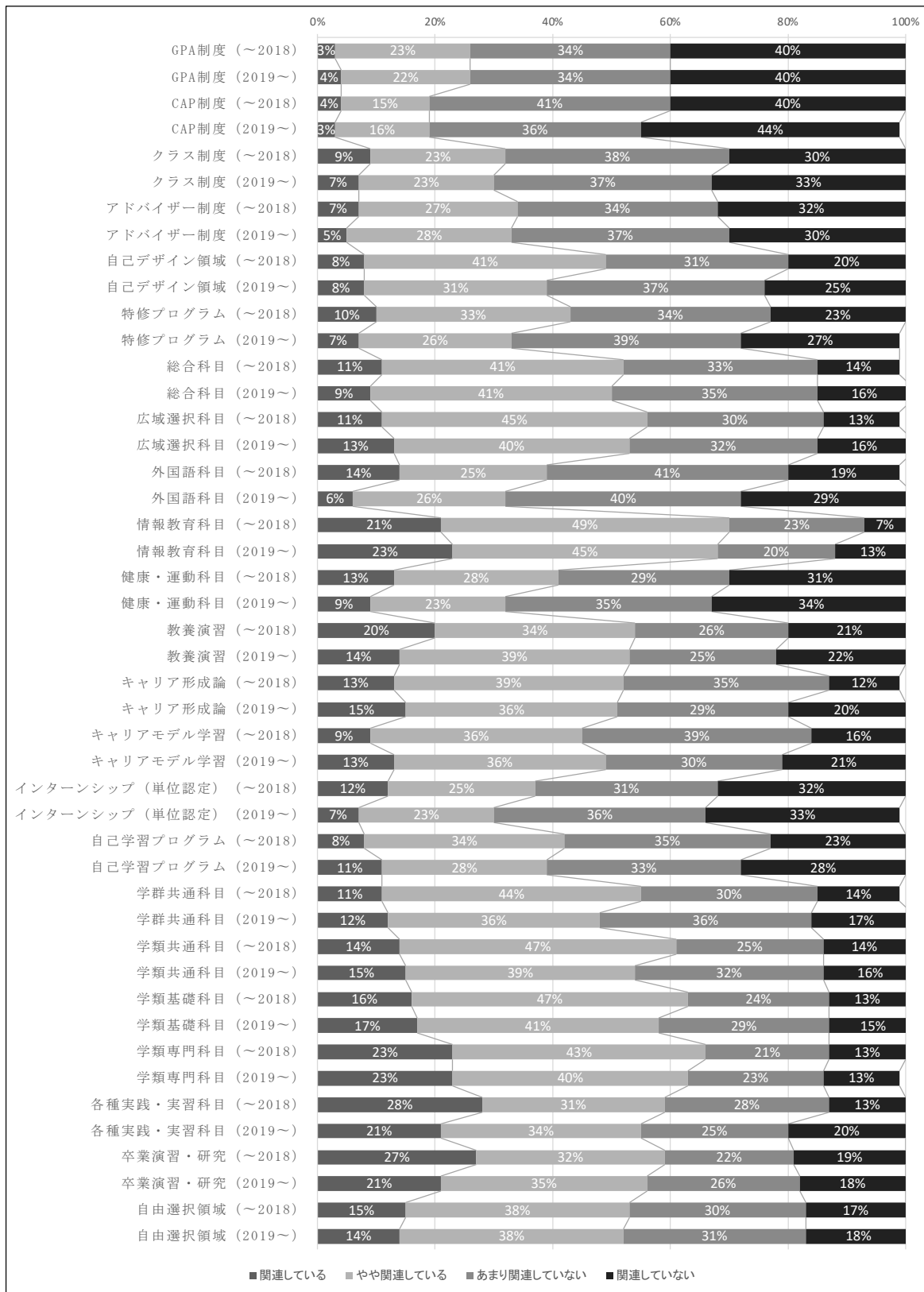
図 1-3. 教育制度・内容の評価（令和 4 年度調査の結果-全員）
 現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか。



※上図では「未履修」「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-3-比較. 教育制度・内容の評価（令和 4 年度調査の結果-卒業後3年と6年の卒業生）

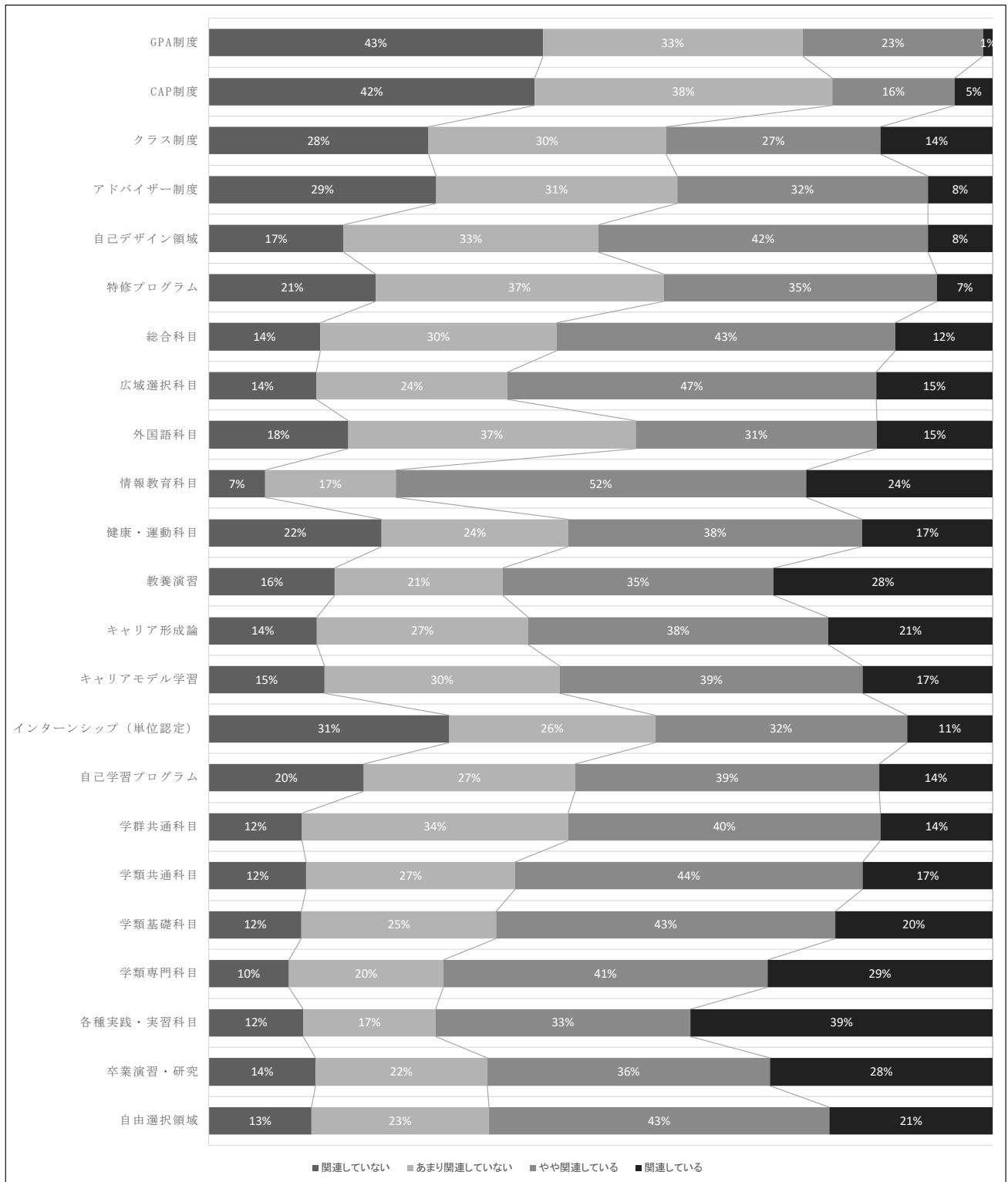
現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか。



※上図では「未履修」「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-4. 教育制度・内容の評価（令和 4 年度調査の結果-人間発達文化学類）

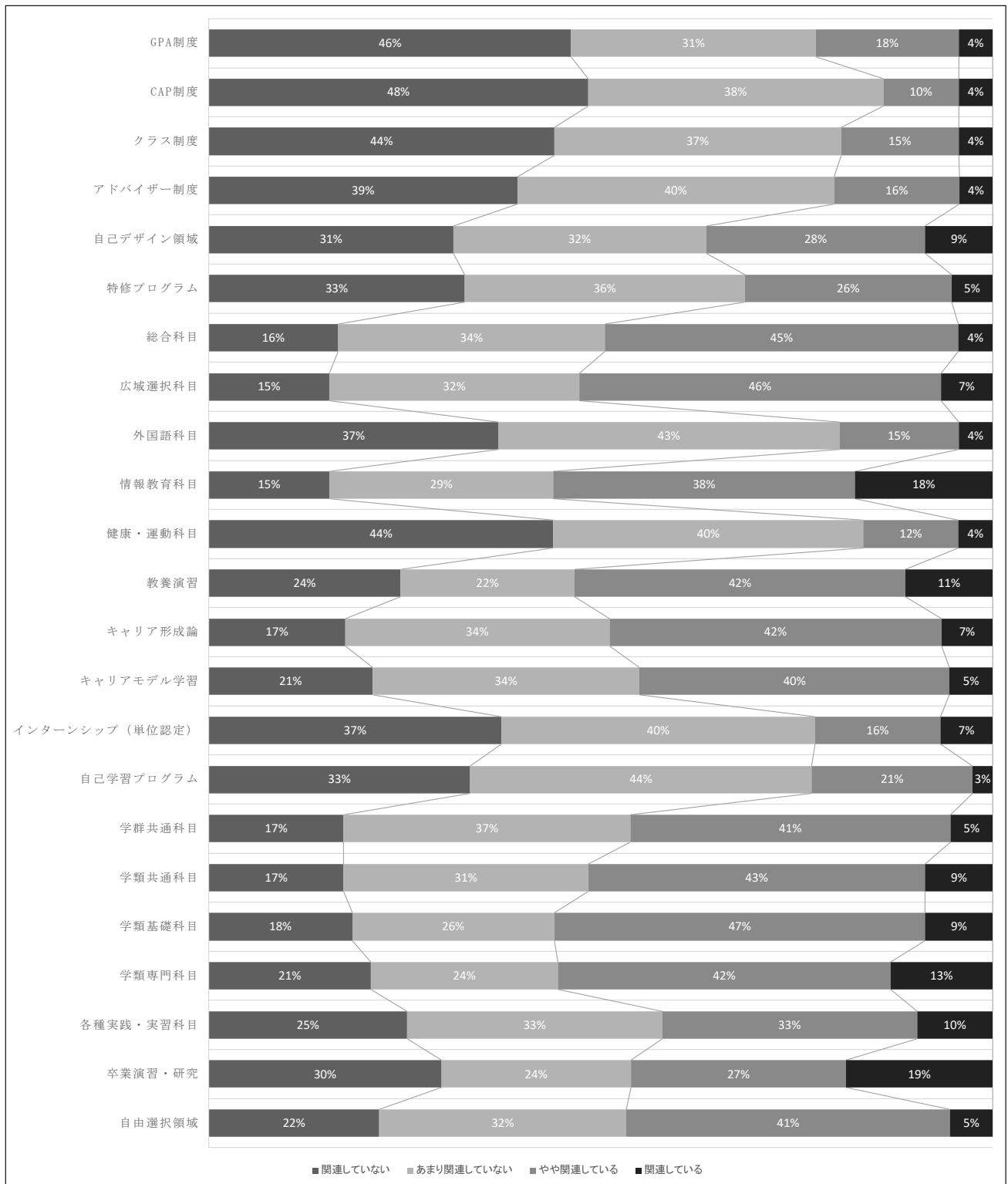
現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか。



※上図では「未履修」「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-5. 教育制度・内容の評価（令和 4 年度調査の結果-行政政策学類）

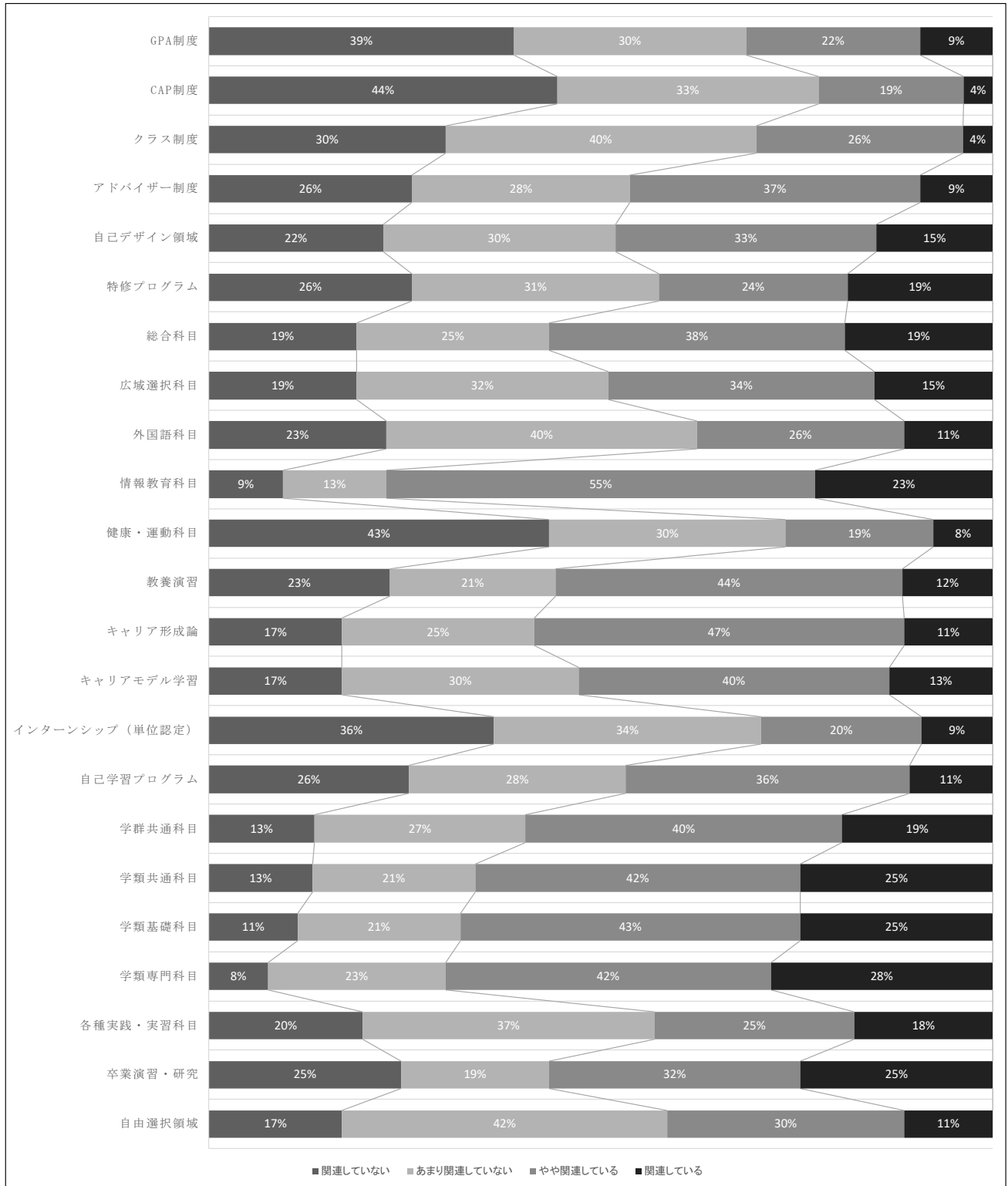
現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか。



※上図では「未履修」「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-6. 教育制度・内容の評価（令和 4 年度調査の結果-経済経営学類）

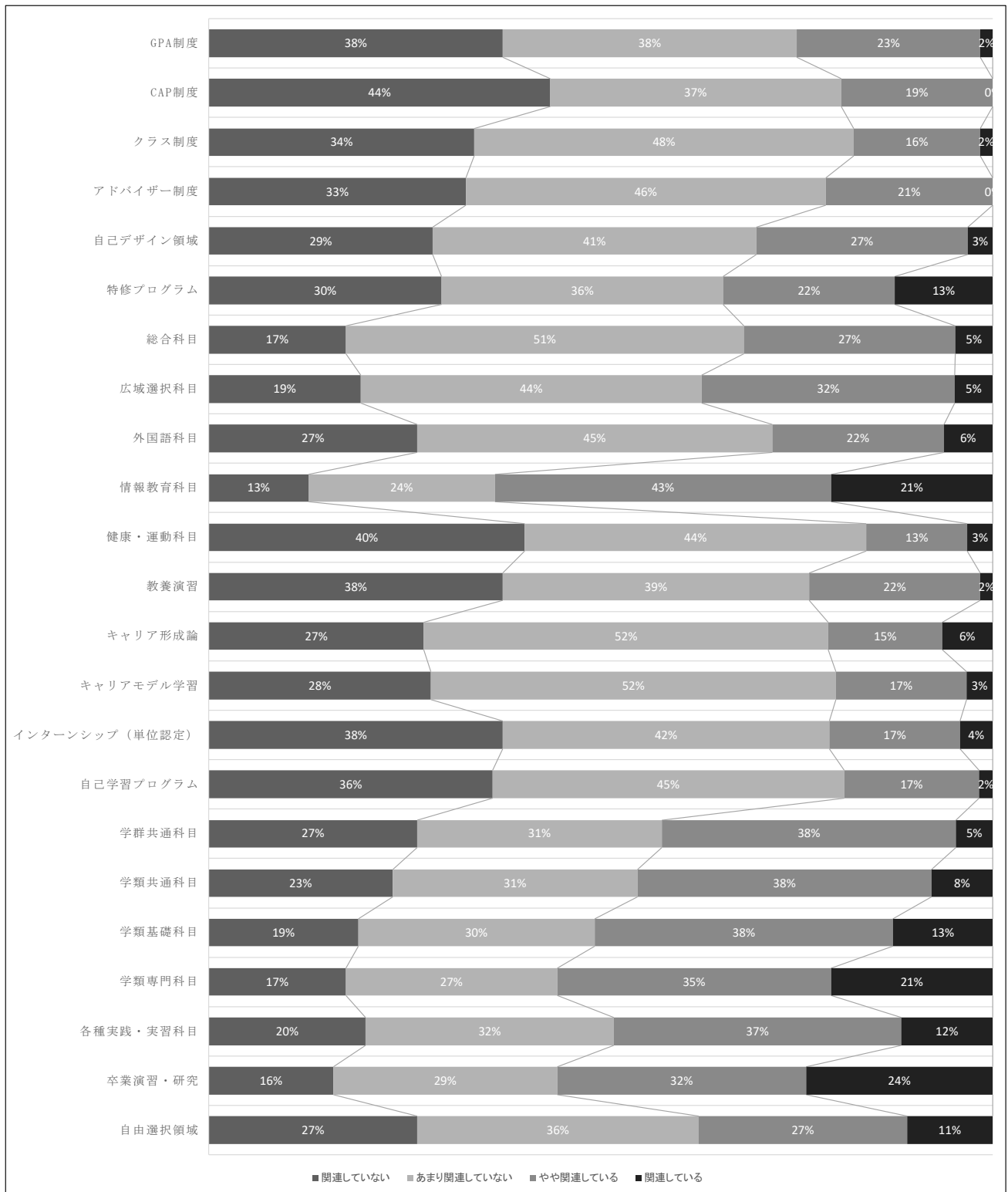
現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか。



※上図では「未履修」「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-7. 教育制度・内容の評価（令和 4 年度調査の結果-共生システム理工学類）

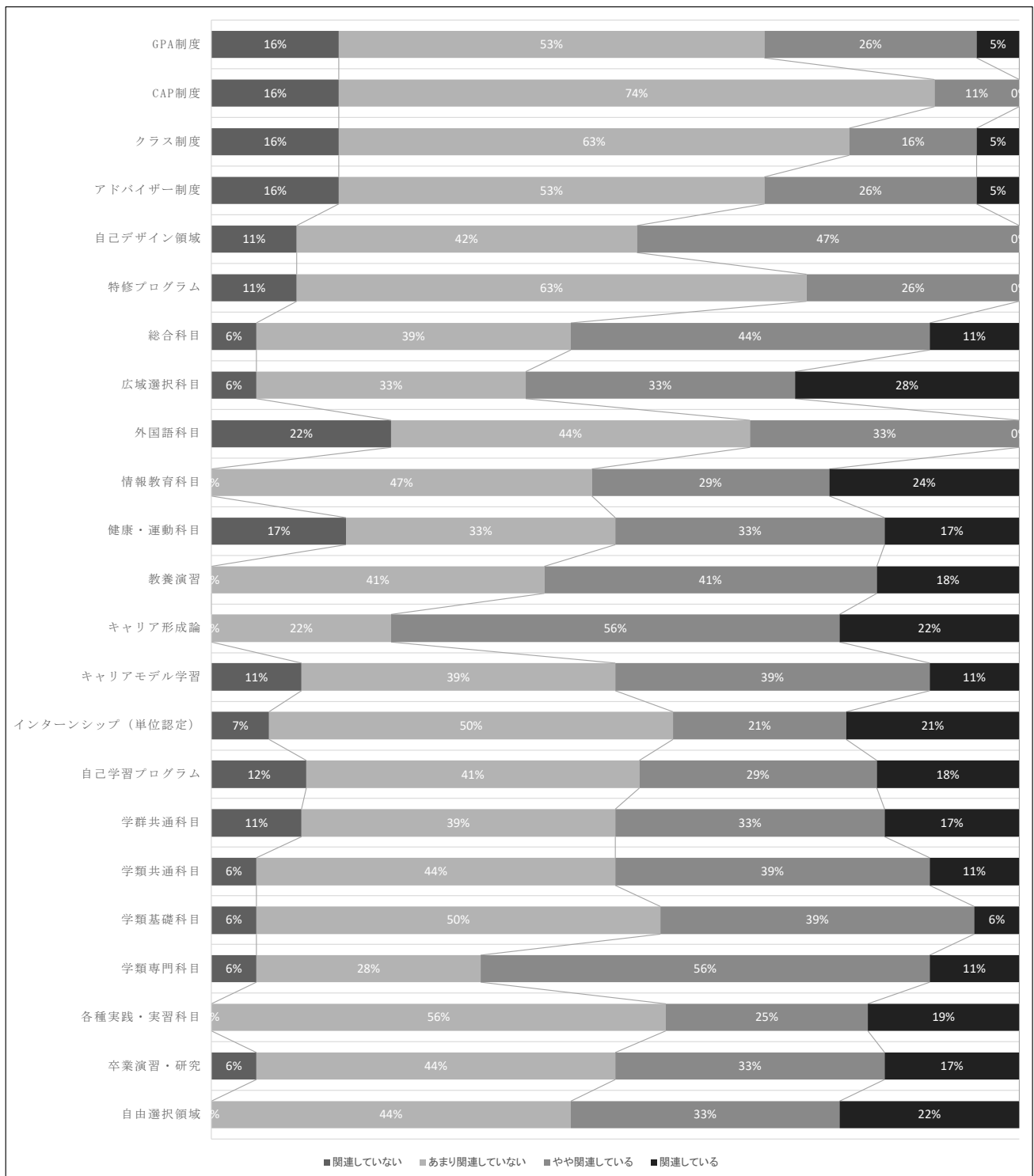
現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか。



※上図では「未履修」「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-8. 教育制度・内容の評価（令和 4 年度調査の結果-現代教養コース）

現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連しているか。



※上図では「未履修」「未記入」を除いた割合を示している。

◎就業後における大学時代の経験の重要性

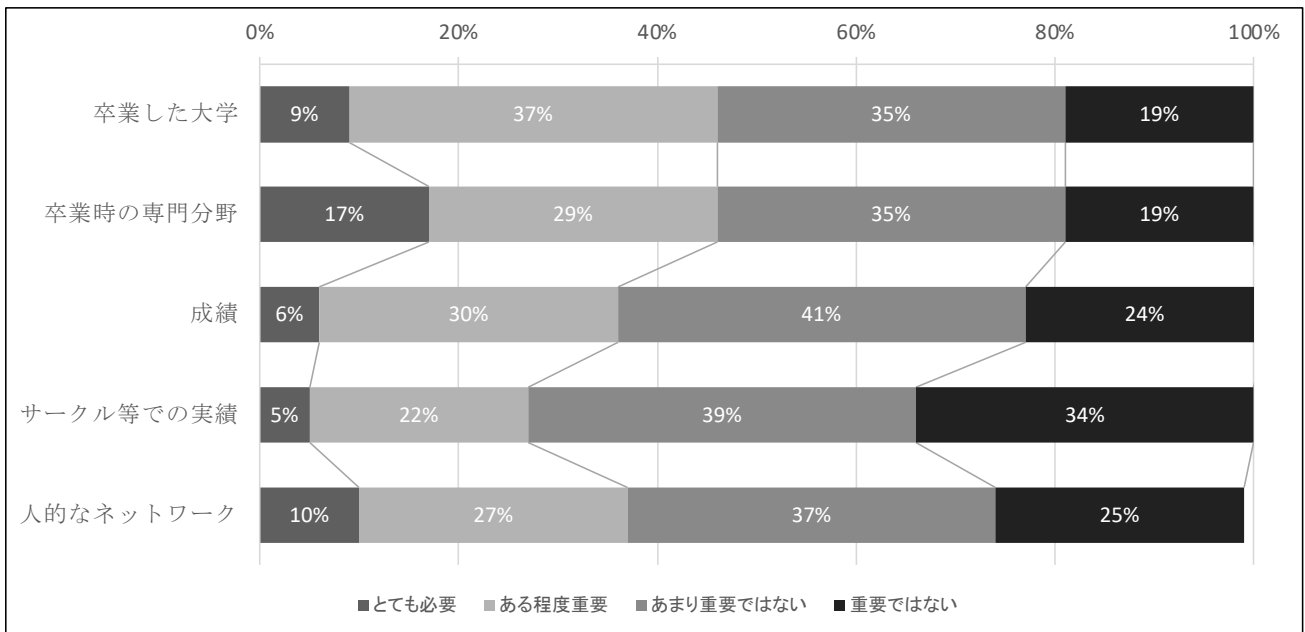
卒業生調査では、図 1-9 に示す「卒業した大学」「卒業時の専門分野」「成績」「サークル等での実績」「人的なネットワーク」が、どの程度、採用時に評価されたかを尋ねている。選択肢は、「とても重要」「ある程度重要」「あまり重要ではない」「重要ではない」の 4 選択である。「とても重要」「ある程度重要」の合計割合が高い順にみると、「卒業した大学」と「卒業時の専門分野」が同率で 46%、「人的なネットワーク」37%、「成績」36%、「サークル等での実績」27%である。

また図 1-10 では、大学時代の経験 (10 項目) は現在の仕事でどの程度重要かを示している。選択肢は、前問と同様に、「とても重要」「ある程度重要」「あまり重要ではない」「重要ではない」の 4 択である。

「とても重要」「ある程度重要」の合計割合が高い順に、「友人・先輩との交流」88%、「学問を修得することによる考え方の訓練」84%、「アルバイトの経験」82%、「専門分野の修得による考え方の訓練」81%、「未知のことに目をひらかせられる経験」78%、「大学進学時に獲得した基礎学力」76%、「研究室・ゼミでの経験」76%、「先端の学問に触れることによる知的好奇心」73%、「教員との交流」70%、「卒業論文・卒業研究等の経験」64%である。ほとんどの項目は、「とても重要」「ある程度重要」の合計割合が 7 割～8 割と重要視されている。

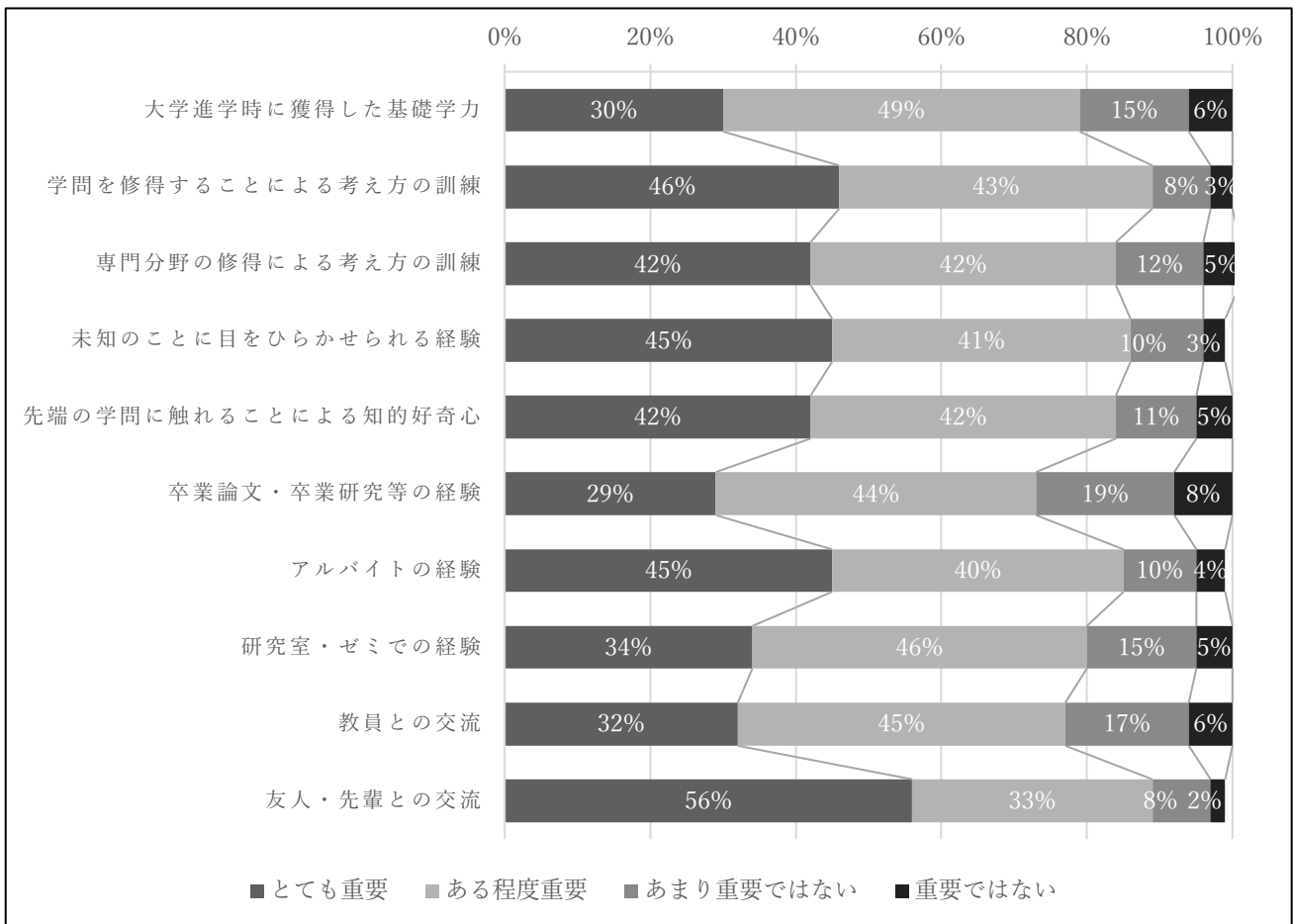
2018 年度以前の卒業生を 2019 年度以降に比較すれば、全ての項目にはほとんど差がない (図表省略)。卒業後 3 年と卒業後 6 年の卒業生は、大学時代の経験の重要性に対して同じ意見をもっているとわかった。

図 1-9 採用された際に評価された点



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-10 大学時代の経験の重要性



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

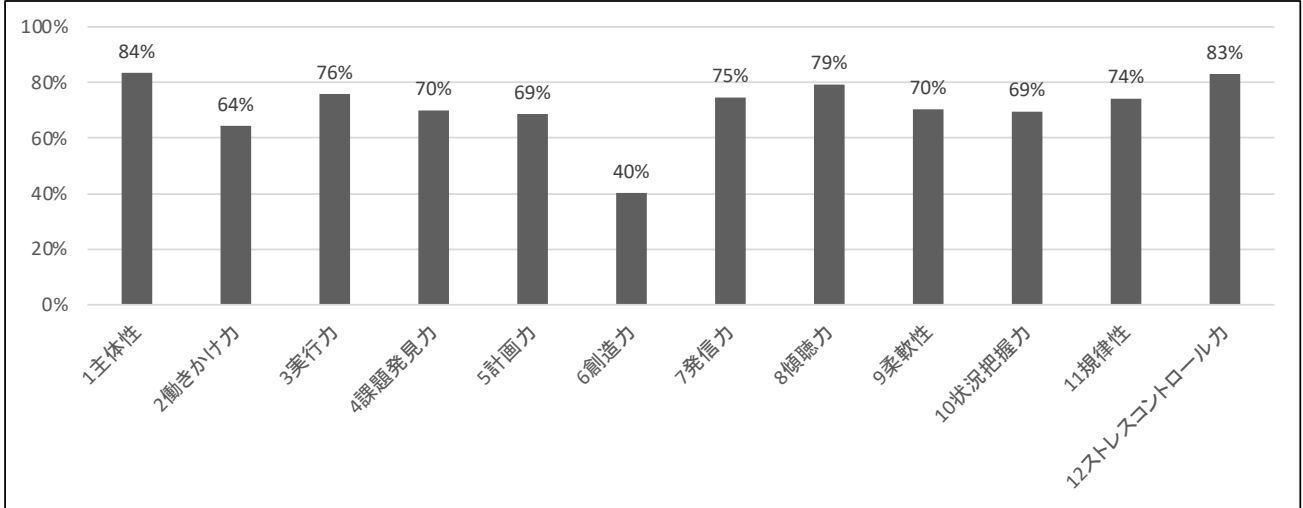
◎各種能力の修得状況

図 1-11 は、社会人基礎力についての集計結果を示すものである。現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分の優れた能力、自分にとって不足している能力について、複数選択で尋ねている。以下は、それぞれ選択肢の割合（分母は回答者総数）が高い順に 3 項目を見ていこう。まず働く上で重要であると考えられる能力については、「主体性」84%、「ストレスコントロール力」83%、および「傾聴力」79%であった。次に、福島大生なし自分の優れた能力は、「傾聴力」65%、「規律性」58%、「柔軟性」51%である。一方、福島大生なし自分にとって不足している能力は「働きかけ力」56%、「実行力」53%、「課題発見力」45%である。福島大学の卒業生は、自分たちの傾聴力や規律性、柔軟性を比較的高く評価する一方で、働きかけ力や実行力や課題発見力には不足を感じているようである。

また社会人基礎力のほか、図 1-12 に示す自分自身の能力の評価についての設問も、卒業生調査に含まれている。「とてもある」「ややある」「あまりない」「まったくない」の 4 択で尋ねている。「とてもある」「ややある」の合計割合が高い上位 3 項目は、「インターネットで情報を適切に集める力」85%、「コミュニケーション力」と「自らを律して行動できる力」が同率で 76%であった。一方、「とてもある」「ややある」の合計割合が高い下位 3 項目は、「外国語の能力」24%、「キャリアデザイン力」と「プレゼンテーション力」が同率で 42%であった。福島大学の卒業生は、自分たちの情報収集力やコミュニケーション力、規律性を比較的高く評価する一方で、外国語やキャリアデザイン力、プレゼンテーション力を比較的低く評価している。

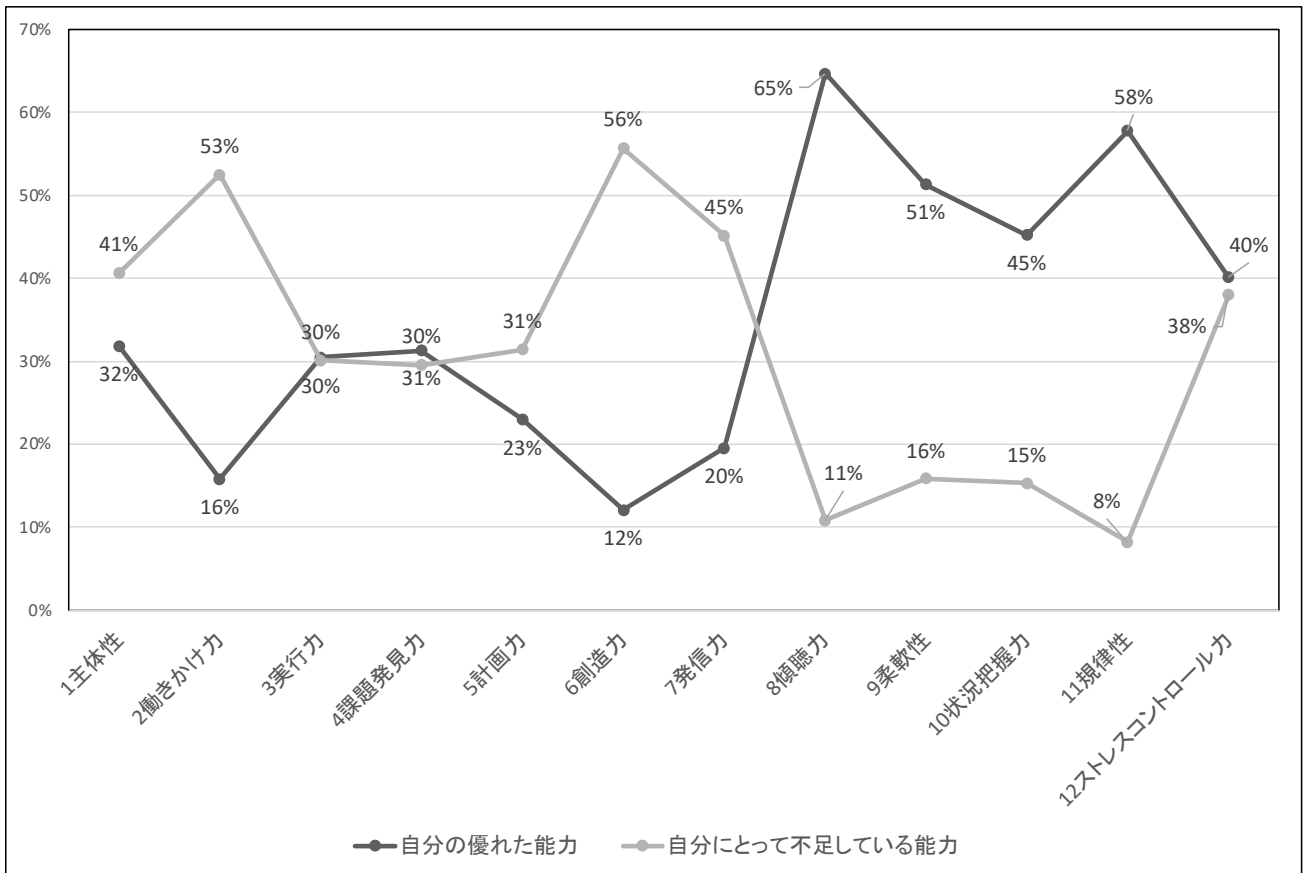
図 1-11 社会人基礎力について

働く上で重要であると考えられる能力



※上図の分母は回答者総数（406名）である。

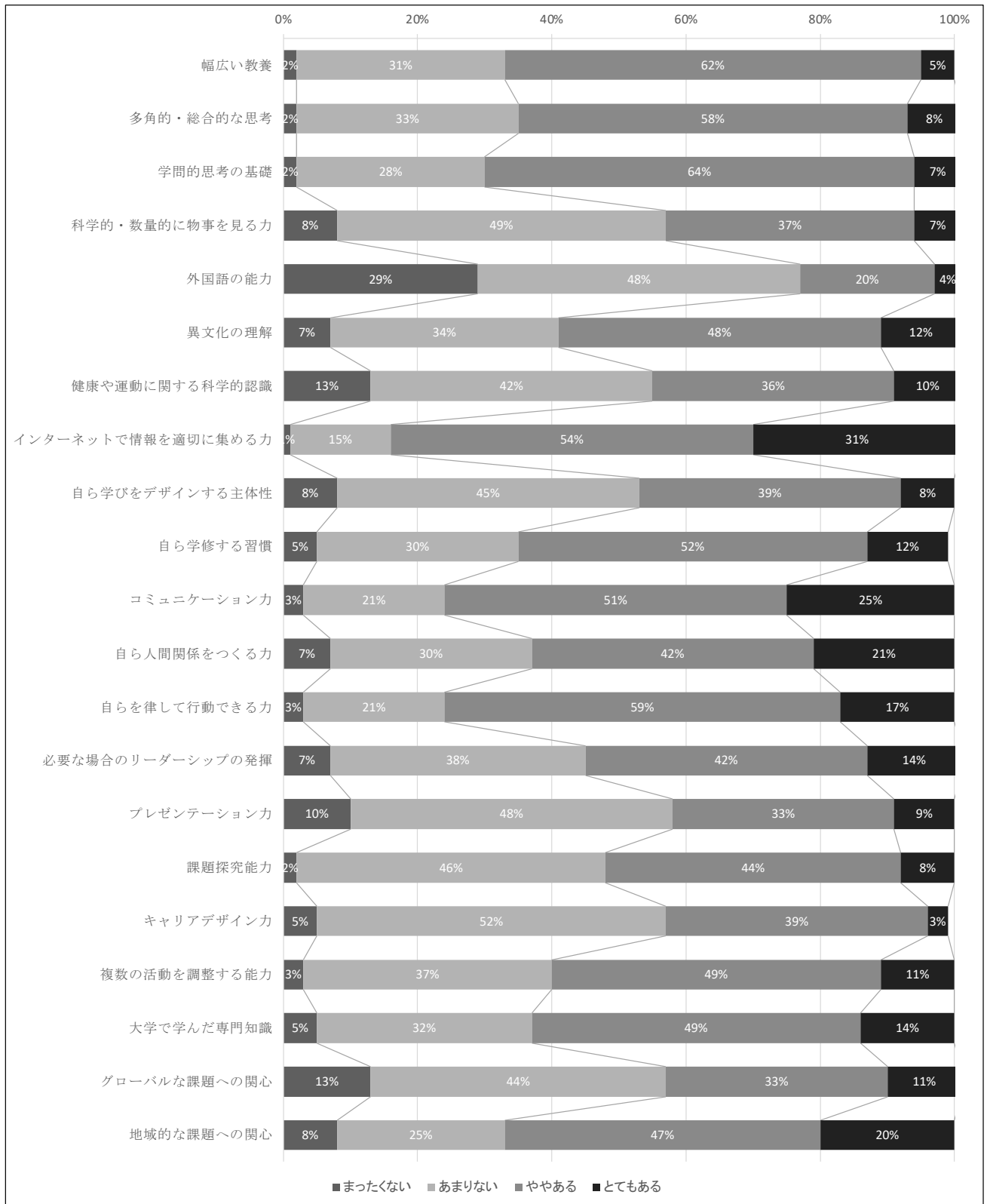
自分の優れた能力、自分にとって不足している能力



※上図の分母は回答者総数（406名）である。

図 1-12 自分自身の能力の評価

自分自身の能力をどのように評価するか



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

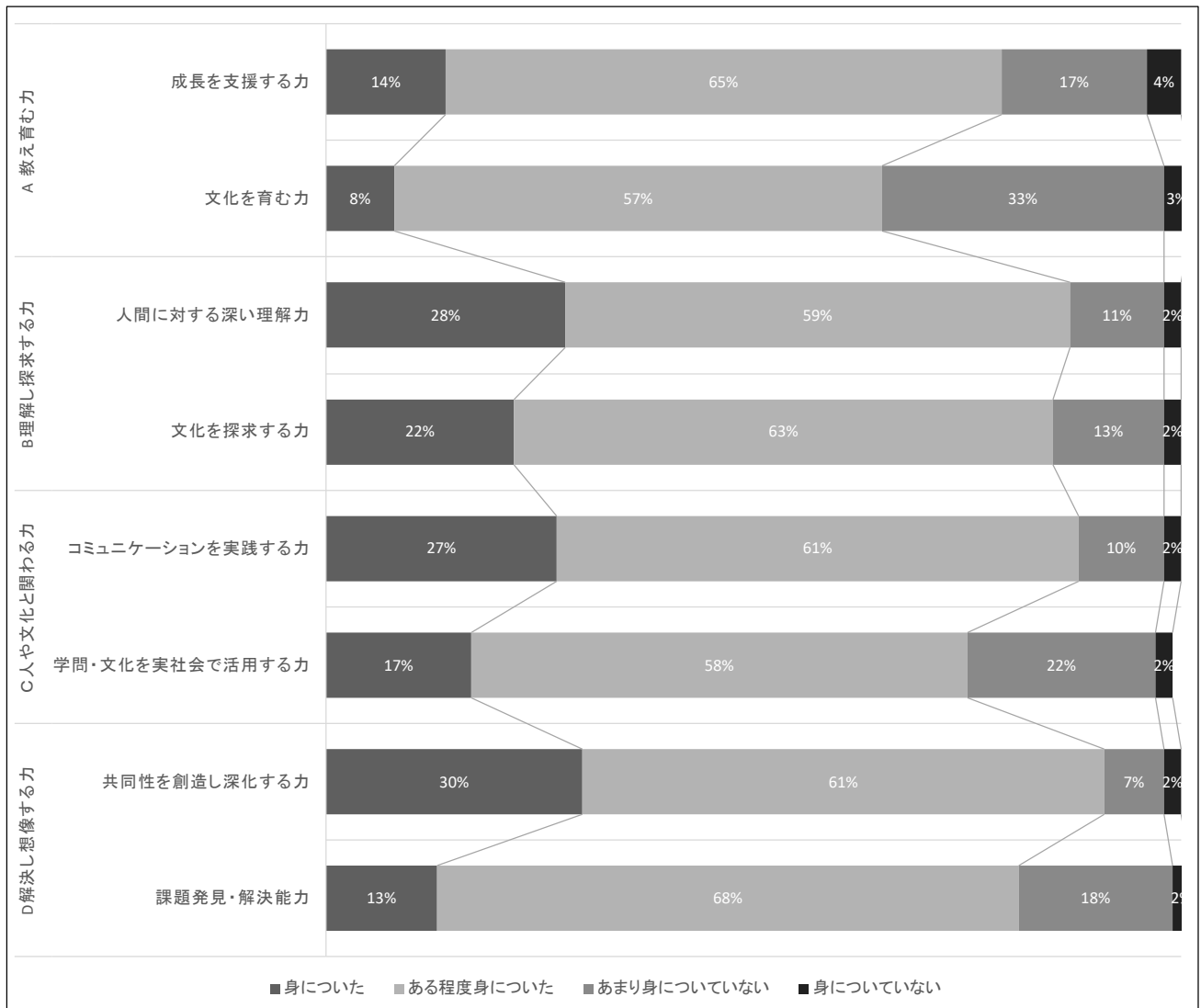
◎各学類・コースでの学びについて

図 1-13～図 1-17 は在学時の所属に応じた設問である。各学類・コースないし専門・モデルが掲げる能力について、「身についた」「ある程度身についた」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4択でどの程度身についたかを尋ねるものである。

ここでは、4学類および現代教養コースが掲げる能力の修得状況についてまとめる。まず「身についた」「ある程度身についた」の合計割合が最も高い能力については、各学類・コース別にみていくと、人間発達文化学類では「共同性を創造し深化する力」91%、行政政策学類では「法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識」79%、経済経営学類では「基礎的・専門的知識にもとづいて、経済を分析し、論理的に思考する力」75%、共生システム理工学類では「問題解決のための実践力」72%、現代教養コースでは「現代社会を理解し、生活課題、地域社会が直面する課題を解決する社会人としての教養」95%であった。各学類・コースが掲げる能力は多様であることもあり、修得度については、とくに共通した傾向がみられない。

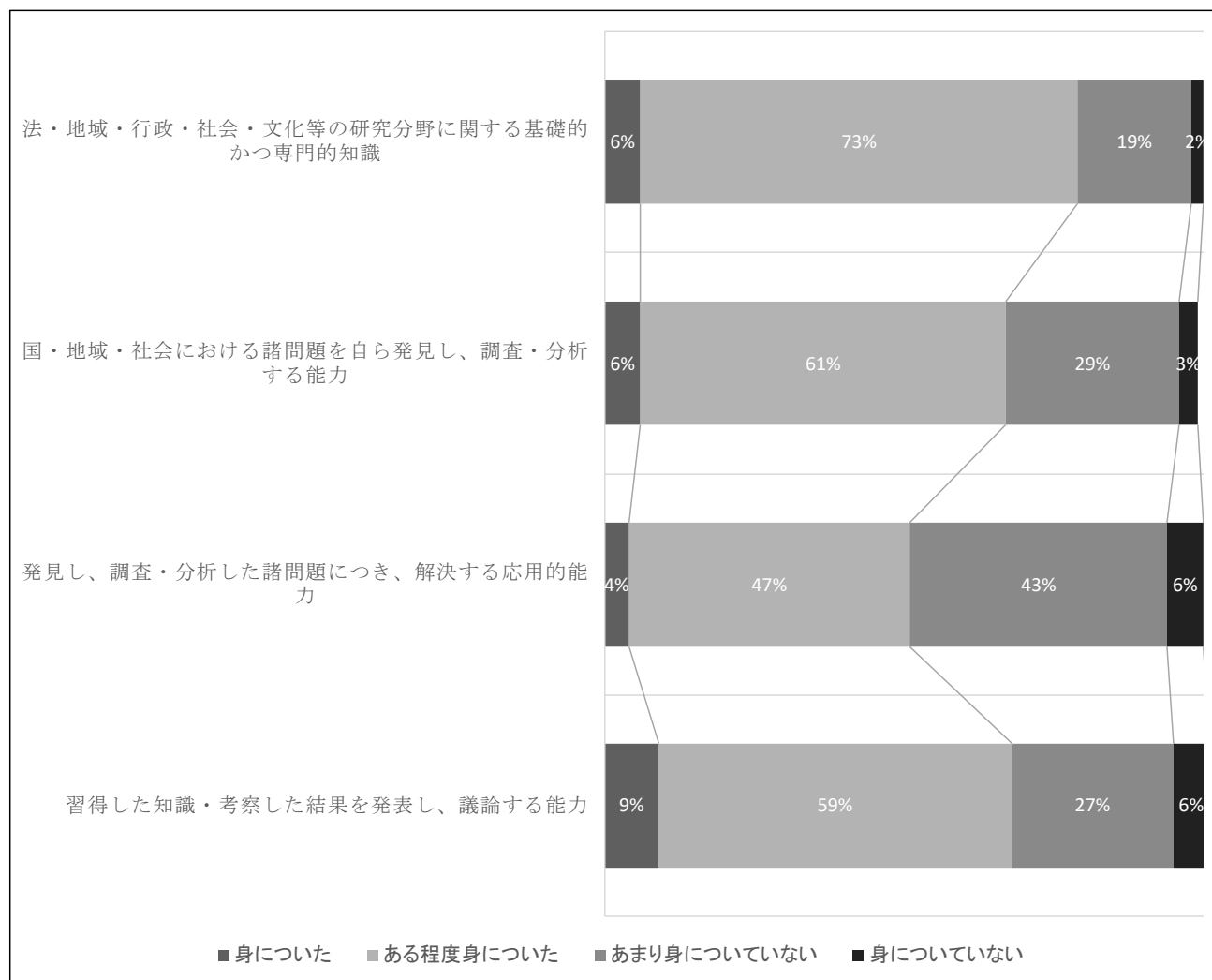
また、各学類についての「改善が求められる点」に関しては、数多くの建設的な意見が寄せられている。是非、本章の第2節をご参照いただきたい。

図 1-13 人間発達文化学類が掲げる能力の修得状況



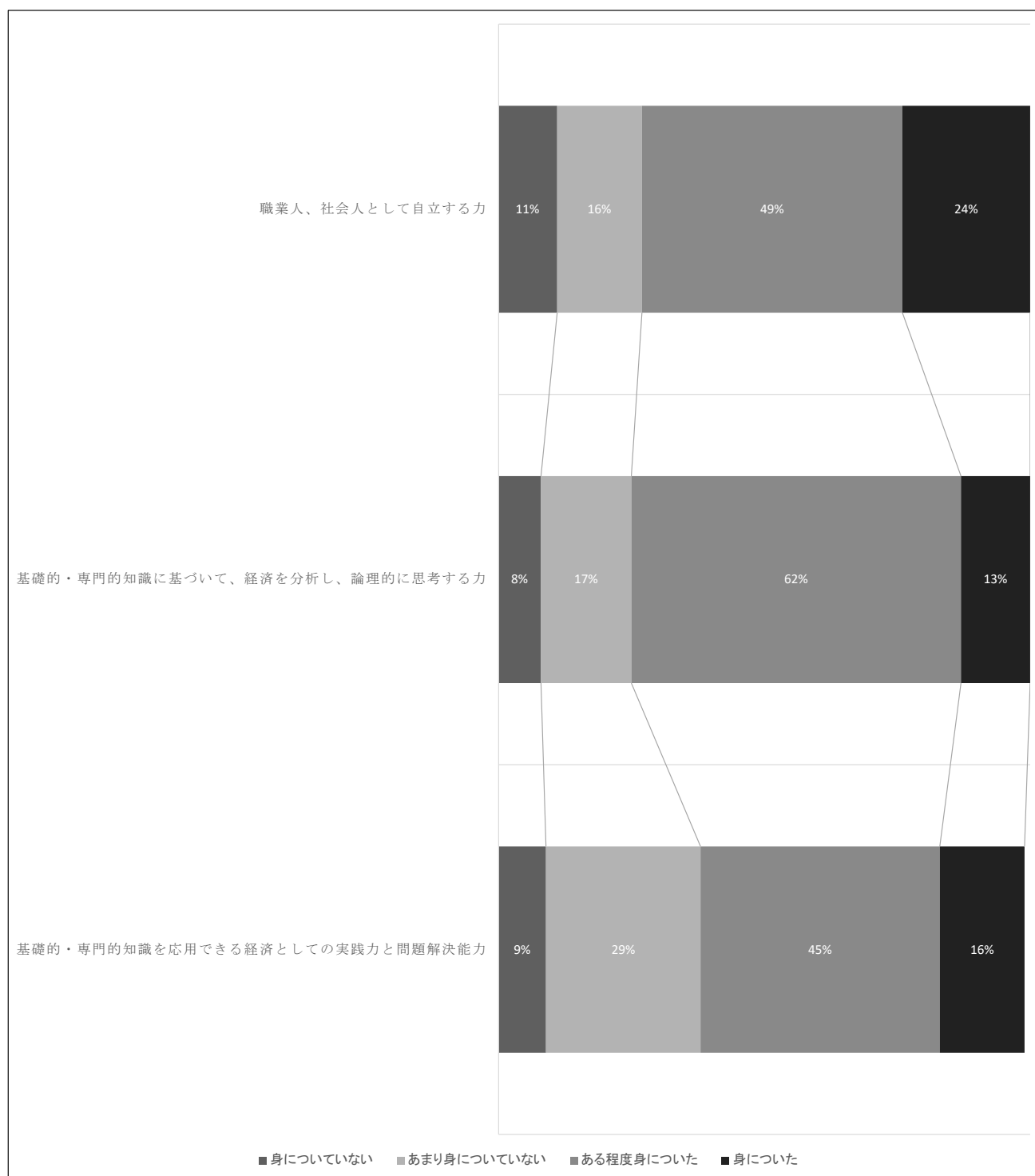
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-14 行政政策学類が掲げる能力の修得状況



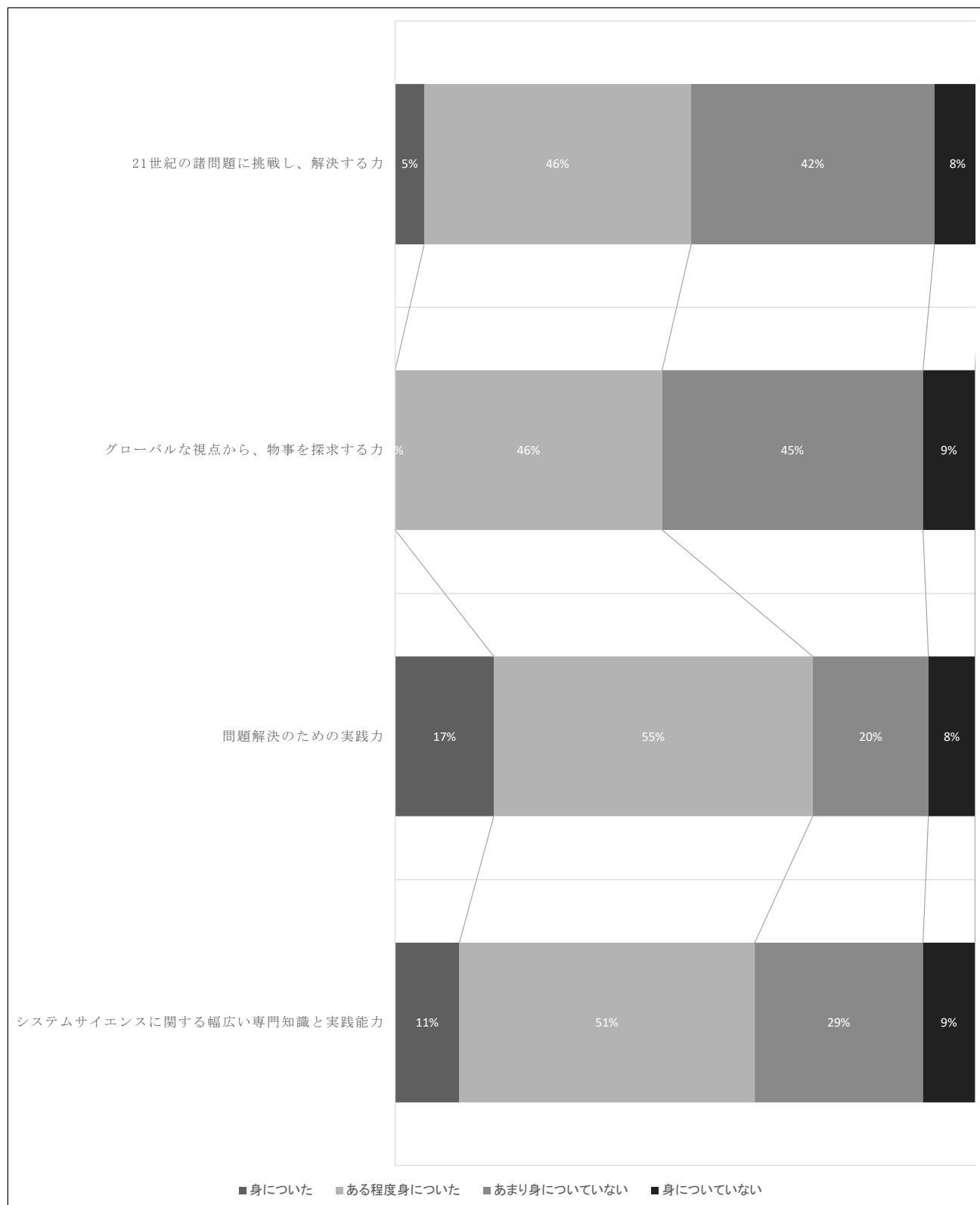
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-15 経済経営学類が掲げる能力の修得状況



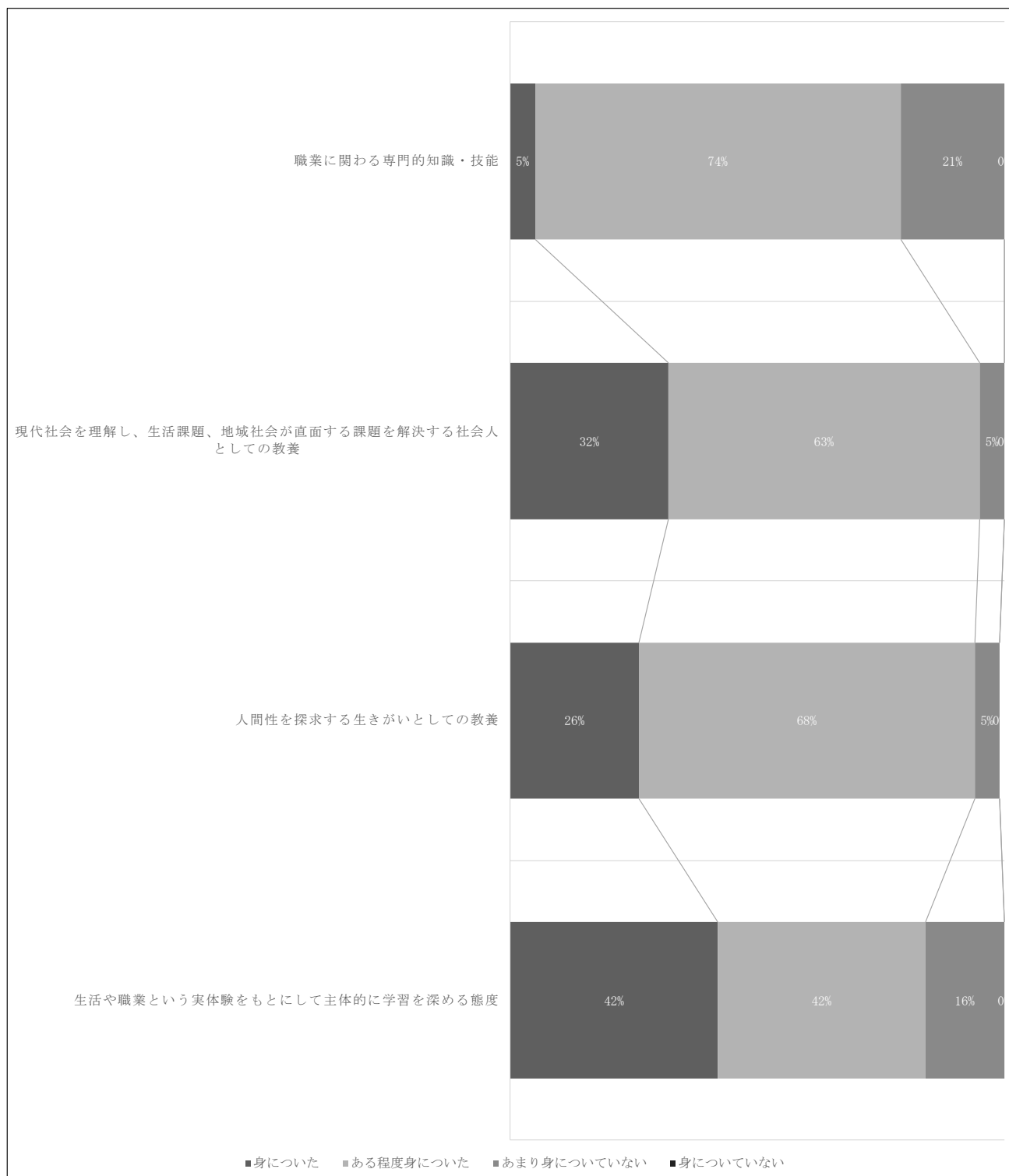
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-16 共生システム理工学類が掲げる能力の修得状況



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-17 現代教養コースが掲げる能力の修得状況



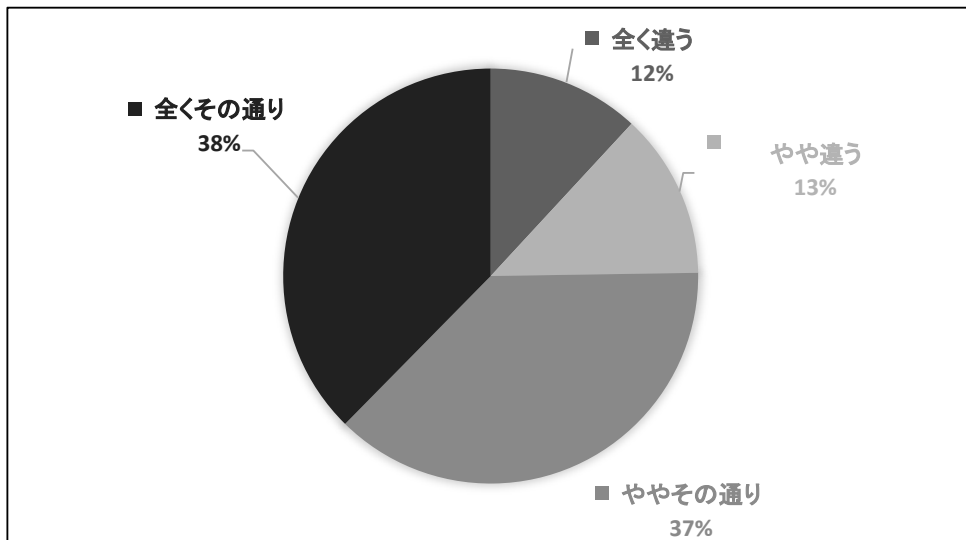
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

◎希望通りの職場・生活

卒業生調査では、希望の通りの職場・職務か、予想通りの生活や状況かについて尋ねている。

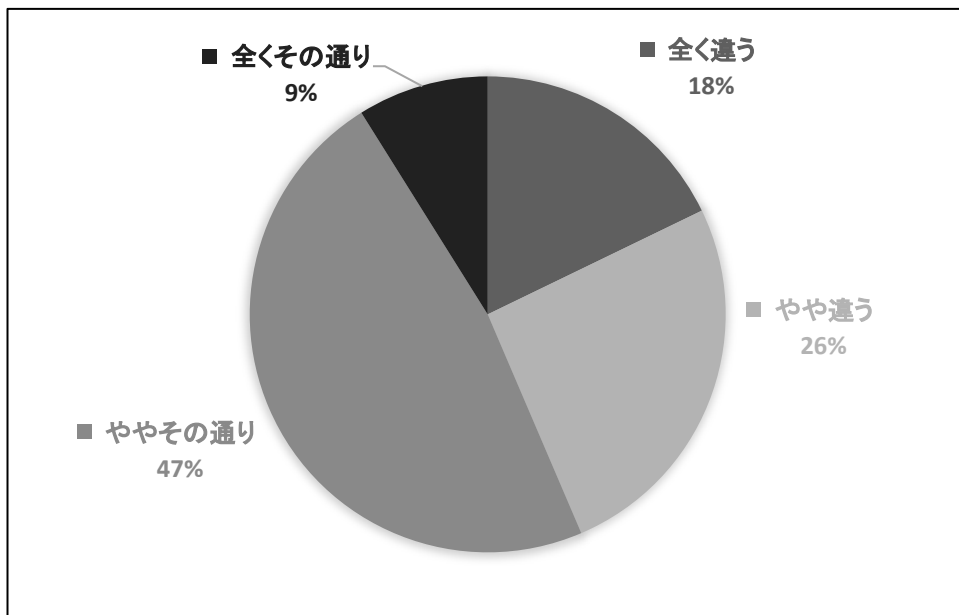
図 1-18 は、「現在の職場、職務はあなたが就職活動時から希望していたものですか」の集計結果を示すものである。希望通りの職場・職務について、「全くその通り」「ややその通りに」の合計割合が 76% であった。また図 1-19 では、「現在の生活や状況について就職活動時から予想していましたか」の集計結果が示されている。予想通りの生活や状況について、「全くその通り」「ややその通りに」の合計で 57% であった。回答者の過半数が、希望通りの職場で、予想通りの生活を送っていることがわかった。

図 1-18 現在の職場、職務はあなたが就職活動時から希望していたものですか。



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 1-19 現在の生活や状況について就職活動時から予想していましたか。



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

◎自由記述

最後に、卒業生調査では、「印象に残っている教育・授業」および「在学中に身につけて欲しいこと」に関して自由記述欄が設けられている。具体的な設問は、「あなたの印象に残っている福島大学での教育・授業などについて自由にご記入ください」「その他、福島大学の学生に、在学中身につけて欲しいことについて自由にご回答ください」となっている。ここでは、学類やコースを越えて共通して見られる意見に触れたい。また、詳細は本章第2節に各学類・コースの別に掲載されているので、そちらをご参照いただきたい。

まず、「印象に残っている教育・授業」については、地域に関わる授業（ふくしま未来学、震災、フィールドワーク）が言及される傾向にある。また、ゼミについても印象深いとされている。

次に「在学中に身につけて欲しいこと」については、前回の調査と同様に、コミュニケーション能力や外国語能力など、発信力に関連する意見が複数みられた。また、関心を追求する力や自主学習など、学び習慣に関する意見も少なくない。さらに、学問や社会参加、地域課題に対して積極的に関与してほしい声もあった。

このような「福島大学での学生生活の評価」や「後輩に身につけて欲しいこと」などについては、多くの建設的な意見が寄せられている。個人情報保護のため自由記述の掲載を割愛した。

第2節 単純集計

第1項 人間発達文化学類の卒業生

I. あなたの福島大学への在学経験と教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学(学類)への入学年/卒業年を西暦でお答えください。

入学	2012	5(3%)	卒業	2016	9(5%)
	2013	21(12%)		2017	19(11%)
	2014	34(20%)		2018	31(18%)
	2015	28(16%)		2019	27(16%)
	2016	24(14%)		2020	26(15%)
	2017	26(15%)		2021	28(16%)
	2018	29(17%)		2022	28(16%)
	2019	1(1%)		未記入	2(1%)
	未記入	2(1%)		計	170(100%)
	計	170(100%)			

Q3：学類卒業後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	160(94%)
福島大学の大学院博士前期課程・修士課程	5(3%)
他大学の大学院博士前期課程・修士課程	4(2%)
その他	1(1%)
未記入	0(0%)
計	170(100%)

Q4-Q11：大学在籍時の福島大学の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q4 出席を重視	91(54%)	72(42%)	4(2%)	3(2%)	0(0%)	170(100%)
Q5 小テスト・課題が頻繁	21(12%)	91(54%)	54(32%)	3(2%)	1(1%)	170(100%)
Q6 厳しい成績評価	4(2%)	88(52%)	70(41%)	8(5%)	0(0%)	170(100%)
Q7 学生「参加型」の授業	48(28%)	85(50%)	35(21%)	2(1%)	0(0%)	170(100%)
Q8 課題成果の発表・報告	26(15%)	95(56%)	44(26%)	5(3%)	0(0%)	170(100%)
Q9 チームでの課題取組み	48(28%)	90(53%)	26(15%)	6(4%)	0(0%)	170(100%)
Q10 外国語に接する	28(16%)	87(51%)	48(28%)	7(4%)	0(0%)	170(100%)
Q11 理解度や興味への配慮	18(11%)	96(56%)	49(29%)	7(4%)	0(0%)	170(100%)

Q12-Q19：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q12 出席を重視	27(16%)	109(64%)	31(18%)	3(2%)	0(0%)	170(100%)
Q13 小テスト・課題が頻繁	16(9%)	118(69%)	33(19%)	3(2%)	0(0%)	170(100%)
Q14 厳しい成績評価	8(5%)	110(65%)	43(25%)	9(5%)	0(0%)	170(100%)
Q15 学生「参加型」の授業	101(59%)	59(35%)	8(5%)	1(1%)	1(1%)	170(100%)
Q16 課題成果の発表・報告	70(41%)	84(49%)	15(9%)	1(1%)	0(0%)	170(100%)
Q17 チームでの課題取組み	92(54%)	64(38%)	10(6%)	3(2%)	1(1%)	170(100%)
Q18 外国語に接する	70(41%)	85(50%)	14(8%)	1(1%)	0(0%)	170(100%)
Q19 理解度や興味への配慮	99(58%)	61(36%)	9(5%)	1(1%)	0(0%)	170(100%)

Q20-Q42：以下の福島大学の教育内容は、現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連していますか。

		関連している	やや関連している	あまり関連していない	関連していない	未履修	未記入	計
制度全般	Q20 GPA 制度	2 (1%)	39 (23%)	56 (33%)	72 (42%)		1 (1%)	170 (100%)
	Q21 CAP 制度	8 (5%)	26 (15%)	63 (37%)	69 (41%)		4 (2%)	170 (100%)
	Q22 クラス制度	24 (14%)	46 (27%)	51 (30%)	47 (28%)		2 (1%)	170 (100%)
	Q23 アドバイザー制度	14 (8%)	54 (32%)	52 (31%)	49 (29%)		1 (1%)	170 (100%)
	Q24 自己デザイン領域	14 (8%)	71 (42%)	55 (32%)	29 (17%)		1 (1%)	170 (100%)
	Q25 特修プログラム (英語、情報)	12 (7%)	59 (35%)	62 (36%)	36 (21%)		1 (1%)	170 (100%)
自己デザイン領域／共通領域	Q26 総合科目	21 (12%)	73 (43%)	51 (30%)	24 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	170 (100%)
	Q27 広域選択科目	25 (15%)	79 (46%)	41 (24%)	23 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	170 (100%)
	Q28 外国語科目	25 (15%)	52 (31%)	62 (36%)	30 (18%)	1 (1%)	0 (0%)	170 (100%)
	Q29 情報教育科目	40 (24%)	88 (52%)	28 (16%)	12 (7%)	2 (1%)	0 (0%)	170 (100%)
	Q30 健康・運動科目	28 (16%)	63 (37%)	40 (24%)	37 (22%)	2 (1%)	0 (0%)	170 (100%)
	Q31 教養演習	47 (28%)	58 (34%)	36 (21%)	27 (16%)	1 (1%)	1 (1%)	170 (100%)
	Q32 キャリア形成論	35 (21%)	64 (38%)	45 (26%)	23 (14%)	2 (1%)	1 (1%)	170 (100%)
	Q33 キャリアモデル学習	27 (16%)	63 (37%)	49 (29%)	24 (14%)	6 (4%)	1 (1%)	170 (100%)
	Q34 インターンシップ (単位認定)	15 (9%)	44 (26%)	36 (21%)	42 (25%)	32 (19%)	1 (1%)	170 (100%)
Q35 自己学習プログラム	22 (13%)	59 (35%)	41 (24%)	30 (18%)	17 (10%)	1 (1%)	170 (100%)	
専門領域	Q36 学群共通科目	24 (14%)	67 (39%)	57 (34%)	20 (12%)	1 (1%)	1 (1%)	170 (100%)
	Q37 学類共通科目	28 (16%)	75 (44%)	45 (26%)	21 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	170 (100%)
	Q38 学類基礎科目	34 (20%)	73 (43%)	42 (25%)	20 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	170 (100%)
	Q39 学類専門科目	48 (28%)	69 (41%)	33 (19%)	17 (10%)	1 (1%)	2 (1%)	170 (100%)
	Q40 各種実践・実習科目	64 (38%)	54 (32%)	28 (16%)	20 (12%)	3 (2%)	1 (1%)	170 (100%)
	Q41 卒業演習・研究	48 (28%)	61 (36%)	37 (22%)	23 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	170 (100%)
Q42 自由選択領域	35 (21%)	73 (43%)	38 (22%)	22 (13%)	1 (1%)	1 (1%)	170 (100%)	

Ⅱ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q43：就職した年を西暦でお答えください。

就職	2016	2(1%)
	2017	23(14%)
	2018	24(14%)
	2019	29(17%)
	2020	22(13%)
	2021	29(17%)
	2022	32(19%)
	2023	2(1%)
	未記入	8(5%)
	計	170(100%)

Q44/Q45：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	1(1%)
	2 鉱業	0(0%)
	3 建設業	1(1%)
	4 製造業	6(4%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	0(0%)
	6 情報通信業	5(3%)
	7 運輸業	0(0%)
	8 卸売・小売業	11(6%)
	9 金融・保険業	4(2%)
	10 不動産業	2(1%)
	11 飲食店、宿泊業	1(1%)
	12 医療、福祉	17(10%)
	13 教育、学習支援業	87(51%)
	14 複合サービス事業	6(4%)
	15 他に分類されないサービス業	4(2%)
	16 他に分類されない公務	18(11%)
	17 その他	2(1%)
	未記入	5(3%)
	計	170(100%)

職種	1 一般事務	30(18%)
	2 営業・販売職	16(9%)
	3 サービス職	22(13%)
	4 技術職	4(2%)
	5 専門職	63(37%)
	6 その他	19(11%)
		未記入
	計	170(100%)

※その他内訳

スクール運営	1
医療事務	1
企画職	2
教育	2
教育公務員	1
教員	10
専業主婦	2

※その他内訳

専業主婦	2
------	---

Q46：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	17(10%)
	2 30-99名	24(14%)
	3 100-499名	31(18%)
	4 500-999名	6(4%)
	5 1,000-4,999名	9(5%)
	6 5,000-9,999名	6(4%)
	7 10,000名以上	2(1%)
	官庁(国家公務)	2(1%)
	地方公共団体(地方公務)	19(11%)
	学校(教育機関)	45(26%)
	公団・事業団等(準公務)	2(1%)
	その他	1(1%)
	未記入	6(4%)
	計	170(100%)

Q47：現在の年収(総支給額)について、当てはまるものをひとつ選んでください。

規模	収入はない	2(1%)
	200万円未満	9(5%)
	200-299万円	54(32%)
	300-399万円	61(36%)
	400-499万円	24(14%)
	500-599万円	3(2%)
	600-699万円	1(1%)
	1300-1399万円	1(1%)
	分からない・答えたくない	11(6%)
	未記入	4(2%)
	計	170(100%)

Q48-Q52：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q48 卒業した大学	19(11%)	57(34%)	62(36%)	27(16%)	5(3%)	170(100%)
Q49 卒業時の専門分野	45(26%)	50(29%)	50(29%)	20(12%)	0(0%)	170(100%)
Q50 成績	14(8%)	49(29%)	69(41%)	33(19%)	0(0%)	170(100%)
Q51 サークル等での実績	8(5%)	37(22%)	67(39%)	53(31%)	5(3%)	170(100%)
Q52 人的なネットワーク	19(11%)	46(27%)	65(38%)	35(21%)	5(3%)	170(100%)

Q53-Q55：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分のれた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	働く上で重要な能力	自分の優れた能力	自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	146(88%)	53(33%)	66(40%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	117(71%)	25(16%)	96(59%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	138(84%)	50(31%)	54(33%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	126(76%)	51(32%)	54(33%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	124(75%)	29(18%)	60(37%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	77(47%)	18(11%)	97(59%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	129(78%)	29(18%)	79(48%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	142(86%)	110(68%)	22(13%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	129(78%)	94(58%)	29(18%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	130(79%)	77(48%)	28(17%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	132(80%)	100(62%)	11(7%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	144(87%)	71(44%)	60(37%)

注：ここでのパーセントは全体(170)を分母とした場合の割合。

Q56-Q65：現在のお仕事において、下記の大学時代の経験ほどの程度重要だと思えますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q56 大学進学時に獲得した基礎学力	41(24%)	98(58%)	18(11%)	8(5%)	5(3%)	170(100%)
Q57 学問を修得することによる考え方の訓練	61(36%)	87(51%)	17(10%)	0(0%)	5(3%)	170(100%)
Q58 専門分野の修得による考え方の訓練	68(40%)	80(47%)	11(6%)	5(3%)	6(4%)	170(100%)
Q59 未知のことに目をひらかせられる経験	64(38%)	81(48%)	14(8%)	5(3%)	6(4%)	170(100%)
Q60 先端の学問に触れることによる知的好奇心	60(35%)	74(44%)	26(15%)	3(2%)	7(4%)	170(100%)
Q61 卒業論文・卒業研究等の経験	52(31%)	61(36%)	43(25%)	9(5%)	5(3%)	170(100%)
Q62 アルバイトの経験	83(49%)	62(36%)	16(9%)	4(2%)	5(3%)	170(100%)
Q63 研究室・ゼミでの経験	51(30%)	75(44%)	33(19%)	5(3%)	6(4%)	170(100%)
Q64 教員との交流	59(35%)	71(42%)	27(16%)	7(4%)	6(4%)	170(100%)
Q65 友人・先輩との交流	104(61%)	51(30%)	7(4%)	3(2%)	5(3%)	170(100%)

Q66-Q86：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q66 幅広い教養	9(5%)	95(56%)	60(35%)	1(1%)	5(3%)	170(100%)
Q67 多角的・総合的な思考	13(8%)	90(53%)	58(34%)	3(2%)	6(4%)	170(100%)
Q68 学問的思考の基礎	14(8%)	101(59%)	50(29%)	0(0%)	5(3%)	170(100%)
Q69 科学的・数量的に物事を見る力	9(5%)	56(33%)	86(51%)	13(8%)	6(4%)	170(100%)
Q70 外国語の能力	10(6%)	34(20%)	77(45%)	44(26%)	5(3%)	170(100%)
Q71 異文化の理解	21(12%)	70(41%)	61(36%)	10(6%)	8(5%)	170(100%)
Q72 健康や運動に関する科学的認識	26(15%)	52(31%)	66(39%)	21(12%)	5(3%)	170(100%)
Q73 インターネットで情報を適切に集める力	52(31%)	85(50%)	27(16%)	0(0%)	6(4%)	170(100%)
Q74 自ら学びをデザインする主体性	14(8%)	77(45%)	66(39%)	8(5%)	5(3%)	170(100%)
Q75 自ら学修する習慣	29(17%)	82(48%)	49(29%)	5(3%)	5(3%)	170(100%)
Q76 コミュニケーション力	45(26%)	79(46%)	38(22%)	3(2%)	5(3%)	170(100%)
Q77 自ら人間関係をつくる力	39(23%)	68(40%)	47(28%)	11(6%)	5(3%)	170(100%)
Q78 自らを律して行動できる力	40(24%)	87(51%)	31(18%)	6(4%)	6(4%)	170(100%)
Q79 必要な場合のリーダーシップの発揮	24(14%)	77(45%)	57(34%)	7(4%)	5(3%)	170(100%)
Q80 プレゼンテーション力	14(8%)	58(34%)	84(49%)	9(5%)	5(3%)	170(100%)
Q81 課題探究能力	11(6%)	85(50%)	64(38%)	4(2%)	6(4%)	170(100%)
Q82 キャリアデザイン力	4(2%)	67(39%)	80(47%)	14(8%)	5(3%)	170(100%)
Q83 複数の活動を調整する能力	28(16%)	85(50%)	43(25%)	8(5%)	6(4%)	170(100%)
Q84 大学で学んだ専門知識	27(16%)	87(51%)	47(28%)	4(2%)	5(3%)	170(100%)
Q85 グローバルな課題への関心	15(9%)	56(33%)	72(42%)	22(13%)	5(3%)	170(100%)
Q86 地域的な課題への関心	22(13%)	86(51%)	47(28%)	10(6%)	5(3%)	170(100%)

Q87-Q88：現在の職場、職務はあなたが就職活動時から希望していたものですか。また、現在の生活や状況について就職活動時から予想していましたか。

	全くその通り	ややその通り	やや違う	全く違う	未記入	計
Q87 現在の職場・職務を希望していたか	88(52%)	45(26%)	18(11%)	14(8%)	5(3%)	170(100%)
Q88 現在の生活や状況を予想していたか	19(11%)	81(48%)	43(25%)	22(13%)	5(3%)	170(100%)

Ⅲ. 学類・各専攻の教育についてお伺いします

Q89-Q96：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【人間発達文化学類の卒業生全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
a 教え育む力						
Q89 成長を支援する力	24(14%)	108(64%)	28(16%)	6(4%)	4(2%)	170(100%)
Q90 文化を育む力	13(8%)	94(55%)	55(32%)	4(2%)	4(2%)	170(100%)
b 理解し探求する力						
Q91 人間に対する深い理解力	46(27%)	98(58%)	18(11%)	4(2%)	4(2%)	170(100%)
Q92 文化を探求する力	36(21%)	103(61%)	22(13%)	3(2%)	6(4%)	170(100%)
c 人や文化と関わる力						
Q93 コミュニケーションを実践する力	46(27%)	101(59%)	16(9%)	3(2%)	4(2%)	170(100%)
Q94 学問・文化を実社会で活用する力	28(16%)	95(56%)	37(22%)	4(2%)	6(4%)	170(100%)
d 解決し想像する力						
Q95 共同性を創造し深化する力	51(30%)	102(60%)	11(6%)	2(1%)	4(2%)	170(100%)
Q96 課題発見・解決能力	21(12%)	113(66%)	29(17%)	3(2%)	4(2%)	170(100%)

Q97：所属していた専攻

専攻	人間発達専攻	70(41%)
	文化探究専攻	67(39%)
	スポーツ・芸術創造専攻	33(19%)
	計	170(100%)

Q98-Q108：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【各専攻の卒業生別】		身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
人間発達専攻	Q98 エデュケーターとしての自覚と実践的能力や現在の社会状況と人間発達の課題を関連づける力	24(34%)	44(63%)	1(1%)	1(1%)	0(0%)	70(100%)
	Q99 深い人間理解と愛情に根ざし、人間発達に関する専門的学識を身につけ発達の支援を行うとする力	19(27%)	45(64%)	5(7%)	1(1%)	0(0%)	70(100%)
	Q100 多様なコミュニケーションスキルに根ざし、人間関係を形成する力	18(26%)	41(59%)	10(14%)	1(1%)	0(0%)	70(100%)
	Q101 集団的英知にもとづいて、自らの実践を深く省察し実践を改善する力	19(27%)	45(64%)	5(7%)	0(0%)	1(1%)	70(100%)
文化探究専攻	Q102 学問や文化と現実社会との関係を把握し、その知識や技術を伝達する力	16(24%)	38(57%)	11(16%)	1(1%)	1(1%)	67(100%)
	Q103 各文化・学問の専門知識と、学問固有の思考法	11(16%)	35(52%)	18(27%)	2(3%)	1(1%)	67(100%)
	Q104 文化と人間発達の関係を捉え、多様な方法で人間に働きかける力	9(13%)	33(49%)	22(33%)	2(3%)	1(1%)	67(100%)
	Q105 物事を論理的・批判的に捉えるとともに、創造的に問題解決にあたらせようとする力	13(19%)	33(49%)	19(28%)	1(1%)	1(1%)	67(100%)
スポーツ・芸術専攻	Q106 スポーツや芸術の担い手として自覚し、人間の成長・発達と諸技術をつなぎ合わせる力	17(52%)	15(45%)	0(0%)	0(0%)	1(3%)	33(100%)
	Q107 スポーツや芸術に関する専門的知識・技術とそれらの意義への理解	13(39%)	18(55%)	1(3%)	0(0%)	1(3%)	33(100%)
	Q108 スポーツや芸術の意義にもとづいて、集団や地域社会のなかで専門技術を活用する力	12(36%)	17(52%)	3(9%)	0(0%)	1(3%)	33(100%)

注：【各専攻の卒業生別】のパーセンテージはQ98の各専攻卒業生数を分母とした場合の割合。(人間発達専攻：70、文化探究専攻：67、スポーツ・芸術創造専攻：33)

IV. あなた自身について伺います。

Q110：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	49 (29%)
	女性	121 (71%)
	未記入	0 (0%)
	計	170 (100%)

Q111：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	22	10 (6%)
	23	23 (14%)
	24	26 (15%)
	25	27 (16%)
	26	32 (19%)
	27	31 (18%)
	28	18 (11%)
	29	1 (1%)
	未記入	2 (1%)
	計	170 (100%)

Q112：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	147 (86%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	10 (6%)
	3 自営業主・家族従業者	1 (1%)
	4 無職	3 (2%)
	5 学生	3 (2%)
	6 その他	5 (3%)
	未記入	1 (1%)
	計	170 (100%)

※その他内訳

教員	1
教諭	1
公務員	1
主婦	1
非常勤講師	1

第2項 行政政策学類の卒業生

I. あなたの福島大学への在学経験と教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学(学類)への入学年/卒業年を西暦でお答えください。

入学	2012	3(3%)	卒業	2015	1(1%)
	2013	12(13%)		2016	4(4%)
	2014	20(21%)		2017	14(15%)
	2015	16(17%)		2018	18(19%)
	2016	9(9%)		2019	15(16%)
	2017	15(16%)		2020	10(11%)
	2018	16(17%)		2021	14(15%)
	2019	1(1%)		2022	17(18%)
	2020	1(1%)		未記入	2(2%)
	未記入	2(2%)		計	95(100%)
	計	95(100%)			

Q3：学類卒業後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	90(95%)
福島大学の大学院博士前期課程・修士課程	1(1%)
他大学の大学院博士前期課程・修士課程	1(1%)
その他	3(3%)
未記入	0(0%)
計	95(100%)

Q4-Q11：大学在籍時の福島大学の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q4 出席を重視	32(34%)	47(49%)	15(16%)	1(1%)	0(0%)	95(100%)
Q5 小テスト・課題が頻繁	7(7%)	43(45%)	42(44%)	3(3%)	0(0%)	95(100%)
Q6 厳しい成績評価	3(3%)	50(53%)	39(41%)	3(3%)	0(0%)	95(100%)
Q7 学生「参加型」の授業	10(11%)	42(44%)	37(39%)	6(6%)	0(0%)	95(100%)
Q8 課題成果の発表・報告	3(3%)	43(45%)	42(44%)	6(6%)	1(1%)	95(100%)
Q9 チームでの課題取組み	4(4%)	33(35%)	46(48%)	12(13%)	0(0%)	95(100%)
Q10 外国語に接する	8(8%)	47(49%)	32(34%)	8(8%)	0(0%)	95(100%)
Q11 理解度や興味への配慮	11(12%)	47(49%)	32(34%)	4(4%)	1(1%)	95(100%)

Q12-Q19：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q12 出席を重視	22(23%)	45(47%)	22(23%)	5(5%)	1(1%)	95(100%)
Q13 小テスト・課題が頻繁	11(12%)	53(56%)	28(29%)	2(2%)	1(1%)	95(100%)
Q14 厳しい成績評価	6(6%)	52(55%)	31(33%)	5(5%)	1(1%)	95(100%)
Q15 学生「参加型」の授業	37(39%)	45(47%)	12(13%)	0(0%)	1(1%)	95(100%)
Q16 課題成果の発表・報告	29(31%)	49(52%)	14(15%)	2(2%)	1(1%)	95(100%)
Q17 チームでの課題取組み	32(34%)	44(46%)	14(15%)	2(2%)	3(3%)	95(100%)
Q18 外国語に接する	30(32%)	44(46%)	18(19%)	2(2%)	1(1%)	95(100%)
Q19 理解度や興味への配慮	40(42%)	49(52%)	3(3%)	2(2%)	1(1%)	95(100%)

Q20-Q42：以下の福島大学の教育内容は、現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連していますか。

		関連している	やや関連している	あまり関連していない	関連していない	未履修	未記入	計
制度全般	Q20 GPA 制度	4(4%)	17(18%)	29(31%)	43(45%)		2(2%)	95(100%)
	Q21 CAP 制度	4(4%)	9(9%)	35(37%)	45(47%)		2(2%)	95(100%)
	Q22 クラス制度	4(4%)	14(15%)	34(36%)	41(43%)		2(2%)	95(100%)
	Q23 アドバイザー制度	4(4%)	15(16%)	38(40%)	37(39%)		1(1%)	95(100%)
	Q24 自己デザイン領域	8(8%)	26(27%)	30(32%)	29(31%)		2(2%)	95(100%)
	Q25 特修プログラム(英語、情報)	5(5%)	25(26%)	34(36%)	31(33%)		0(0%)	95(100%)
自己デザイン領域／共通領域	Q26 総合科目	4(4%)	41(43%)	31(33%)	15(16%)	2(2%)	2(2%)	95(100%)
	Q27 広域選択科目	6(6%)	42(44%)	29(31%)	14(15%)	3(3%)	1(1%)	95(100%)
	Q28 外国語科目	4(4%)	14(15%)	40(42%)	34(36%)	2(2%)	1(1%)	95(100%)
	Q29 情報教育科目	16(17%)	35(37%)	26(27%)	14(15%)	3(3%)	1(1%)	95(100%)
	Q30 健康・運動科目	4(4%)	11(12%)	36(38%)	40(42%)	2(2%)	2(2%)	95(100%)
	Q31 教養演習	10(11%)	38(40%)	20(21%)	22(23%)	2(2%)	3(3%)	95(100%)
	Q32 キャリア形成論	6(6%)	39(41%)	31(33%)	16(17%)	1(1%)	2(2%)	95(100%)
	Q33 キャリアモデル学習	5(5%)	36(38%)	31(33%)	19(20%)	3(3%)	1(1%)	95(100%)
	Q34 インターンシップ(単位認定)	5(5%)	12(13%)	30(32%)	28(29%)	18(19%)	2(2%)	95(100%)
	Q35 自己学習プログラム	2(2%)	16(17%)	34(36%)	26(27%)	16(17%)	1(1%)	95(100%)
専門領域	Q36 学群共通科目	5(5%)	38(40%)	34(36%)	16(17%)	1(1%)	1(1%)	95(100%)
	Q37 学類共通科目	8(8%)	40(42%)	29(31%)	16(17%)	1(1%)	1(1%)	95(100%)
	Q38 学類基礎科目	8(8%)	44(46%)	24(25%)	17(18%)	1(1%)	1(1%)	95(100%)
	Q39 学類専門科目	12(13%)	39(41%)	22(23%)	19(20%)	1(1%)	2(2%)	95(100%)
	Q40 各種実践・実習科目	8(8%)	27(28%)	27(28%)	21(22%)	10(11%)	2(2%)	95(100%)
	Q41 卒業演習・研究	17(18%)	25(26%)	22(23%)	27(28%)	2(2%)	2(2%)	95(100%)
	Q42 自由選択領域	5(5%)	38(40%)	29(31%)	20(21%)	2(2%)	1(1%)	95(100%)

Ⅱ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q43：就職した年を西暦でお答えください。

就職	2016	2 (2%)
	2017	13 (14%)
	2018	17 (18%)
	2019	15 (16%)
	2020	11 (12%)
	2021	16 (17%)
	2022	15 (16%)
	未記入	6 (6%)
	計	95 (100%)

Q44/Q45：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	1 (1%)
	2 鉱業	0 (0%)
	3 建設業	2 (2%)
	4 製造業	9 (9%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	2 (2%)
	6 情報通信業	5 (5%)
	7 運輸業	3 (3%)
	8 卸売・小売業	5 (5%)
	9 金融・保険業	5 (5%)
	10 不動産業	1 (1%)
	11 飲食店、宿泊業	0 (0%)
	12 医療、福祉	10 (11%)
	13 教育、学習支援業	6 (6%)
	14 複合サービス事業	1 (1%)
	15 他に分類されないサービス業	5 (5%)
	16 他に分類されない公務	38 (40%)
	17 その他	0 (0%)
	未記入	2 (2%)
	計	95 (100%)

職種	1 一般事務	58 (61%)
	2 営業・販売職	11 (12%)
	3 サービス職	7 (7%)
	4 技術職	3 (3%)
	5 専門職	8 (8%)
	6 その他	1 (1%)
		未記入
	計	95 (100%)

※その他内訳

ケースワーカー

1

Q46：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	3 (3%)	
	2 30-99名	11 (12%)	
	3 100-499名	19 (20%)	
	4 500-999名	6 (6%)	
	5 1,000-4,999名	8 (8%)	
	6 5,000-9,999名	4 (4%)	
	7 10,000名以上	6 (6%)	
	官庁(国家公務)	6 (6%)	
	地方公共団体(地方公務)	25 (26%)	
	学校(教育機関)	2 (2%)	
	公団・事業団等(準公務)	3 (3%)	
	その他	0 (0%)	
		未記入	2 (2%)
		計	95 (100%)

Q47：現在の年収（総支給額）について、当てはまるものをひとつ選んでください。

年収	収入はない	0(0%)
	200万円未満	5(5%)
	200-299万円	34(36%)
	300-399万円	35(37%)
	400-499万円	12(13%)
	500-599万円	2(2%)
	600-699万円	2(2%)
	700-799万円	1(1%)
	分からない・答えたくない	2(2%)
	未記入	2(2%)
計	95(100%)	

Q48-Q52：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q48 卒業した大学	8(8%)	35(37%)	32(34%)	17(18%)	3(3%)	95(100%)
Q49 卒業時の専門分野	6(6%)	28(29%)	37(39%)	21(22%)	3(3%)	95(100%)
Q50 成績	2(2%)	33(35%)	34(36%)	23(24%)	3(3%)	95(100%)
Q51 サークル等での実績	6(6%)	20(21%)	36(38%)	30(32%)	3(3%)	95(100%)
Q52 人的なネットワーク	7(7%)	23(24%)	33(35%)	29(31%)	3(3%)	95(100%)

Q53-Q55：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分のれた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	働く上で重要な能力	自分の優れた能力	自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	69(75%)	23(26%)	34(37%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	53(58%)	7(8%)	48(52%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	59(64%)	18(20%)	25(27%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	56(61%)	24(27%)	25(27%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	55(60%)	18(20%)	26(28%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	24(26%)	6(7%)	57(62%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	62(67%)	13(14%)	42(46%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	72(78%)	61(68%)	4(4%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	67(73%)	44(49%)	7(8%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	57(62%)	41(46%)	9(10%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	67(73%)	51(57%)	7(8%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	78(85%)	31(34%)	33(36%)

注：ここでのパーセントは全体（95）を分母とした場合の割合。

Q56-Q65：現在のお仕事において、下記の大学時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q56 大学進学時に獲得した基礎学力	17 (18%)	52 (55%)	14 (15%)	10 (11%)	2 (2%)	95 (100%)
Q57 学問を修得することによる考え方の訓練	28 (29%)	47 (49%)	11 (12%)	6 (6%)	3 (3%)	95 (100%)
Q58 専門分野の修得による考え方の訓練	21 (22%)	52 (55%)	13 (14%)	7 (7%)	2 (2%)	95 (100%)
Q59 未知のことに目をひらかせられる経験	26 (27%)	37 (39%)	21 (22%)	8 (8%)	3 (3%)	95 (100%)
Q60 先端の学問に触れることによる知的好奇心	19 (20%)	36 (38%)	27 (28%)	11 (12%)	2 (2%)	95 (100%)
Q61 卒業論文・卒業研究等の経験	19 (20%)	37 (39%)	26 (27%)	11 (12%)	2 (2%)	95 (100%)
Q62 アルバイトの経験	35 (37%)	37 (39%)	14 (15%)	7 (7%)	2 (2%)	95 (100%)
Q63 研究室・ゼミでの経験	31 (33%)	41 (43%)	14 (15%)	7 (7%)	2 (2%)	95 (100%)
Q64 教員との交流	10 (11%)	43 (45%)	31 (33%)	9 (9%)	2 (2%)	95 (100%)
Q65 友人・先輩との交流	34 (36%)	44 (46%)	8 (8%)	7 (7%)	2 (2%)	95 (100%)

Q66-Q86：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q66 幅広い教養	6(6%)	54(57%)	27(28%)	6(6%)	2(2%)	95(100%)
Q67 多角的・総合的な思考	8(8%)	53(56%)	27(28%)	2(2%)	5(5%)	95(100%)
Q68 学問的思考の基礎	6(6%)	48(51%)	32(34%)	5(5%)	4(4%)	95(100%)
Q69 科学的・数量的に物事を見る力	4(4%)	24(25%)	54(57%)	11(12%)	2(2%)	95(100%)
Q70 外国語の能力	4(4%)	14(15%)	47(49%)	28(29%)	2(2%)	95(100%)
Q71 異文化の理解	13(14%)	38(40%)	31(33%)	11(12%)	2(2%)	95(100%)
Q72 健康や運動に関する科学的認識	6(6%)	31(33%)	42(44%)	13(14%)	3(3%)	95(100%)
Q73 インターネットで情報を適切に集める力	20(21%)	56(59%)	15(16%)	1(1%)	3(3%)	95(100%)
Q74 自ら学びをデザインする主体性	9(9%)	32(34%)	46(48%)	6(6%)	2(2%)	95(100%)
Q75 自ら学修する習慣	9(9%)	41(43%)	39(41%)	3(3%)	3(3%)	95(100%)
Q76 コミュニケーション力	18(19%)	43(45%)	30(32%)	2(2%)	2(2%)	95(100%)
Q77 自ら人間関係をつくる力	17(18%)	37(39%)	32(34%)	7(7%)	2(2%)	95(100%)
Q78 自らを律して行動できる力	18(19%)	49(52%)	20(21%)	5(5%)	3(3%)	95(100%)
Q79 必要な場合のリーダーシップの発揮	9(9%)	32(34%)	40(42%)	12(13%)	2(2%)	95(100%)
Q80 プレゼンテーション力	12(13%)	23(24%)	40(42%)	18(19%)	2(2%)	95(100%)
Q81 課題探究能力	6(6%)	35(37%)	46(48%)	5(5%)	3(3%)	95(100%)
Q82 キャリアデザイン力	4(4%)	34(36%)	46(48%)	9(9%)	2(2%)	95(100%)
Q83 複数の活動を調整する能力	7(7%)	46(48%)	36(38%)	4(4%)	2(2%)	95(100%)
Q84 大学で学んだ専門知識	11(12%)	38(40%)	33(35%)	11(12%)	2(2%)	95(100%)
Q85 グローバルな課題への関心	8(8%)	30(32%)	41(43%)	14(15%)	2(2%)	95(100%)
Q86 地域的な課題への関心	20(21%)	46(48%)	22(23%)	5(5%)	2(2%)	95(100%)

Q87-Q88：現在の職場、職務はあなたが就職活動時から希望していたものですか。また、現在の生活や状況について就職活動時から予想していましたか。

	全くその通り	ややその通り	やや違う	全く違う	未記入	計
Q87 現在の職場・職務を希望していたか	33(35%)	37(39%)	11(12%)	11(12%)	3(3%)	95(100%)
Q88 現在の生活や状況を予想していたか	4(4%)	48(51%)	20(21%)	20(21%)	3(3%)	95(100%)

Ⅲ. 学類・各専攻の教育についてお伺いします

Q89-Q92：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【行政政策学類の卒業生全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
Q89 法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識	6(6%)	69(73%)	18(19%)	2(2%)	0(0%)	95(100%)
Q90 国・地域・社会における諸問題を自ら発見し、調査・分析する能力	6(6%)	57(60%)	27(28%)	3(3%)	2(2%)	95(100%)
Q91 発見し、調査・分析した諸問題につき、解決する応用的能力	4(4%)	44(46%)	40(42%)	6(6%)	1(1%)	95(100%)
Q92 習得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力	8(8%)	55(58%)	25(26%)	6(6%)	1(1%)	95(100%)

Q93：所属していた専攻

専攻	法学専攻	24(25%)
	地域と行政専攻	38(40%)
	社会と文化専攻	33(35%)
	計	95(100%)

Q94-Q105：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【各専攻の卒業生別】		身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
法学専攻	Q94 法学のみならず、政治学・行政学や、社会学・比較文化に視野を広げ、深い洞察力を身に付けた上での政策法務的な「法的な思考」	4(17%)	17(71%)	3(13%)	0(0%)	0(0%)	24(100%)
	Q95 市民としての政治参加、裁判員制度、企業法務、公務員としての法的実践などに適応し、地域の複雑かつ多様な社会現象に法的に対応する力	2(8%)	18(75%)	4(17%)	0(0%)	0(0%)	24(100%)
	Q96 国および地域の法的問題を自ら発見し、必要な法令・判例や文献の調べ方・読み方・まとめ方・報告の仕方などの基本的技術を活用して、問題を解決する力	2(8%)	16(67%)	6(25%)	0(0%)	0(0%)	24(100%)
	Q97 習得した知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、異文化理解能力およびコミュニケーション能力など	4(17%)	11(46%)	7(29%)	2(8%)	0(0%)	24(100%)
地域と行政専攻	Q98 政治・行政・社会にかかわる研究分野の基礎的知識	3(8%)	24(63%)	11(29%)	0(0%)	0(0%)	38(100%)
	Q99 地域の固有性と多様性を現地調査によって十分に把握し、様々な資料を読み解き、考える力	5(13%)	26(68%)	7(18%)	0(0%)	0(0%)	38(100%)
	Q100 様々な研究分野の関連性を思考しながら、地域社会の諸問題の解決に向けて、積極的に貢献するための能力	4(11%)	22(58%)	11(29%)	0(0%)	1(3%)	38(100%)
	Q101 習得した知識や思考を適切に表現する力、他者と協力して活動できるコミュニケーション能力	9(24%)	22(58%)	6(16%)	1(3%)	0(0%)	38(100%)
社会と文化専攻	Q102 社会学、歴史学、教育学、文化研究等のいずれかについての専門的な知識、及び「社会と文化」の研究にかかわる学際的な基礎知識	10(30%)	16(48%)	4(12%)	1(3%)	2(6%)	33(100%)
	Q103 現代社会の諸問題、地域社会の問題や、歴史理解、異文化理解、国際交流等にかかわる問題を、みずから発見し、考察し、その解明・解決の方向性を見出す力	5(15%)	19(58%)	7(21%)	1(3%)	1(3%)	33(100%)
	Q104 文献や資料その他の必要な情報源を見つけ出し、それらを解読し、その成果をみずからの立てた問題に照らして、活用する力	8(24%)	19(58%)	4(12%)	1(3%)	1(3%)	33(100%)
	Q105 みずからの考察の成果を文章によって論理的に表現する力、意見交換や討議を尊重しつつ、その成果を的確に伝達する力	5(15%)	19(58%)	7(21%)	1(3%)	1(3%)	33(100%)

注：【各専攻の卒業生別】のパーセンテージは Q94 の各専攻卒業生数を分母とした場合の割合。(法学専攻：24、地域と行政専攻：38、社会と文化専攻：33)

IV. あなた自身について伺います。

Q107：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	48 (51%)
	女性	47 (49%)
	未記入	0 (0%)
	計	95 (100%)

Q108：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	22	7 (7%)
	23	16 (17%)
	24	14 (15%)
	25	9 (9%)
	26	17 (18%)
	27	17 (18%)
	28	11 (12%)
	29	2 (2%)
	未記入	2 (2%)
	計	95 (100%)

Q109：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	88 (93%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	2 (2%)
	3 自営業主・家族従業者	0 (0%)
	4 無職	1 (1%)
	5 学生	2 (2%)
	6 その他	1 (1%)
	未記入	1 (1%)
	計	95 (100%)

第3項 経済経営学類の卒業生

I. あなたの福島大学への在学経験と教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学(学類)への入学年/卒業年を西暦でお答えください。

入学	2012	1(2%)	卒業	2016	1(2%)
	2013	7(13%)		2017	6(11%)
	2014	7(13%)		2018	9(16%)
	2015	8(15%)		2019	8(15%)
	2016	9(16%)		2020	9(16%)
	2017	9(16%)		2021	10(18%)
	2018	12(22%)		2022	12(22%)
	2019	1(2%)		未記入	0(0%)
	未記入	1(2%)		計	55(100%)
	計	55(100%)			

Q3：学類卒業後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	51(93%)
福島大学の大学院博士前期課程・修士課程	2(4%)
他大学の大学院博士前期課程・修士課程	1(2%)
その他	0(0%)
未記入	1(2%)
計	55(100%)

Q4-Q11：大学在籍時の福島大学の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q4 出席を重視	21(38%)	27(49%)	6(11%)	1(2%)	0(0%)	55(100%)
Q5 小テスト・課題が頻繁	6(11%)	29(53%)	18(33%)	2(4%)	0(0%)	55(100%)
Q6 厳しい成績評価	2(4%)	29(53%)	23(42%)	1(2%)	0(0%)	55(100%)
Q7 学生「参加型」の授業	4(7%)	25(45%)	24(44%)	1(2%)	1(2%)	55(100%)
Q8 課題成果の発表・報告	4(7%)	15(27%)	33(60%)	3(5%)	0(0%)	55(100%)
Q9 チームでの課題取組み	3(5%)	27(49%)	23(42%)	2(4%)	0(0%)	55(100%)
Q10 外国語に接する	9(16%)	27(49%)	17(31%)	2(4%)	0(0%)	55(100%)
Q11 理解度や興味への配慮	8(15%)	25(45%)	18(33%)	4(7%)	0(0%)	55(100%)

Q12-Q19：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q12 出席を重視	10(18%)	25(45%)	12(22%)	8(15%)	0(0%)	55(100%)
Q13 小テスト・課題が頻繁	11(20%)	33(60%)	5(9%)	6(11%)	0(0%)	55(100%)
Q14 厳しい成績評価	7(13%)	25(45%)	19(35%)	3(5%)	1(2%)	55(100%)
Q15 学生「参加型」の授業	28(51%)	24(44%)	3(5%)	0(0%)	0(0%)	55(100%)
Q16 課題成果の発表・報告	25(45%)	24(44%)	5(9%)	1(2%)	0(0%)	55(100%)
Q17 チームでの課題取組み	27(49%)	23(42%)	5(9%)	0(0%)	0(0%)	55(100%)
Q18 外国語に接する	25(45%)	22(40%)	6(11%)	1(2%)	1(2%)	55(100%)
Q19 理解度や興味への配慮	32(58%)	17(31%)	3(5%)	3(5%)	0(0%)	55(100%)

Q20-Q42：以下の福島大学の教育内容は、現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連していますか。

		関連している	やや関連している	あまり関連していない	関連していない	未履修	未記入	計
制度全般	Q20 GPA 制度	5 (9%)	12 (22%)	16 (29%)	21 (38%)		1 (2%)	55 (100%)
	Q21 CAP 制度	2 (4%)	10 (18%)	18 (33%)	24 (44%)		1 (2%)	55 (100%)
	Q22 クラス制度	2 (4%)	14 (25%)	21 (38%)	16 (29%)		2 (4%)	55 (100%)
	Q23 アドバイザー制度	5 (9%)	20 (36%)	15 (27%)	14 (25%)		1 (2%)	55 (100%)
	Q24 自己デザイン領域	8 (15%)	18 (33%)	16 (29%)	12 (22%)		1 (2%)	55 (100%)
	Q25 特修プログラム (英語、情報)	10 (18%)	13 (24%)	17 (31%)	14 (25%)		1 (2%)	55 (100%)
自己デザイン領域／共通領域	Q26 総合科目	10 (18%)	20 (36%)	13 (24%)	10 (18%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q27 広域選択科目	8 (15%)	18 (33%)	17 (31%)	10 (18%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q28 外国語科目	6 (11%)	14 (25%)	21 (38%)	12 (22%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q29 情報教育科目	12 (22%)	29 (53%)	7 (13%)	5 (9%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q30 健康・運動科目	4 (7%)	10 (18%)	16 (29%)	23 (42%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q31 教養演習	6 (11%)	23 (42%)	11 (20%)	12 (22%)	0 (0%)	3 (5%)	55 (100%)
	Q32 キャリア形成論	6 (11%)	25 (45%)	13 (24%)	9 (16%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q33 キャリアモデル学習	7 (13%)	21 (38%)	16 (29%)	9 (16%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q34 インターンシップ (単位認定)	4 (7%)	9 (16%)	15 (27%)	16 (29%)	9 (16%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q35 自己学習プログラム	5 (9%)	17 (31%)	13 (24%)	12 (22%)	6 (11%)	2 (4%)	55 (100%)
専門領域	Q36 学群共通科目	10 (18%)	21 (38%)	14 (25%)	7 (13%)	1 (2%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q37 学類共通科目	13 (24%)	22 (40%)	11 (20%)	7 (13%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q38 学類基礎科目	13 (24%)	23 (42%)	11 (20%)	6 (11%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q39 学類専門科目	15 (27%)	22 (40%)	12 (22%)	4 (7%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q40 各種実践・実習科目	9 (16%)	13 (24%)	19 (35%)	10 (18%)	2 (4%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q41 卒業演習・研究	13 (24%)	17 (31%)	10 (18%)	13 (24%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)
	Q42 自由選択領域	6 (11%)	16 (29%)	22 (40%)	9 (16%)	0 (0%)	2 (4%)	55 (100%)

Ⅱ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q43：就職した年を西暦でお答えください。

就職	2016	2(4%)
	2017	6(11%)
	2018	7(13%)
	2019	8(15%)
	2020	7(13%)
	2021	10(18%)
	2022	12(22%)
	未記入	3(5%)
	計	55(100%)

Q44/Q45：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	0(0%)
	2 鉱業	0(0%)
	3 建設業	0(0%)
	4 製造業	4(7%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	2(4%)
	6 情報通信業	5(9%)
	7 運輸業	1(2%)
	8 卸売・小売業	5(9%)
	9 金融・保険業	7(13%)
	10 不動産業	0(0%)
	11 飲食店、宿泊業	1(2%)
	12 医療、福祉	2(4%)
	13 教育、学習支援業	3(5%)
	14 複合サービス事業	7(13%)
	15 他に分類されないサービス業	3(5%)
	16 他に分類されない公務	10(18%)
	17 その他	1(2%)
	未記入	4(7%)
	計	55(100%)

職種	1 一般事務	21(38%)
	2 営業・販売職	13(24%)
	3 サービス職	5(9%)
	4 技術職	4(7%)
	5 専門職	6(11%)
	6 その他	1(2%)
		未記入
	計	55(100%)

※その他内訳
ボランティア

1

※その他内訳
芸術活動

1

Q46：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	4(7%)
	2 30-99名	3(5%)
	3 100-499名	12(22%)
	4 500-999名	1(2%)
	5 1,000-4,999名	10(18%)
	6 5,000-9,999名	2(4%)
	7 10,000名以上	8(15%)
	官庁(国家公務)	1(2%)
	地方公共団体(地方公務)	7(13%)
	学校(教育機関)	1(2%)
	公団・事業団等(準公務)	1(2%)
	その他	2(4%)
	未記入	3(5%)
	計	55(100%)

Q47：現在の年収(総支給額)について、当てはまるものをひとつ選んでください。

収入	収入はない	1(2%)
	200万円未満	4(7%)
	200-299万円	20(36%)
	300-399万円	10(18%)
	400-499万円	10(18%)
	500-599万円	2(4%)
	1500万円以上	1(2%)
	分からない・答えたくない	4(7%)
	未記入	3(5%)
	計	55(100%)

Q48-Q52：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q48 卒業した大学	1(2%)	18(33%)	24(44%)	9(16%)	3(5%)	55(100%)
Q49 卒業時の専門分野	4(7%)	12(22%)	25(45%)	10(18%)	4(7%)	55(100%)
Q50 成績	1(2%)	14(25%)	22(40%)	15(27%)	3(5%)	55(100%)
Q51 サークル等での実績	2(4%)	14(25%)	16(29%)	20(36%)	3(5%)	55(100%)
Q52 人的なネットワーク	6(11%)	14(25%)	22(40%)	10(18%)	3(5%)	55(100%)

Q53-Q55：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分のれた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	働く上で重要な能力	自分の優れた能力	自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	41(79%)	16(31%)	23(46%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	36(69%)	11(22%)	22(44%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	36(69%)	14(27%)	19(38%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	36(69%)	17(33%)	17(34%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	35(67%)	20(39%)	15(30%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	23(44%)	8(16%)	26(52%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	40(77%)	15(29%)	24(48%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	36(69%)	34(67%)	7(14%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	28(54%)	26(51%)	10(20%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	33(63%)	24(47%)	11(22%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	35(67%)	28(55%)	7(14%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	42(81%)	25(49%)	20(40%)

注：ここでのパーセントは全体(55)を分母とした場合の割合。

Q56-Q65：現在のお仕事において、下記の大学時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q56 大学進学時に獲得した基礎学力	9(16%)	26(47%)	12(22%)	5(9%)	3(5%)	55(100%)
Q57 学問を修得することによる考え方の訓練	11(20%)	29(53%)	9(16%)	3(5%)	3(5%)	55(100%)
Q58 専門分野の修得による考え方の訓練	14(25%)	23(42%)	9(16%)	5(9%)	4(7%)	55(100%)
Q59 未知のことに目をひらかせられる経験	12(22%)	26(47%)	11(20%)	3(5%)	3(5%)	55(100%)
Q60 先端の学問に触れることによる知的好奇心	16(29%)	22(40%)	10(18%)	4(7%)	3(5%)	55(100%)
Q61 卒業論文・卒業研究等の経験	6(11%)	20(36%)	18(33%)	8(15%)	3(5%)	55(100%)
Q62 アルバイトの経験	23(42%)	20(36%)	4(7%)	5(9%)	3(5%)	55(100%)
Q63 研究室・ゼミでの経験	15(27%)	23(42%)	9(16%)	5(9%)	3(5%)	55(100%)
Q64 教員との交流	15(27%)	20(36%)	12(22%)	5(9%)	3(5%)	55(100%)
Q65 友人・先輩との交流	25(45%)	18(33%)	6(11%)	3(5%)	3(5%)	55(100%)

Q66-Q86：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q66 幅広い教養	6(11%)	26(47%)	18(33%)	1(2%)	4(7%)	55(100%)
Q67 多角的・総合的な思考	7(13%)	24(44%)	19(35%)	1(2%)	4(7%)	55(100%)
Q68 学問的思考の基礎	5(9%)	26(47%)	17(31%)	2(4%)	5(9%)	55(100%)
Q69 科学的・数量的に物事を見る力	3(5%)	18(33%)	24(44%)	6(11%)	4(7%)	55(100%)
Q70 外国語の能力	3(5%)	7(13%)	26(47%)	15(27%)	4(7%)	55(100%)
Q71 異文化の理解	8(15%)	19(35%)	18(33%)	6(11%)	4(7%)	55(100%)
Q72 健康や運動に関する科学的認識	4(7%)	18(33%)	22(40%)	7(13%)	4(7%)	55(100%)
Q73 インターネットで情報を適切に集める力	13(24%)	30(55%)	6(11%)	1(2%)	5(9%)	55(100%)
Q74 自ら学びをデザインする主体性	4(7%)	19(35%)	19(35%)	9(16%)	4(7%)	55(100%)
Q75 自ら学修する習慣	9(16%)	20(36%)	15(27%)	5(9%)	6(11%)	55(100%)
Q76 コミュニケーション力	15(27%)	20(36%)	11(20%)	5(9%)	4(7%)	55(100%)
Q77 自ら人間関係をつくる力	12(22%)	16(29%)	19(35%)	4(7%)	4(7%)	55(100%)
Q78 自らを律して行動できる力	12(22%)	25(45%)	13(24%)	1(2%)	4(7%)	55(100%)
Q79 必要な場合のリーダーシップの発揮	9(16%)	16(29%)	20(36%)	6(11%)	4(7%)	55(100%)
Q80 プレゼンテーション力	7(13%)	15(27%)	22(40%)	7(13%)	4(7%)	55(100%)
Q81 課題探究能力	3(5%)	18(33%)	27(49%)	3(5%)	4(7%)	55(100%)
Q82 キャリアデザイン力	3(5%)	18(33%)	25(45%)	5(9%)	4(7%)	55(100%)
Q83 複数の活動を調整する能力	10(18%)	17(31%)	20(36%)	4(7%)	4(7%)	55(100%)
Q84 大学で学んだ専門知識	6(11%)	19(35%)	21(38%)	5(9%)	4(7%)	55(100%)
Q85 グローバルな課題への関心	10(18%)	17(31%)	17(31%)	7(13%)	4(7%)	55(100%)
Q86 地域的な課題への関心	19(35%)	21(38%)	8(15%)	2(4%)	5(9%)	55(100%)

Q87-Q88：現在の職場、職務はあなたが就職活動時から希望していたものですか。また、現在の生活や状況について就職活動時から予想していましたか。

	全くその通り	ややその通り	やや違う	全く違う	未記入	計
Q87 現在の職場・職務を希望していたか	10(18%)	26(47%)	8(15%)	8(15%)	3(5%)	55(100%)
Q88 現在の生活や状況を予想していたか	4(7%)	22(40%)	16(29%)	10(18%)	3(5%)	55(100%)

Ⅲ. 学類・各専攻の教育についてお伺いします

Q89-Q91：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【経済経営学類の卒業生全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
Q89 職業人、社会人として自立する力	13(24%)	27(49%)	9(16%)	6(11%)	0(0%)	55(100%)
Q90 基礎的・専門的知識に基づいて、経済社会を分析し、論理的に思考する力	7(13%)	33(60%)	9(16%)	4(7%)	2(4%)	55(100%)
Q91 基礎的・専門的知識を応用できる経済学士としての実践力と問題解決能力	9(16%)	25(45%)	16(29%)	5(9%)	0(0%)	55(100%)

Q92：所属していた専攻

専攻	経済分析専攻	10(18%)
	国際地域経済専攻	20(36%)
	企業経営専攻	25(45%)
	計	55(100%)

Q93-Q95：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【各専攻の卒業生別】		身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	未記入	計
経済分析専攻	Q93 ミクロ・マクロ経済学での諸議論を通して経済のしくみを体系的に理解し、得られた知識を、金融・公共経済をはじめとした経済システムの分析とそのあり方に関する実践的な考察に応用することができる力	2(20%)	6(60%)	2(20%)	0(0%)	0(0%)	10(100%)
国際地域経済専攻	Q94 経済学的素養に基づく理論的、歴史的、政策的見地に加えてグローバルな知識を身に付けて今日の経済社会を理解し、国際社会と地域社会の課題に理論的実践的に取り組むことができる力	4(20%)	12(60%)	2(10%)	1(5%)	1(5%)	20(100%)
企業経営専攻	Q95 企業活動に対し、外部環境を踏まえて定量的・定性的に分析するための専門的知識、及び、それを応用して企業およびその他組織における適切な意思決定ができる基礎的力量	9(36%)	9(36%)	4(16%)	3(12%)	0(0%)	25(100%)

注：【各専攻の卒業生別】のパーセンテージは Q94 の各専攻卒業生数を分母とした場合の割合。(経済分析専攻：10、国際地域経済専攻：20、企業経営専攻：25)

IV. あなた自身について伺います。

Q96：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	33 (60%)
	女性	20 (36%)
	未記入	2 (4%)
	計	55 (100%)

Q97：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	22	5 (9%)
	23	7 (13%)
	24	11 (20%)
	25	9 (16%)
	26	10 (18%)
	27	1 (2%)
	28	8 (15%)
	29	2 (4%)
	37	1 (2%)
	未記入	1 (2%)
	計	55 (100%)

Q98：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	45 (82%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	2 (4%)
	3 自営業主・家族従業者	1 (2%)
	4 無職	1 (2%)
	5 学生	5 (9%)
	6 その他	1 (2%)
	未記入	0 (0%)
	計	55 (100%)

第4項 現代教養コースの卒業生

I. あなたの福島大学への在学経験と教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学(学類)への入学年/卒業年を西暦でお答えください。

入学	2011	1(5%)
	2012	2(11%)
	2013	4(21%)
	2014	1(5%)
	2015	2(11%)
	2016	3(16%)
	2017	1(5%)
	2018	5(26%)
	未記入	0(0%)
	計	19(100%)

卒業	2016	2(11%)
	2017	5(26%)
	2018	2(11%)
	2019	1(5%)
	2020	2(11%)
	2021	1(5%)
	2022	6(32%)
	未記入	0(0%)
	計	19(100%)

Q3：学類卒業後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	18(95%)
福島大学の大学院博士前期課程・修士課程	1(5%)
他大学の大学院博士前期課程・修士課程	0(0%)
その他	0(0%)
未記入	0(0%)
計	19(100%)

Q4-Q11：大学在籍時の福島大学の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q4 出席を重視	8(42%)	11(58%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q5 小テスト・課題が頻繁	1(5%)	10(53%)	8(42%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q6 厳しい成績評価	1(5%)	12(63%)	5(26%)	1(5%)	0(0%)	19(100%)
Q7 学生「参加型」の授業	3(16%)	10(53%)	6(32%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q8 課題成果の発表・報告	0(0%)	11(58%)	8(42%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q9 チームでの課題取組み	0(0%)	12(63%)	5(26%)	2(11%)	0(0%)	19(100%)
Q10 外国語に接する	0(0%)	11(58%)	7(37%)	1(5%)	0(0%)	19(100%)
Q11 理解度や興味への配慮	1(5%)	9(47%)	9(47%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)

Q12-Q19：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q12 出席を重視	5(26%)	10(53%)	4(21%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q13 小テスト・課題が頻繁	2(11%)	14(74%)	3(16%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q14 厳しい成績評価	2(11%)	12(63%)	5(26%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q15 学生「参加型」の授業	10(53%)	7(37%)	2(11%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q16 課題成果の発表・報告	5(26%)	14(74%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q17 チームでの課題取組み	6(32%)	9(47%)	4(21%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q18 外国語に接する	10(53%)	7(37%)	2(11%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q19 理解度や興味への配慮	8(42%)	11(58%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)

Q20-Q42：以下の福島大学の教育内容は、現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連していますか。

		関連している	やや関連している	あまり関連していない	関連していない	未履修	未記入	計
制度全般	Q20 GPA 制度	1 (5%)	5 (26%)	10 (53%)	3 (16%)		0 (0%)	19 (100%)
	Q21 CAP 制度	0 (0%)	2 (11%)	14 (74%)	3 (16%)		0 (0%)	19 (100%)
	Q22 クラス制度	1 (5%)	3 (16%)	12 (63%)	3 (16%)		0 (0%)	19 (100%)
	Q23 アドバイザー制度	1 (5%)	5 (26%)	10 (53%)	3 (16%)		0 (0%)	19 (100%)
	Q24 自己デザイン領域	0 (0%)	9 (47%)	8 (42%)	2 (11%)		0 (0%)	19 (100%)
	Q25 特修プログラム (英語、情報)	0 (0%)	5 (26%)	12 (63%)	2 (11%)		0 (0%)	19 (100%)
自己デザイン領域／共通領域	Q26 総合科目	2 (11%)	8 (42%)	7 (37%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q27 広域選択科目	5 (26%)	6 (32%)	6 (32%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q28 外国語科目	0 (0%)	6 (32%)	8 (42%)	4 (21%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q29 情報教育科目	4 (21%)	5 (26%)	8 (42%)	0 (0%)	1 (5%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q30 健康・運動科目	3 (16%)	6 (32%)	6 (32%)	3 (16%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q31 教養演習	3 (16%)	7 (37%)	7 (37%)	0 (0%)	1 (5%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q32 キャリア形成論	4 (21%)	10 (53%)	4 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q33 キャリアモデル学習	2 (11%)	7 (37%)	7 (37%)	2 (11%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q34 インターンシップ (単位認定)	3 (16%)	3 (16%)	7 (37%)	1 (5%)	4 (21%)	1 (5%)	19 (100%)
Q35 自己学習プログラム	3 (16%)	5 (26%)	7 (37%)	2 (11%)	1 (5%)	1 (5%)	19 (100%)	
専門領域	Q36 学群共通科目	3 (16%)	6 (32%)	7 (37%)	2 (11%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q37 学類共通科目	2 (11%)	7 (37%)	8 (42%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q38 学類基礎科目	1 (5%)	7 (37%)	9 (47%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q39 学類専門科目	2 (11%)	10 (53%)	5 (26%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q40 各種実践・実習科目	3 (16%)	4 (21%)	9 (47%)	0 (0%)	2 (11%)	1 (5%)	19 (100%)
	Q41 卒業演習・研究	3 (16%)	6 (32%)	8 (42%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)
Q42 自由選択領域	4 (21%)	6 (32%)	8 (42%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (100%)	

Ⅱ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q43：就職した年を西暦でお答えください。

就職	1989	1(5%)
	1991	1(5%)
	2015	1(5%)
	2016	1(5%)
	2017	4(21%)
	2018	2(11%)
	2020	2(11%)
	2021	1(5%)
	2022	2(11%)
	未記入	4(21%)
	計	19(100%)

Q44/Q45：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	0(0%)
	2 鉱業	0(0%)
	3 建設業	1(5%)
	4 製造業	1(5%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	0(0%)
	6 情報通信業	0(0%)
	7 運輸業	0(0%)
	8 卸売・小売業	2(11%)
	9 金融・保険業	2(11%)
	10 不動産業	1(5%)
	11 飲食店、宿泊業	0(0%)
	12 医療、福祉	6(32%)
	13 教育、学習支援業	0(0%)
	14 複合サービス事業	0(0%)
	15 他に分類されないサービス業	1(5%)
	16 他に分類されない公務	2(11%)
	17 その他	0(0%)
		未記入
	計	19(100%)

職種	1 一般事務	5(26%)
	2 営業・販売職	4(21%)
	3 サービス職	1(5%)
	4 技術職	1(5%)
	5 専門職	4(21%)
	6 その他	1(5%)
		未記入
	計	19(100%)

※その他内訳

事業主

1

Q46：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	4(21%)	
	2 30-99名	1(5%)	
	3 100-499名	1(5%)	
	4 500-999名	2(11%)	
	5 1,000-4,999名	2(11%)	
	6 5,000-9,999名	0(0%)	
	7 10,000名以上	1(5%)	
	官庁(国家公務)	0(0%)	
	地方公共団体(地方公務)	5(26%)	
	学校(教育機関)	0(0%)	
	公団・事業団等(準公務)	0(0%)	
	その他	0(0%)	
		未記入	3(16%)
		計	19(100%)

Q47：現在の年収（総支給額）について、当てはまるものをひとつ選んでください。

規模	収入はない	0(0%)
	200万円未満	0(0%)
	200-299万円	5(26%)
	300-399万円	2(11%)
	400-499万円	5(26%)
	500-599万円	1(5%)
	600-699万円	1(5%)
	700-799万円	1(5%)
	分からない・答えたくない	1(5%)
	未記入	3(16%)
計	19(100%)	

Q48-Q52：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q48 卒業した大学	1(5%)	8(42%)	3(16%)	4(21%)	3(16%)	19(100%)
Q49 卒業時の専門分野	1(5%)	4(21%)	5(26%)	6(32%)	3(16%)	19(100%)
Q50 成績	1(5%)	3(16%)	9(47%)	3(16%)	3(16%)	19(100%)
Q51 サークル等での実績	1(5%)	3(16%)	6(32%)	6(32%)	3(16%)	19(100%)
Q52 人的なネットワーク	2(11%)	5(26%)	4(21%)	5(26%)	3(16%)	19(100%)

Q53-Q55：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分のれた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	働く上で重要な能力	自分の優れた能力	自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	14(88%)	8(50%)	6(38%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	11(69%)	4(25%)	6(38%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	14(88%)	7(44%)	4(25%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	11(69%)	7(44%)	5(31%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	12(75%)	4(25%)	4(25%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	7(44%)	6(38%)	8(50%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	13(81%)	3(19%)	6(38%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	13(81%)	12(75%)	2(13%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	10(63%)	8(50%)	5(31%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	9(56%)	8(50%)	3(19%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	12(75%)	13(81%)	1(6%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	13(81%)	5(31%)	9(56%)

注：ここでのパーセントは全体（19）を分母とした場合の割合。

Q56-Q65：現在のお仕事において、下記の大学時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q56 大学進学時に獲得した基礎学力	5 (26%)	4 (21%)	5 (26%)	2 (11%)	3 (16%)	19 (100%)
Q57 学問を修得することによる考え方の訓練	6 (32%)	7 (37%)	2 (11%)	1 (5%)	3 (16%)	19 (100%)
Q58 専門分野の修得による考え方の訓練	6 (32%)	4 (21%)	4 (21%)	2 (11%)	3 (16%)	19 (100%)
Q59 未知のことに目をひらかせられる経験	9 (47%)	3 (16%)	3 (16%)	1 (5%)	3 (16%)	19 (100%)
Q60 先端の学問に触れることによる知的好奇心	5 (26%)	8 (42%)	2 (11%)	1 (5%)	3 (16%)	19 (100%)
Q61 卒業論文・卒業研究等の経験	5 (26%)	5 (26%)	5 (26%)	1 (5%)	3 (16%)	19 (100%)
Q62 アルバイトの経験	10 (53%)	1 (5%)	4 (21%)	1 (5%)	3 (16%)	19 (100%)
Q63 研究室・ゼミでの経験	7 (37%)	6 (32%)	3 (16%)	0 (0%)	3 (16%)	19 (100%)
Q64 教員との交流	7 (37%)	4 (21%)	4 (21%)	1 (5%)	3 (16%)	19 (100%)
Q65 友人・先輩との交流	9 (47%)	5 (26%)	1 (5%)	1 (5%)	3 (16%)	19 (100%)

Q66-Q86：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q66 幅広い教養	1(5%)	8(42%)	7(37%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q67 多角的・総合的な思考	1(5%)	9(47%)	6(32%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q68 学問的思考の基礎	1(5%)	7(37%)	6(32%)	1(5%)	4(21%)	19(100%)
Q69 科学的・数量的に物事を見る力	6(32%)	9(47%)	1(5%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q70 外国語の能力	3(16%)	9(47%)	4(21%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q71 異文化の理解	3(16%)	7(37%)	4(21%)	2(11%)	3(16%)	19(100%)
Q72 健康や運動に関する科学的認識	1(5%)	7(37%)	7(37%)	1(5%)	3(16%)	19(100%)
Q73 インターネットで情報を適切に集める力	5(26%)	6(32%)	3(16%)	2(11%)	3(16%)	19(100%)
Q74 自ら学びをデザインする主体性	3(16%)	7(37%)	5(26%)	1(5%)	3(16%)	19(100%)
Q75 自ら学修する習慣	4(21%)	10(53%)	2(11%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q76 コミュニケーション力	3(16%)	8(42%)	4(21%)	1(5%)	3(16%)	19(100%)
Q77 自ら人間関係をつくる力	2(11%)	6(32%)	7(37%)	1(5%)	3(16%)	19(100%)
Q78 自らを律して行動できる力	4(21%)	9(47%)	2(11%)	1(5%)	3(16%)	19(100%)
Q79 必要な場合のリーダーシップの発揮	2(11%)	5(26%)	8(42%)	1(5%)	3(16%)	19(100%)
Q80 プレゼンテーション力	3(16%)	4(21%)	9(47%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q81 課題探究能力	1(5%)	8(42%)	7(37%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q82 キャリアデザイン力	1(5%)	9(47%)	6(32%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q83 複数の活動を調整する能力	2(11%)	9(47%)	5(26%)	0(0%)	3(16%)	19(100%)
Q84 大学で学んだ専門知識	2(11%)	7(37%)	5(26%)	2(11%)	3(16%)	19(100%)
Q85 グローバルな課題への関心	2(11%)	3(16%)	9(47%)	2(11%)	3(16%)	19(100%)
Q86 地域的な課題への関心	3(16%)	6(32%)	6(32%)	1(5%)	3(16%)	19(100%)

Q87-Q88：現在の職場、職務はあなたが就職活動時から希望していたものですか。また、現在の生活や状況について就職活動時から予想していましたか。

	全くその通り	ややその通り	やや違う	全く違う	未記入	計
Q87 現在の職場・職務を希望していたか	2(11%)	8(42%)	2(11%)	3(16%)	4(21%)	19(100%)
Q88 現在の生活や状況を予想していたか	7(37%)	5(26%)	3(16%)	0(0%)	4(21%)	19(100%)

Ⅲ. 学類・各専攻の教育についてお伺いします

Q89-Q92：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【現代教養コースの卒業生全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
Q89 職業に関わる専門的知識・技能	1(5%)	14(74%)	4(21%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q90 現代社会を理解し、生活課題、地域社会が直面する課題を解決する社会人としての教養	6(32%)	12(63%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q91 人間性を探求する生きがいとしての教養	5(26%)	13(68%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)
Q92 生活や職業という実体験をもとにして主体的に学習を深める態度	8(42%)	8(42%)	3(16%)	0(0%)	0(0%)	19(100%)

Q93：所属していた専攻

専攻	文化教養モデル	2(11%)
	法政策モデル	7(37%)
	コミュニティ共生モデル	5(26%)
	ビジネス探究モデル	5(26%)
	計	19(100%)

Q94-Q101：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【各専攻の卒業生別】		身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
文化教養モデル	Q94「教育と家庭」「地域・文化・言語・国際理解・数理科学」「健康と運動」「芸術」などに関する幅広い専門的知識・技術、及び、その総合的な探究	0(0%)	2(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(100%)
	Q95 文化の多様性を尊重した上で、文化と現実社会の関係を把握し、その知識や技術を集団や地域社会のなかで伝達・活用する力	0(0%)	2(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(100%)
法政策モデル	Q96「教養的法学」の知識を通じて、必要な法令・判例・文献の調べ方や報告の仕方などを身に付けるだけでなく、裁判員制度を含む司法改革や公共部門の仕事等に適応できる基本的な「法的な思考」	2(29%)	4(57%)	1(14%)	0(0%)	0(0%)	7(100%)
	Q97 地域社会における複雑かつ多様な社会現象に対処するための具体的な政策を立案できるだけの法学を中心とした「知識と基礎的能力」	1(14%)	3(43%)	2(29%)	1(14%)	0(0%)	7(100%)
コミュニティ共生モデル	Q98 行政学、政治学、社会学等の知識を通じて、公共部門や地域コミュニティ活動において活躍するための基本的な学問的素養	1(20%)	3(60%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)	5(100%)
	Q99 地域社会における複雑かつ多様な社会問題を把握し、その解決に役立つ「知識と基礎的能力」	1(20%)	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	5(100%)
ビジネス探究モデル	Q100 幅広い教養と経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識に基づいて現実を分析し論理的に思考する力	1(20%)	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	5(100%)
	Q101 経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識を現実の経済社会に適切に応用し、問題を発見・解決する能力及び実践力	1(20%)	3(60%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)	5(100%)

注：【各専攻の卒業生別】のパーセンテージはQ94の各専攻卒業生数を分母とした場合の割合。(文化教養モデル：2、法政策モデル：7、コミュニティ共生モデル：5、ビジネス探究モデル：5)

IV. あなた自身について伺います。

Q103：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	10(53%)
	女性	9(47%)
	未記入	0(0%)
	計	19(100%)

Q104：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	22	2(11%)
	23	1(5%)
	24	3(16%)
	25	1(5%)
	28	1(5%)
	29	1(5%)
	30	1(5%)
	32	1(5%)
	33	1(5%)
	47	1(5%)
	50	2(11%)
	53	1(5%)
	54	1(5%)
	62	1(5%)
	未記入	1(5%)
計	19(100%)	

Q105：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	15(79%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	1(5%)
	3 自営業主・家族従業者	1(5%)
	4 無職	1(5%)
	5 学生	1(5%)
	6 その他	0(0%)
	未記入	0(0%)
	計	19(100%)

第5項 共生システム理工学類の卒業生

I. あなたの福島大学への在学経験と教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学(学類)への入学年/卒業年を西暦でお答えください。

入学	2011	1(2%)	卒業	2016	1(2%)
	2012	1(2%)		2017	12(18%)
	2013	12(18%)		2018	4(6%)
	2014	5(8%)		2019	10(15%)
	2015	9(14%)		2020	13(20%)
	2016	12(18%)		2021	17(26%)
	2017	18(28%)		2022	7(11%)
	2018	7(11%)		2023	1(2%)
	未記入	0(0%)		未記入	0(0%)
	計	65(100%)		計	65(100%)

Q3：学類卒業後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	47(72%)
福島大学の大学院博士前期課程・修士課程	10(15%)
他大学の大学院博士前期課程・修士課程	7(11%)
その他	1(2%)
未記入	0(0%)
計	65(100%)

Q4-Q11：大学在籍時の福島大学の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q4 出席を重視	23(35%)	40(62%)	2(3%)	0(0%)	0(0%)	65(100%)
Q5 小テスト・課題が頻繁	7(11%)	43(66%)	14(22%)	1(2%)	0(0%)	65(100%)
Q6 厳しい成績評価	4(6%)	36(55%)	23(35%)	2(3%)	0(0%)	65(100%)
Q7 学生「参加型」の授業	3(5%)	35(54%)	26(40%)	1(2%)	0(0%)	65(100%)
Q8 課題成果の発表・報告	7(11%)	29(45%)	26(40%)	2(3%)	1(2%)	65(100%)
Q9 チームでの課題取組み	4(6%)	36(55%)	23(35%)	1(2%)	1(2%)	65(100%)
Q10 外国語に接する	5(8%)	30(46%)	26(40%)	3(5%)	1(2%)	65(100%)
Q11 理解度や興味への配慮	4(6%)	33(51%)	22(34%)	5(8%)	1(2%)	65(100%)

Q12-Q19：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q12 出席を重視	5(8%)	40(62%)	14(22%)	6(9%)	0(0%)	65(100%)
Q13 小テスト・課題が頻繁	6(9%)	47(72%)	12(18%)	0(0%)	0(0%)	65(100%)
Q14 厳しい成績評価	3(5%)	39(60%)	20(31%)	3(5%)	0(0%)	65(100%)
Q15 学生「参加型」の授業	20(31%)	34(52%)	10(15%)	1(2%)	0(0%)	65(100%)
Q16 課題成果の発表・報告	24(37%)	29(45%)	9(14%)	2(3%)	1(2%)	65(100%)
Q17 チームでの課題取組み	22(34%)	31(48%)	10(15%)	2(3%)	0(0%)	65(100%)
Q18 外国語に接する	23(35%)	30(46%)	12(18%)	0(0%)	0(0%)	65(100%)
Q19 理解度や興味への配慮	28(43%)	30(46%)	5(8%)	2(3%)	0(0%)	65(100%)

Q20-Q42：以下の福島大学の教育内容は、現在従事している職務・作業を遂行する上でどの程度関連していますか。

		関連している	やや関連している	あまり関連していない	関連していない	未履修	未記入	計
制度全般	Q20 GPA 制度	1 (2%)	15 (23%)	24 (37%)	24 (37%)		1 (2%)	65 (100%)
	Q21 CAP 制度	0 (0%)	12 (18%)	23 (35%)	27 (42%)		3 (5%)	65 (100%)
	Q22 クラス制度	1 (2%)	10 (15%)	30 (46%)	21 (32%)		3 (5%)	65 (100%)
	Q23 アドバイザー制度	0 (0%)	13 (20%)	28 (43%)	20 (31%)		4 (6%)	65 (100%)
	Q24 自己デザイン領域	2 (3%)	17 (26%)	26 (40%)	18 (28%)		2 (3%)	65 (100%)
	Q25 特修プログラム (英語、情報)	8 (12%)	14 (22%)	23 (35%)	19 (29%)		1 (2%)	65 (100%)
自己デザイン領域／共通領域	Q26 総合科目	3 (5%)	17 (26%)	32 (49%)	11 (17%)	1 (2%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q27 広域選択科目	3 (5%)	20 (31%)	27 (42%)	12 (18%)	1 (2%)	2 (3%)	65 (100%)
	Q28 外国語科目	4 (6%)	14 (22%)	29 (45%)	17 (26%)	1 (2%)	0 (0%)	65 (100%)
	Q29 情報教育科目	13 (20%)	27 (42%)	15 (23%)	8 (12%)	1 (2%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q30 健康・運動科目	2 (3%)	8 (12%)	27 (42%)	25 (38%)	2 (3%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q31 教養演習	1 (2%)	14 (22%)	25 (38%)	24 (37%)	1 (2%)	0 (0%)	65 (100%)
	Q32 キャリア形成論	4 (6%)	9 (14%)	32 (49%)	17 (26%)	2 (3%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q33 キャリアモデル学習	2 (3%)	10 (15%)	31 (48%)	17 (26%)	3 (5%)	2 (3%)	65 (100%)
	Q34 インターンシップ (単位認定)	2 (3%)	8 (12%)	20 (31%)	18 (28%)	16 (25%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q35 自己学習プログラム	1 (2%)	10 (15%)	26 (40%)	21 (32%)	6 (9%)	1 (2%)	65 (100%)
専門領域	Q36 学群共通科目	3 (5%)	24 (37%)	20 (31%)	17 (26%)	0 (0%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q37 学類共通科目	5 (8%)	24 (37%)	20 (31%)	15 (23%)	0 (0%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q38 学類基礎科目	8 (12%)	24 (37%)	19 (29%)	12 (18%)	1 (2%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q39 学類専門科目	13 (20%)	22 (34%)	17 (26%)	11 (17%)	0 (0%)	2 (3%)	65 (100%)
	Q40 各種実践・実習科目	7 (11%)	22 (34%)	19 (29%)	12 (18%)	4 (6%)	1 (2%)	65 (100%)
	Q41 卒業演習・研究	15 (23%)	20 (31%)	18 (28%)	10 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	65 (100%)
	Q42 自由選択領域	7 (11%)	17 (26%)	23 (35%)	17 (26%)	0 (0%)	1 (2%)	65 (100%)

Ⅱ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q43：就職した年を西暦でお答えください。

就職	2013	1(2%)
	2017	10(15%)
	2018	1(2%)
	2019	10(15%)
	2020	13(20%)
	2021	11(17%)
	2022	10(15%)
	未記入	9(14%)
	計	65(100%)

Q44/Q45：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	1(2%)
	2 鉱業	0(0%)
	3 建設業	3(5%)
	4 製造業	11(17%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	5(8%)
	6 情報通信業	13(20%)
	7 運輸業	2(3%)
	8 卸売・小売業	2(3%)
	9 金融・保険業	3(5%)
	10 不動産業	0(0%)
	11 飲食店、宿泊業	0(0%)
	12 医療、福祉	2(3%)
	13 教育、学習支援業	3(5%)
	14 複合サービス事業	2(3%)
	15 他に分類されないサービス業	1(2%)
	16 他に分類されない公務	7(11%)
	17 その他	1(2%)
	未記入	9(14%)
	計	65(100%)

職種	1 一般事務	11(17%)
	2 営業・販売職	5(8%)
	3 サービス職	3(5%)
	4 技術職	32(49%)
	5 専門職	3(5%)
	6 その他	2(3%)
		未記入
	計	65(100%)

※その他内訳

専業主婦	1
院生	1

※その他内訳

専業主婦	1
------	---

Q46：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	1(2%)	
	2 30-99名	4(6%)	
	3 100-499名	15(23%)	
	4 500-999名	6(9%)	
	5 1,000-4,999名	8(12%)	
	6 5,000-9,999名	4(6%)	
	7 10,000名以上	8(12%)	
	官庁(国家公務)	1(2%)	
	地方公共団体(地方公務)	5(8%)	
	学校(教育機関)	2(3%)	
	公団・事業団等(準公務)	1(2%)	
	その他	1(2%)	
		未記入	9(14%)
		計	65(100%)

Q47：現在の年収（総支給額）について、当てはまるものをひとつ選んでください。

規模	収入はない	2(3%)
	200万円未満	4(6%)
	200-299万円	16(25%)
	300-399万円	17(26%)
	400-499万円	14(22%)
	500-599万円	1(2%)
	600-699万円	1(2%)
	700-799万円	1(2%)
	分からない・答えたくない	0(0%)
	未記入	9(14%)
計	65(100%)	

Q48-Q52：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q48 卒業した大学	7(11%)	21(32%)	14(22%)	14(22%)	9(14%)	65(100%)
Q49 卒業時の専門分野	8(12%)	14(22%)	17(26%)	17(26%)	9(14%)	65(100%)
Q50 成績	5(8%)	13(20%)	21(32%)	17(26%)	9(14%)	65(100%)
Q51 サークル等での実績	1(2%)	9(14%)	24(37%)	22(34%)	9(14%)	65(100%)
Q52 人的なネットワーク	3(5%)	16(25%)	19(29%)	18(28%)	9(14%)	65(100%)

Q53-Q55：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分のれた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	働く上で重要な能力	自分の優れた能力	自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取り組む力(主体性)	48(86%)	19(35%)	24(43%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	29(52%)	11(20%)	27(48%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	43(77%)	25(45%)	12(21%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	38(68%)	18(33%)	11(20%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	36(64%)	15(27%)	14(25%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	23(41%)	7(13%)	23(41%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	41(73%)	13(24%)	20(36%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	40(71%)	25(45%)	6(11%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	35(63%)	20(36%)	9(16%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	36(64%)	19(35%)	7(13%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	37(66%)	24(44%)	5(9%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	41(73%)	18(33%)	22(39%)

注：ここでのパーセントは全体（65）を分母とした場合の割合。

Q56-Q65：現在のお仕事において、下記の大学時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q56 大学進学時に獲得した基礎学力	9(14%)	30(46%)	12(18%)	5(8%)	9(14%)	65(100%)
Q57 学問を修得することによる考え方の訓練	16(25%)	27(42%)	11(17%)	2(3%)	9(14%)	65(100%)
Q58 専門分野の修得による考え方の訓練	14(22%)	26(40%)	12(18%)	4(6%)	9(14%)	65(100%)
Q59 未知のことに目をひらかせられる経験	20(31%)	19(29%)	14(22%)	3(5%)	9(14%)	65(100%)
Q60 先端の学問に触れることによる知的好奇心	15(23%)	24(37%)	15(23%)	2(3%)	9(14%)	65(100%)
Q61 卒業論文・卒業研究等の経験	18(28%)	20(31%)	14(22%)	4(6%)	9(14%)	65(100%)
Q62 アルバイトの経験	21(32%)	20(31%)	9(14%)	6(9%)	9(14%)	65(100%)
Q63 研究室・ゼミでの経験	21(32%)	20(31%)	10(15%)	5(8%)	9(14%)	65(100%)
Q64 教員との交流	16(25%)	21(32%)	14(22%)	5(8%)	9(14%)	65(100%)
Q65 友人・先輩との交流	25(38%)	21(32%)	10(15%)	0(0%)	9(14%)	65(100%)

Q66-Q86：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q66 幅広い教養	3(5%)	32(49%)	19(29%)	2(3%)	9(14%)	65(100%)
Q67 多角的・総合的な思考	8(12%)	27(42%)	19(29%)	2(3%)	9(14%)	65(100%)
Q68 学問的思考の基礎	4(6%)	34(52%)	15(23%)	3(5%)	9(14%)	65(100%)
Q69 科学的・数量的に物事を見る力	14(22%)	25(38%)	15(23%)	2(3%)	9(14%)	65(100%)
Q70 外国語の能力	1(2%)	10(15%)	26(40%)	19(29%)	9(14%)	65(100%)
Q71 異文化の理解	6(9%)	17(26%)	26(40%)	7(11%)	9(14%)	65(100%)
Q72 健康や運動に関する科学的認識	4(6%)	22(34%)	23(35%)	7(11%)	9(14%)	65(100%)
Q73 インターネットで情報を適切に集める力	21(32%)	25(38%)	8(12%)	2(3%)	9(14%)	65(100%)
Q74 自ら学びをデザインする主体性	8(12%)	19(29%)	22(34%)	7(11%)	9(14%)	65(100%)
Q75 自ら学修する習慣	12(18%)	21(32%)	16(25%)	7(11%)	9(14%)	65(100%)
Q76 コミュニケーション力	11(17%)	29(45%)	11(17%)	5(8%)	9(14%)	65(100%)
Q77 自ら人間関係をつくる力	8(12%)	19(29%)	21(32%)	8(12%)	9(14%)	65(100%)
Q78 自らを律して行動できる力	8(12%)	28(43%)	17(26%)	3(5%)	9(14%)	65(100%)
Q79 必要な場合のリーダーシップの発揮	9(14%)	18(28%)	24(37%)	5(8%)	9(14%)	65(100%)
Q80 プレゼンテーション力	8(12%)	18(28%)	23(35%)	6(9%)	10(15%)	65(100%)
Q81 課題探究能力	11(17%)	21(32%)	18(28%)	6(9%)	9(14%)	65(100%)
Q82 キャリアデザイン力	3(5%)	18(28%)	26(40%)	8(12%)	10(15%)	65(100%)
Q83 複数の活動を調整する能力	7(11%)	21(32%)	22(34%)	6(9%)	9(14%)	65(100%)
Q84 大学で学んだ専門知識	3(5%)	23(35%)	16(25%)	14(22%)	9(14%)	65(100%)
Q85 グローバルな課題への関心	3(5%)	16(25%)	25(38%)	11(17%)	10(15%)	65(100%)
Q86 地域的な課題への関心	9(14%)	20(31%)	16(25%)	10(15%)	10(15%)	65(100%)

Q87-Q88：現在の職場、職務はあなたが就職活動時から希望していたものですか。また、現在の生活や状況について就職活動時から予想していましたか。

	全くその通り	ややその通り	やや違う	全く違う	未記入	計
Q87 現在の職場・職務を希望していたか	13(20%)	26(40%)	9(14%)	8(12%)	9(14%)	65(100%)
Q88 現在の生活や状況を予想していたか	8(12%)	22(34%)	14(22%)	12(18%)	9(14%)	65(100%)

Ⅲ. 学類・各専攻の教育についてお伺いします

Q89-Q92：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【共生システム理工学類の卒業生全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
Q89 21世紀の諸問題に挑戦し、解決する力	3(5%)	30(46%)	27(42%)	5(8%)	0(0%)	65(100%)
Q90 グローバルな視点から、物事を探求する	0(0%)	30(46%)	29(45%)	6(9%)	0(0%)	65(100%)
Q91 問題解決のための実践力	11(17%)	36(55%)	13(20%)	5(8%)	0(0%)	65(100%)
Q92 システムサイエンスに関する幅広い専門知識と実践能力	7(11%)	33(51%)	19(29%)	6(9%)	0(0%)	65(100%)

Q93：所属していた専攻

専攻	人間支援システム専攻	21(32%)
	産業システム工学専攻	22(34%)
	環境システムマネジメント専攻	22(34%)
	未記入	0(0%)
	計	65(100%)

Q94-Q96：あなたは以下の項目(学類のディプロマポリシー)について、所属していた学類で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【各専攻の卒業生別】		身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	未記入	計
人間支援システム専攻	Q94「ロボティクスや福祉、医療等を含むヒト理解・人間支援又はそれらの基礎となる分野、特に、心理学や生理学などの生体システム科学、情報工学や機械・電気・電子工学などを基礎とする人間支援の技術に関して、研究・開発ができる力	3(14%)	9(43%)	5(24%)	4(19%)	0(0%)	21(100%)
産業システム工学専攻	Q95「化学工学、材料工学、エネルギー開発などを基礎とする環境負荷の少ないものづくり技術や、経営工学、数理科学、産業政策、環境経済およびそれらを基礎とする省資源・循環型生産システムの構築や産業支援分野に関して、研究・開発ができる力	6(27%)	12(55%)	1(5%)	3(14%)	0(0%)	22(100%)
環境システムマネジメント専攻	Q96 環境の科学や、水資源などを中心とした自然資源の確保・保全、環境分析化学、浄化工学、生態学や地域計画、流域管理計画などを基礎とする環境システムに関して、研究・開発ができる力	1(5%)	17(77%)	3(14%)	1(5%)	0(0%)	22(100%)

注：【各専攻の卒業生別】のパーセンテージはQ94の各専攻卒業生数を分母とした場合の割合。(人間支援システム専攻：21、産業システム工学専攻：22、環境システムマネジメント専攻：22)

IV. あなた自身について伺います。

Q98：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	49 (75%)
	女性	16 (25%)
	未記入	0 (0%)
	計	65 (100%)

Q99：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	22	2 (3%)
	23	12 (18%)
	24	15 (23%)
	25	13 (20%)
	26	5 (8%)
	27	8 (12%)
	28	8 (12%)
	29	2 (3%)
	未記入	0 (0%)
	計	65 (100%)

Q100：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	51 (78%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	1 (2%)
	3 自営業主・家族従業者	0 (0%)
	4 無職	11 (17%)
	5 学生	1 (2%)
	6 その他	1 (2%)
	未記入	0 (0%)
	計	65 (100%)

※その他内訳

現在無職だが、転職先として国家公務員に内々定

1

第2章 福島大学の教育に関する修了生アンケート

第1節 概要と分析

本章では、研究科修了生を対象とした「福島大学の教育に関する修了生アンケート」の集計結果をまとめている。第1節では、全研究科を含めた集計結果について紹介する。具体的には、属性（性別・入学年・在学時の所属・修了後の在学経験・現在の就業状況）、授業内容、福島大学大学院の教育、就業後における大学院時代の経験の重要性、各種能力の修得状況、各研究科の学び、および自由記述（印象に残っている教育・授業、在学中に身につけて欲しいこと）について概括する。なお第2節では各研究科ごとの回答をまとめている。研究科別の回答に関しては、本章第2節をご参照いただきたい。

◎回答者の属性

「福島大学の教育に関する修了生アンケート」回答者の属性は次の通りである。まず性別は男性 39 名（60%）、女性 25 名（38%）、未記入 1 名（2%）であった（表 2-1）。入学年については、2015 年 13 名（20%）、2016 年 5 名（8%）、2017 年 11 名（17%）、2018 年 11 名（17%）、2019 年 12 名（18%）、2020 年 10 名（15%）、その他 2 名（4%）、未記入 1 名（2%）であった（表 2-2）。卒業年は、2017 年 10 名（15%）、2018 年 8 名（12%）、2019 年 9 名（14%）、2020 年 12 名（18%）、2021 年 9 名（14%）、2022 年 15 名（23%）、その他 1 名（2%）、未記入 1 名（2%）であった（表 2-2）。在学時の所属は、人間発達文化研究科 30 名（46%）、地域政策科学研究科 8 名（12%）、経済学研究科 12 名（18%）、共生システム理工学研究科 15 名（23%）であった（表 2-3）。

また現在令和 4 年度の大学院生現員は、男性 68%、女性 32%である（表 2-1）。所属は、人間発達文化研究科 27%、地域政策科学研究科 9%、経済学研究科 17%、共生システム理工学研究科 50%である（表 2-3）。現員の構成を比較すると、本調査の回答者の割合は、女性、人間発達文化研究科の割合が高い一方で、男性、共生システム理工学研究科が低い。そのため、以下は全研究科を合計しての調査結果を示すものであるが、解釈にあたっては、このような性別や所属の偏りを有するデータであることに注意を要する。

卒業後の在学経験は、「なし」58 名（89%）、「福島大学の大学院博士後期課程」1 名（2%）、「他大学の大学院博士後期課程」3 名（5%）、「その他」3 名（5%）であった（表 2-4）。また現在の就業状況は、「常時雇用の社員・職員」47 名（72%）、「パート・アルバイト・臨時の社員・職員」9 名（14%）、「自営業主・家族従業者」4 名（6%）、「無職」1 名（2%）、「学生」1 名（2%）、「その他」3 名（5%）であった（表 2-5）。したがって、今回の集計結果は、常時雇用の身分にある修了生の意見を強く反映したものと考えられる。

回答者の就職した年を尋ねた結果、2017 年 5 名（8%）、2018 年 3 名（5%）、2019 年 7 名（11%）、2020 年 5 名（8%）、2021 年 3 名（5%）、2022 年 7 名（11%）、その他 28 名（48%）、未記入 7 名（11%）であった（表 2-6）。仕事先の業種については、割合が大きい順に、「教育・学習支援業」28 名（43%）、「他に分類されない公務」7 名（11%）、「建設業」4 名（6%）、「医療、福祉」4 名（6%）、「農林水産業」3 名（5%）、「製造業」3 名（5%）、「情報通信業」3 名（5%）、「その他」3 名（5%）、「他に分類されないサービス業」2 名（3%）、「鉱業」1 名（2%）、「運輸業」1 名（2%）、「卸売・小売業」1 名（2%）、「飲食店、宿泊業」1 名（2%）、「未記入」4 名（6%）であった（表 2-7）。職種は、

「一般事務」5名(8%)、「営業・販売職」3名(5%)、「サービス職」0名(0%)、「技術職」9名(14%)、「専門職」33名(51%)、「その他」12名(18%)、「未記入」3名(5%)であった(表2-8)。

勤務先規模(常用雇用者数)は、「29名以下」12名(18%)、「30-99名」5名(8%)、「100-499名」5名(8%)、「500-999名」0名(0%)、「1,000-4,999名」7名(11%)、「5,000-9,999名」1名(2%)、「10,000名以上」5名(8%)、「官庁(国家公務)」1名(2%)、「地方公共団体(地方公務)」5名(8%)、「学校(教育機関)」19名(29%)、「公団・事業団等(準公務)」1名(2%)、「その他」1名(2%)、「未記入」3名(5%)であった(表2-9)。

現在の年収(総支給額)は「200-299万円」8名(12%)、「300-399万円」11名(17%)、「400-499万円」5名(8%)、「500-599万円」7名(11%)、「600-699万円」13名(20%)、「700-799万円」4名(6%)、「800-899万円」2名(3%)、「その他」9名(14%)、「分からない・答えたくない」3名(5%)、「未記入」3名(5%)であった(表2-10)。

表 2-1 性別

性別	回答者	現員
男性	39(60%)	165(68%)
女性	25(38%)	79(32%)
未記入	1(2%)	0(0%)
計	65(100%)	244(100%)

※上表では現員数は環境放射能学専攻(平成31年4月学生受入)を除いた割合を示している。

表 2-2 入学年と卒業年(西暦)

入学	2009	1(2%)
	2013	1(2%)
	2015	13(20%)
	2016	5(8%)
	2017	11(17%)
	2018	11(17%)
	2019	12(18%)
	2020	10(15%)
	未記入	1(2%)
	計	65(100%)

卒業	2016	1(2%)
	2017	10(15%)
	2018	8(12%)
	2019	9(14%)
	2020	12(18%)
	2021	9(14%)
	2022	15(23%)
	未記入	1(2%)
	計	65(100%)

表 2-3 在学時の所属

所属	回答者	現員
人間発達文化研究科	30(46%)	64(27%)
地域政策科学研究科	8(12%)	22(9%)
経済学研究科	12(18%)	41(17%)
共生システム理工学研究科	15(23%)	117(50%)
未記入	0(0%)	0(0%)
計	65(100%)	244(100%)

※上表では現員数は環境放射能学専攻(平成31年4月学生受入)を除いた割合を示している。

表 2-4 卒業後の在学経験

在学 経験	なし	58 (89%)
	福島大学の大学院博士後期課程	1 (2%)
	他大学の大学院博士後期課程	3 (5%)
	その他	3 (5%)
	未記入	58 (89%)
	計	65 (100%)

表 2-5 現在の就業状況

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	47 (72%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	9 (14%)
	3 自営業主・家族従業者	4 (6%)
	4 無職	1 (2%)
	5 学生	1 (2%)
	6 その他	3 (5%)
	未記入	0 (0%)
	計	65 (100%)

表 2-6 就職した年

業 種	1974	1 (2%)	2002	2 (3%)	2011	2 (3%)	2022	7 (11%)
	1980	1 (2%)	2003	2 (3%)	2012	1 (2%)	未記入	7 (11%)
	1985	2 (3%)	2004	3 (5%)	2017	5 (8%)	計	65 (100%)
	1986	1 (2%)	2006	1 (2%)	2018	3 (5%)		
	1993	1 (2%)	2008	5 (8%)	2019	7 (11%)		
	1995	2 (3%)	2009	1 (2%)	2020	5 (8%)		
	2000	1 (2%)	2010	2 (3%)	2021	3 (5%)		

表 2-7 仕事先の業種

業 種	1 農林水産業	3 (5%)	11 飲食店、宿泊業	1 (2%)
	2 鉱業	1 (2%)	12 医療、福祉	4 (6%)
	3 建設業	4 (6%)	13 教育、学習支援業	28 (43%)
	4 製造業	3 (5%)	14 複合サービス事業	0 (0%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0%)	15 他に分類されないサービス業	2 (3%)
	6 情報通信業	3 (5%)	16 他に分類されない公務	7 (11%)
	7 運輸業	1 (2%)	17 その他	3 (5%)
	8 卸売・小売業	1 (2%)	未記入	4 (6%)
	9 金融・保険業	0 (0%)	計	65 (100%)
	10 不動産業	0 (0%)		

表 2-8 仕事の職種

職 種	1 一般事務	5 (8%)
	2 営業・販売職	3 (5%)
	3 サービス職	0 (0%)
	4 技術職	9 (14%)
	5 専門職	33 (51%)
	6 その他	12 (18%)
	未記入	3 (5%)
計	65 (100%)	

表 2-9 勤務先の規模(常用雇用者数)

規模	1 29名以下	12(18%)
	2 30-99名	5(8%)
	3 100-499名	5(8%)
	4 500-999名	0(0%)
	5 1,000-4,999名	7(11%)
	6 5,000-9,999名	1(2%)
	7 10,000名以上	5(8%)
	官庁(国家公務)	1(2%)
	地方公共団体(地方公務)	5(8%)
	学校(教育機関)	19(29%)
	公団・事業団等(準公務)	1(2%)
	その他	1(2%)
	未記入	3(5%)
	計	65(100%)

表 2-10 現在の年収(総支給額)

年収	収入はない	1(2%)
	200万円未満	3(5%)
	200-299万円	8(12%)
	300-399万円	11(17%)
	400-499万円	5(8%)
	500-599万円	7(11%)
	600-699万円	13(20%)
	700-799万円	4(6%)
	800-899万円	2(3%)
	1000-1099万円	1(2%)
	1200-1299万円	2(3%)
	1500万円以上	2(3%)
	分からない・答えたくない	3(5%)
	未記入	3(5%)
計	65(100%)	

◎福島大学大学院の授業内容に対する評価

修了生には、大学院時代の授業について、どれほど含まれていたか（頻度）、どれほど必要であると考えるか（必要性）を尋ねている。質問項目には「専門的知識を身につける」、「幅広い知識を身につける」、「ディベートやプレゼンテーション」、「実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）」、「実践的な外国語学修」、「知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練」、「チームを組んで特定の課題に取り組む経験」、「職業観醸成プログラム」の8項目が含まれている。

まず、授業内容の経験頻度では、「多かった」「少しあった」を合わせた合計割合が高い順（未記入除く）に、「専門的知識を身につける」98%、「幅広い知識を身につける」95%、「知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練」90%、「ディベートやプレゼンテーション」83%、「チームを組んで特定の課題に取り組む経験」68%、「実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）」58%、「職業観醸成プログラム」46%、「実践的な外国語学修」17%であった（図2-1）。

一方、授業内容の必要性では、「とても必要」「ある程度必要」を合わせた合計割合が高い順（未記入除く）に、「専門的知識を身につける」100%、「幅広い知識を身につける」97%、「ディベートやプレゼンテーション」97%、「知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練」94%、「実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）」90%、「チームを組んで特定の課題に取り組む経験」86%、「職業観醸成プログラム」77%、「実践的な外国語学修」63%であった。

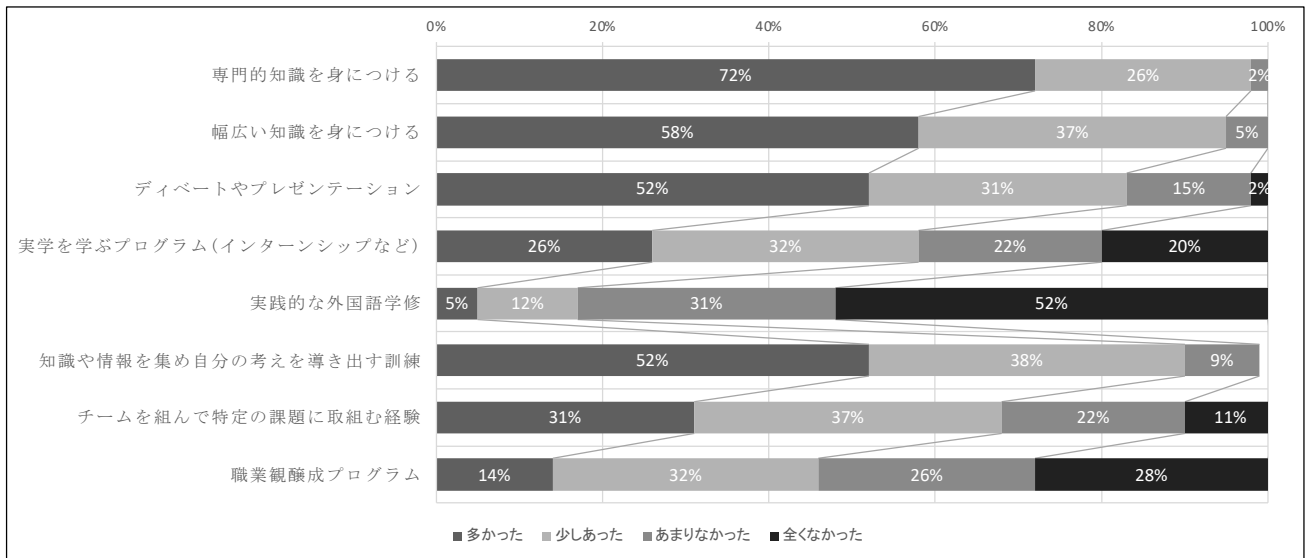
この結果から、「専門的知識を身につける」「幅広い知識を身につける」「ディベートやプレゼンテーション」「知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練」のような授業は、経験頻度も高く、必要性も高く認識されていることがわかる。さらに、経験頻度は項目ごと程度が異なるものの、必要性に関しては、ほぼ全ての項目で7割以上が「とても必要」「ある程度必要」と考えている。とくに「実践的な外国語学修」等、経験頻度と必要性のギャップが大きい項目に関しては、今後大学院プログラムの改善に向けて、関連授業の充実を検討すべきであろう。

大学院修了者は学士課程卒業者と比較して数が少ないため、学生や企業は大学院修了者の人材価値を必ずしも明確に認識していないことが知られている¹（濱中 2015）。大学院教育がどのようにして学生に大学院修了者としての価値を付与しているかは、十分に理解されていない可能性がある。本調査では、授業内容の経験と必要性の相関をみると、全ての項目において有意な正の相関が確認された（表2-11）。これは、授業を通じて得られる経験の意義（必要性）が、実際に学生が経験することでより強く実感されることを示している。このことは、経験者でないと大学院教育の成果を把握することは難しいことを示唆している。この傾向は、令和元年の調査でも同様に見られた（呉・高森 2021）²。

¹ 濱中淳子（2015）「大学院改革の隘路：批判の背後にある企業人の未経験」『高等教育研究』18, pp. 69-87

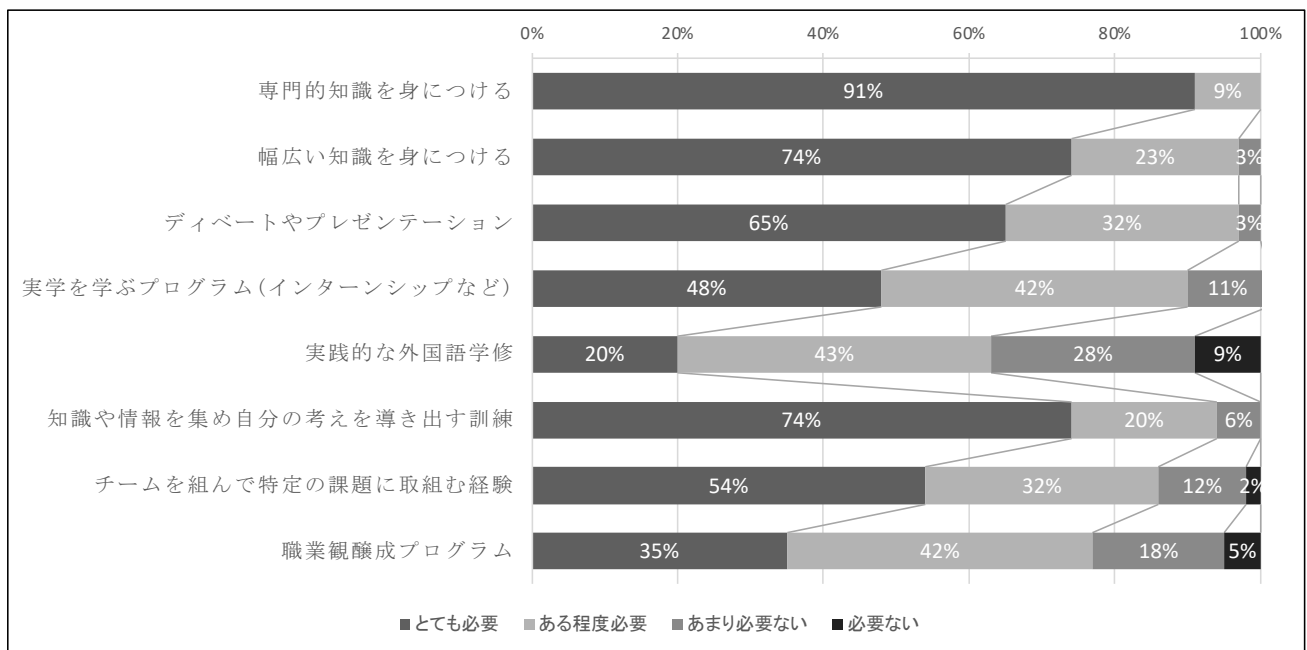
² 呉書雅・高森智嗣（2021）「福島大学大学院教育成果の検証：修了生アンケート・企業アンケートの調査結果から」『福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要』4, pp. 27-34

図 2-1. 大学院時代の授業経験（頻度）



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-2. 大学院時代の授業経験（必要性）



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

表 2-11. 大学院授業内容の経験と必要性の相関

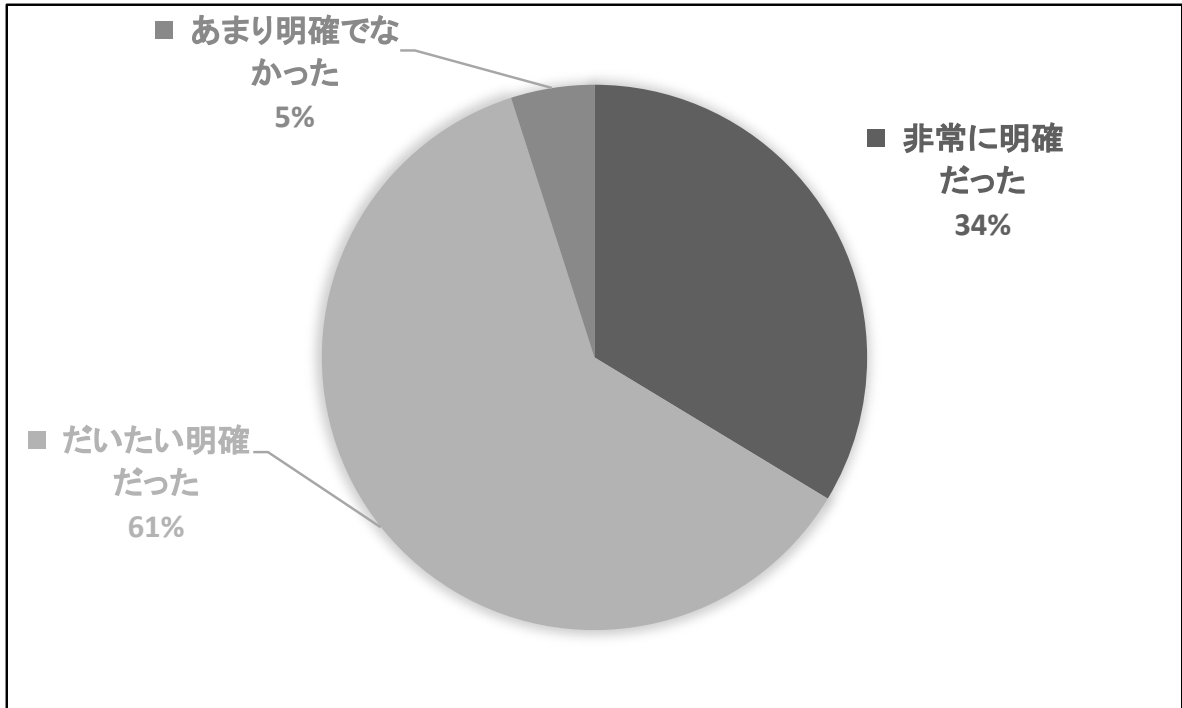
経験 必要性	専門的知識	幅広い知識	ディベートや プレゼンテー ション	実学を学ぶ プログラム	実践的な外 国語学修	知識や情報 を集め自分 の考えを導 き出す訓練	チームを組 んで特定の 課題に取組 む経験	職業観醸成 プログラム
専門的知識	0.386 **	0.039	0.056	-0.001	-0.047	0.315 *	0.279 *	0.149
幅広い知識	0.026	0.508 **	0.276 *	0.203	0.150	0.078	0.348 **	0.069
ディベートやプレゼンテー ション	0.294 *	0.124	0.451 **	0.133	0.299 *	0.281 *	0.241	0.044
実学を学ぶプログラム	0.209	0.291 *	0.391 **	0.397 **	0.295 *	0.153	0.190	0.191
実践的な外国語学修	-0.117	0.246 *	0.163	0.007	0.572 **	0.078	0.197	-0.119
知識や情報を集め自分の考 えを導き出す訓練	0.339 **	0.121	0.183	0.023	0.134	0.545 **	0.185	0.236
チームを組んで特定の課題 に取組む経験	0.377 **	0.126	0.274 *	0.201	0.218	0.321 **	0.495 **	0.169
職業観醸成プログラム	0.298 *	0.249 *	0.366 **	0.319 **	0.248 *	0.314 *	0.288 *	0.397 **

注: Spearman の順位相関係数による

◎福島大学大学院の教育について

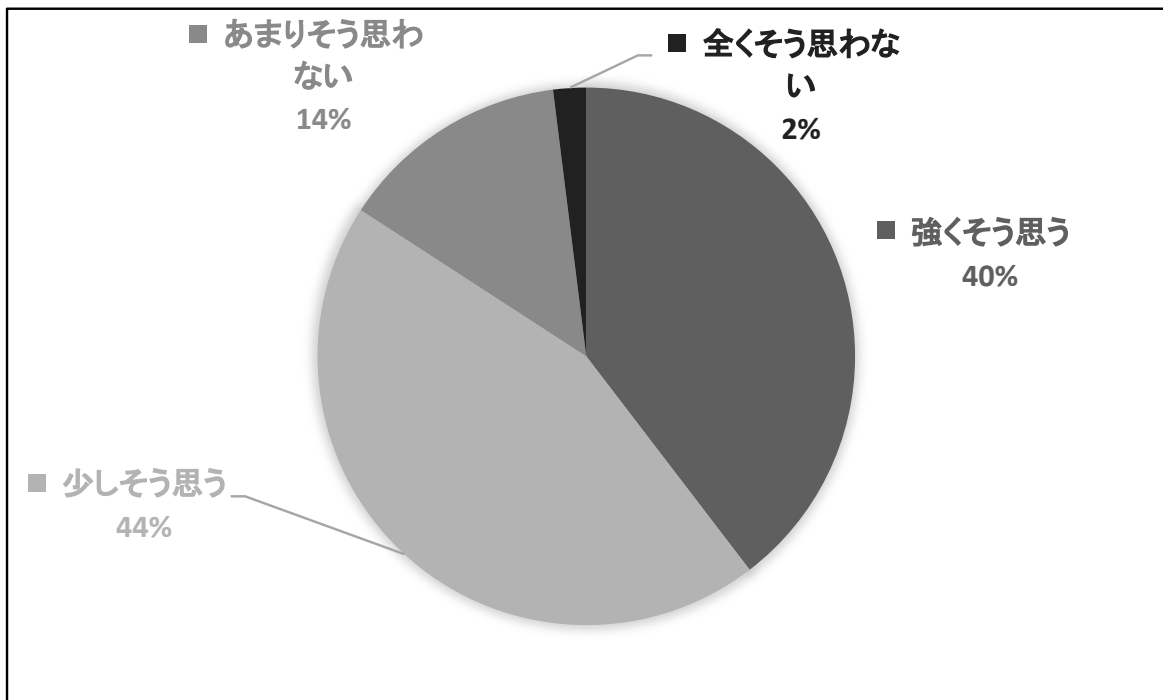
修了生調査では、福島大学大学院の教育評価に関して、11項目が図 2-3 から図 2-13 まで示されている。大学院の授業科目における目標の明確さに関しては、「非常に明確だった」「だいたい明確だった」の合計割合が 96%であった（図 2-3、未記入除く）。カリキュラムの体系性については、「強くそう思う」「少しそう思う」の合計で 85%であった（図 2-4、未記入除く）。講義系の科目と演習・実習などの科目の比率については、「ちょうどよい」90%であった（図 2-5、未記入除く）。履修アドバイスやガイダンスについて、「十分に行われたし、必要だと思う」62%であるが、「十分に行われなかったが、必要だと思う」も 26%あった（図 2-6、未記入除く）。研究指導の十分さについては、「強くそう思う」「少しそう思う」の合計で 97%であった（図 2-7、未記入除く）。シラバスの活用度については、「大いに活用した」「少し活用した」の合計割合が 82%であった（図 2-8、未記入除く）。自主学修環境の整備度に対しては、「強くそう思う」「少しそう思う」の合計で 86%であった（図 2-9、未記入除く）。教員の自主学修配慮については、「強くそう思う」「少しそう思う」の合計割合が 92%であった（図 2-10、未記入除く）。成績評価方法の明確さについては、「強くそう思う」「少しそう思う」の合計で 93%であった（図 2-11、未記入除く）。成績評価の公正さについては、「強くそう思う」「少しそう思う」の合計割合が 96%であった（図 2-12、未記入除く）。最後に、学力や能力への満足度については、「非常に満足している」「だいたい満足している」の合計割合が 97%であった（図 2-13、未記入除く）。これらの項目では、全体的に高評価の結果（8割以上）が得られている。

図 2-3. 全体的に見て、自分の受けた大学院の授業科目において、達成すべき目標や身につけるべき力は明確だったと思いますか。



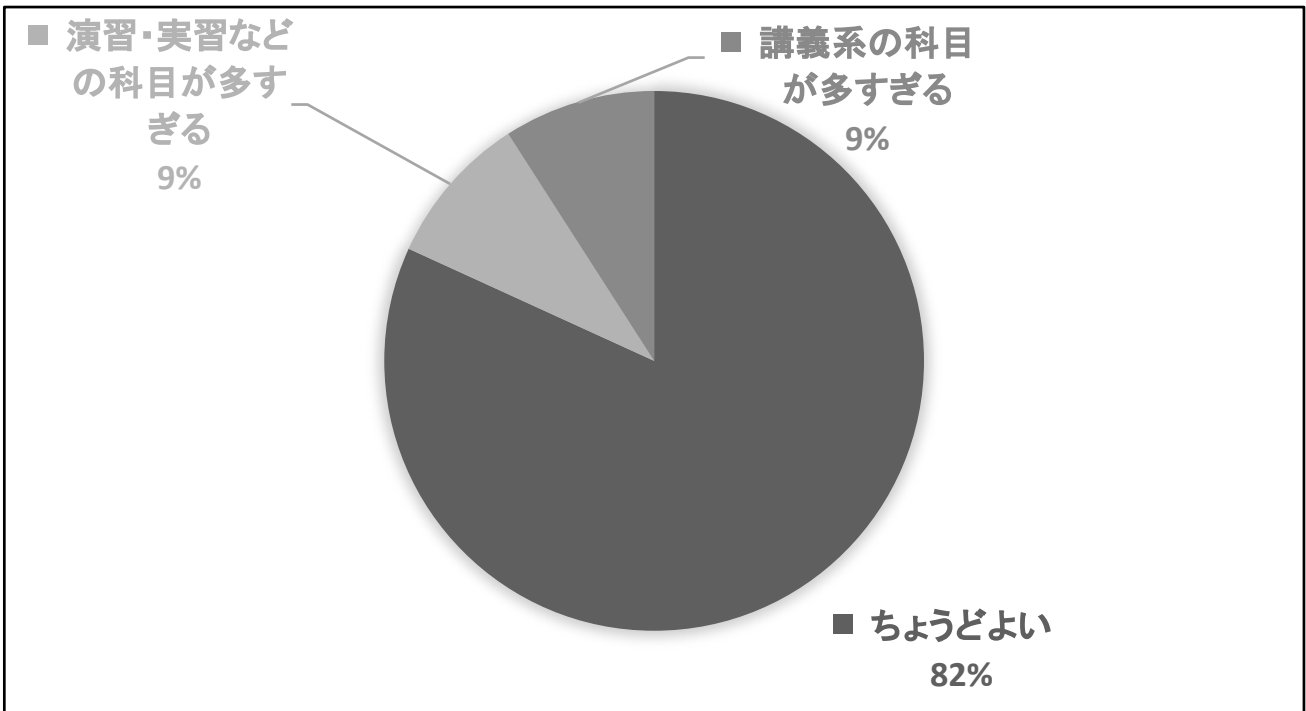
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-4. 大学院の教育課程(カリキュラム)は、自分の目指す学問分野や職業分野の能力を獲得するうえで、体系的に編成されていたと思いますか。



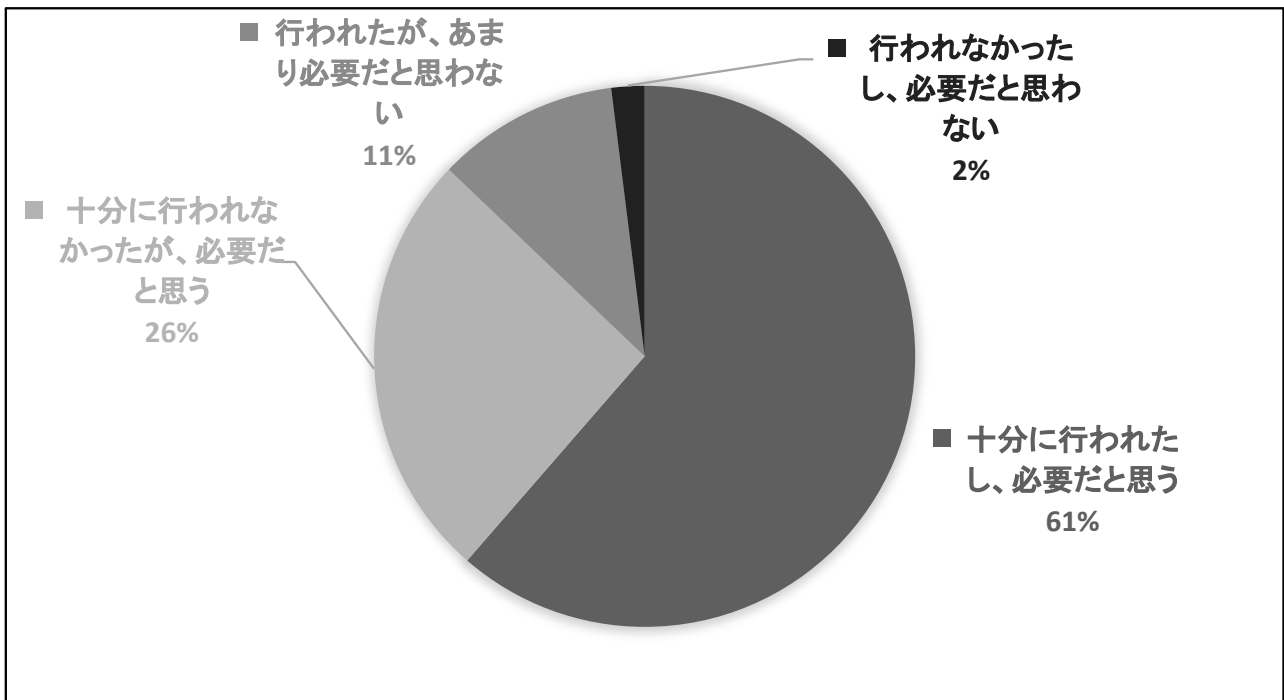
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-5. 講義系の科目(知識や理論の獲得を目指すもの)と演習・実習などの科目(実用的・実践的な力の獲得を目指すもの)の比率についてどのように感じましたか。



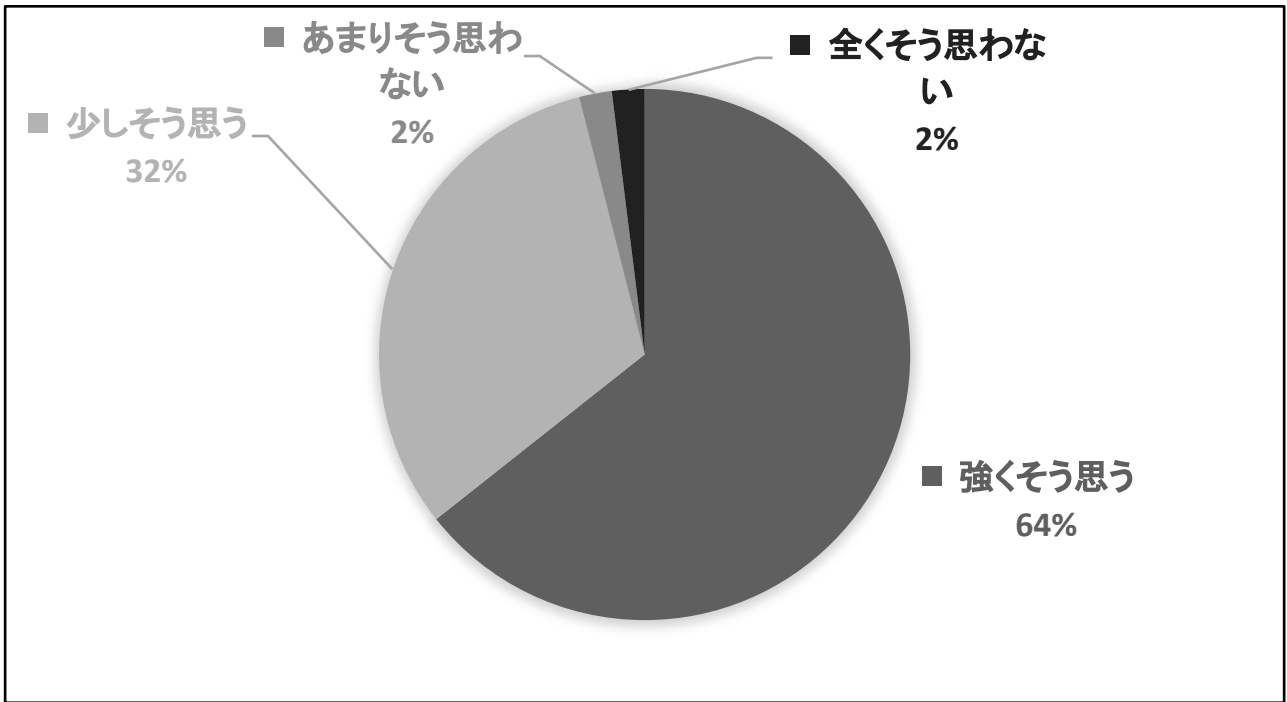
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-6. 大学院の科目を履修するうえで、履修アドバイスやガイダンスについてどのように感じましたか。



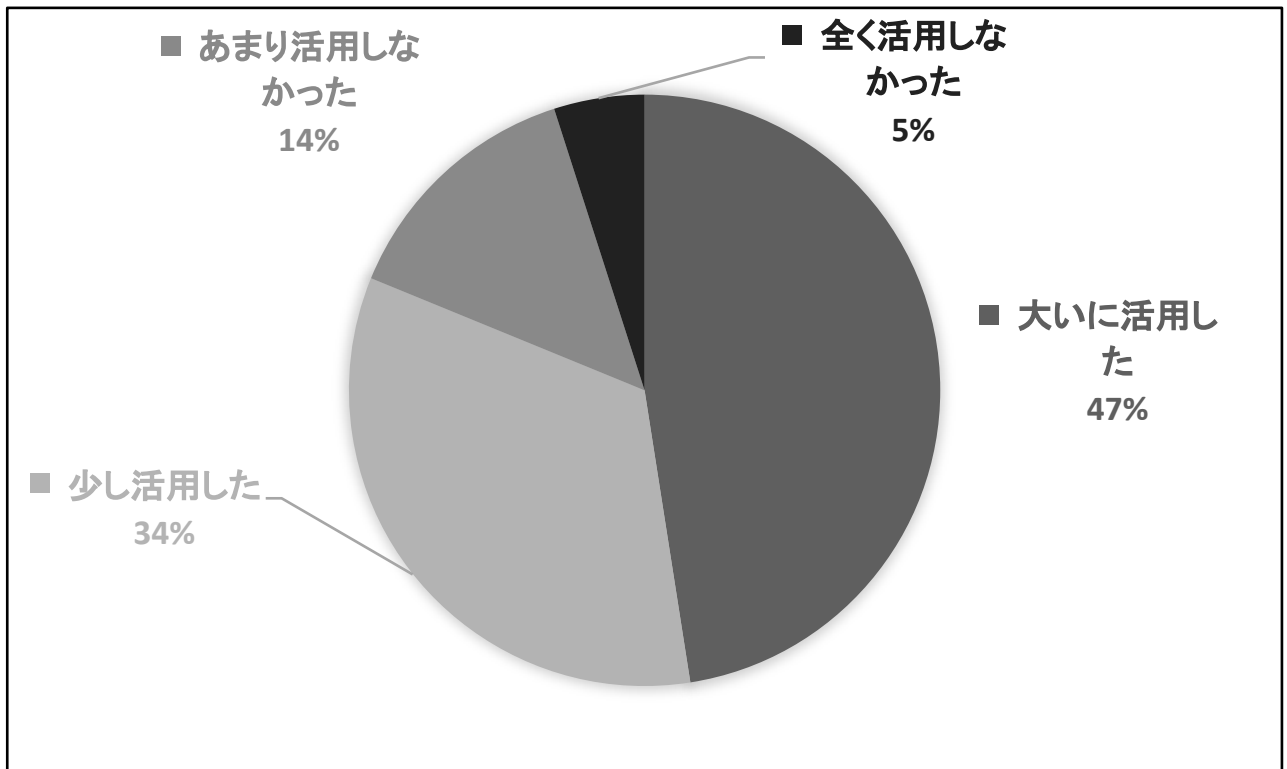
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-7. 大学院での研究を計画的に進めていくうえで、研究指導は十分に行われたと思いますか。



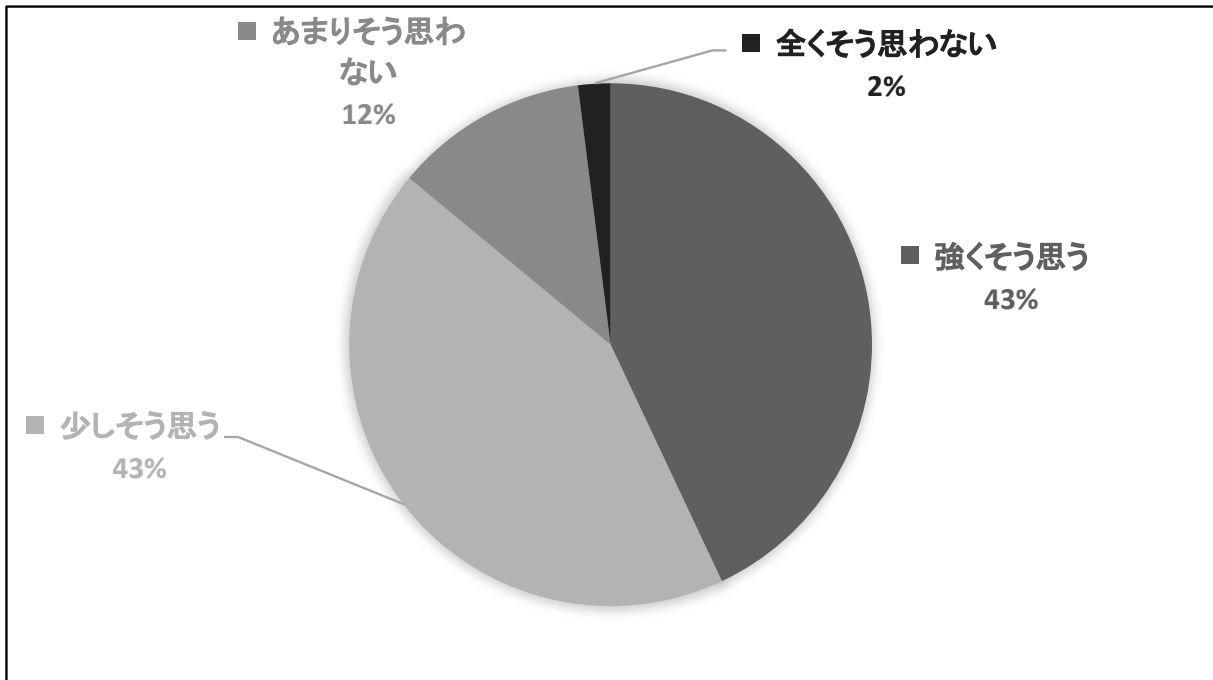
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-8. 大学院での学修計画を立てるのにシラバスを活用しましたか



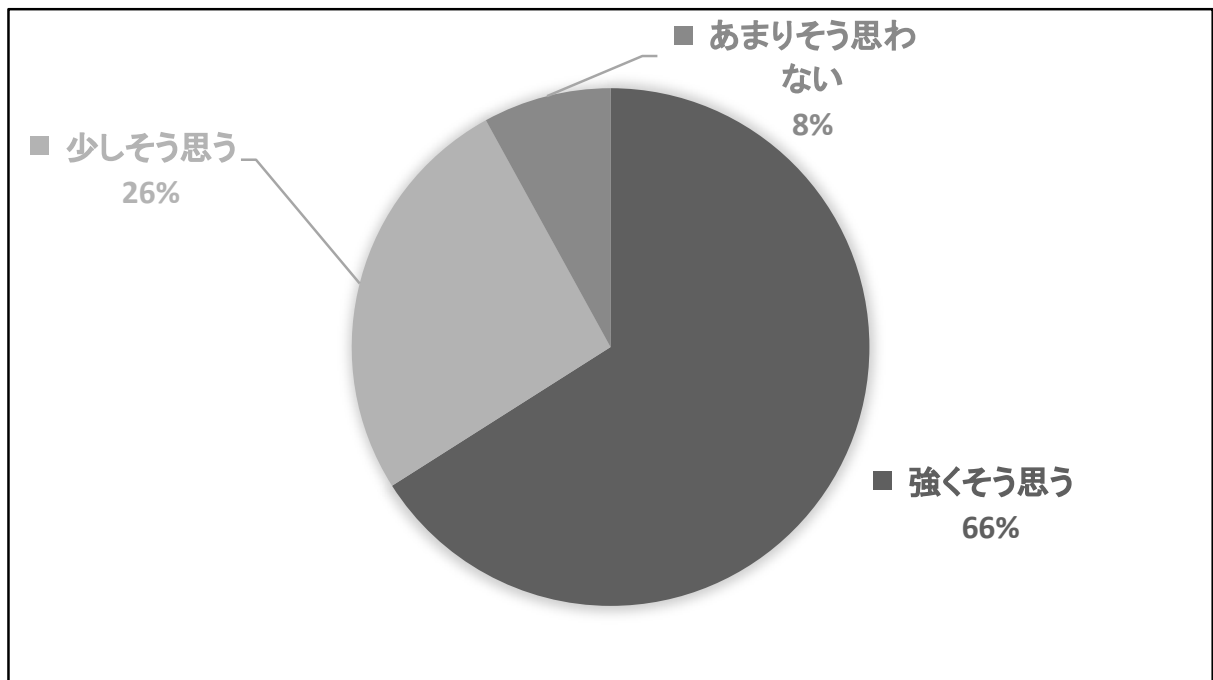
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-9. 図書館や研究室、実験器具の使用など、自分たちが自主的に学修を進めるための環境が十分整っていたと思いますか。



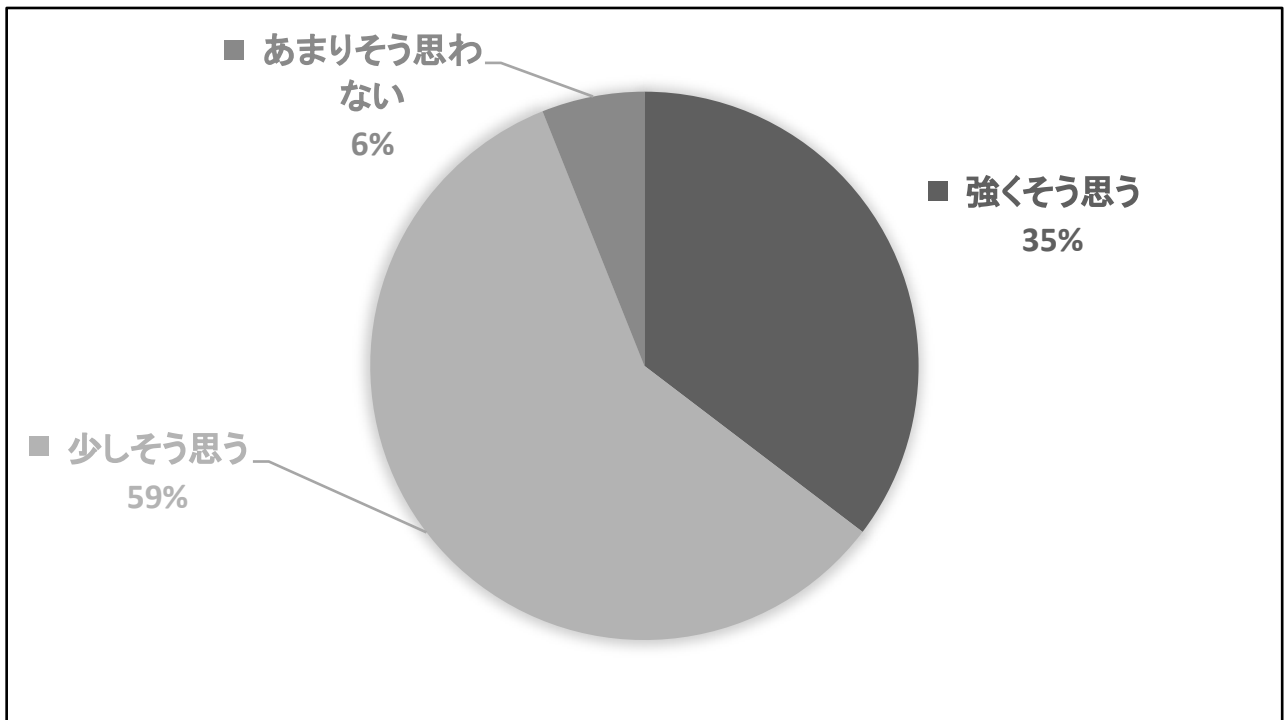
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-10. 学修指導や研究指導など、自分たちが自主的に学修を進めるために、教員は十分な配慮をしていたと思いますか。



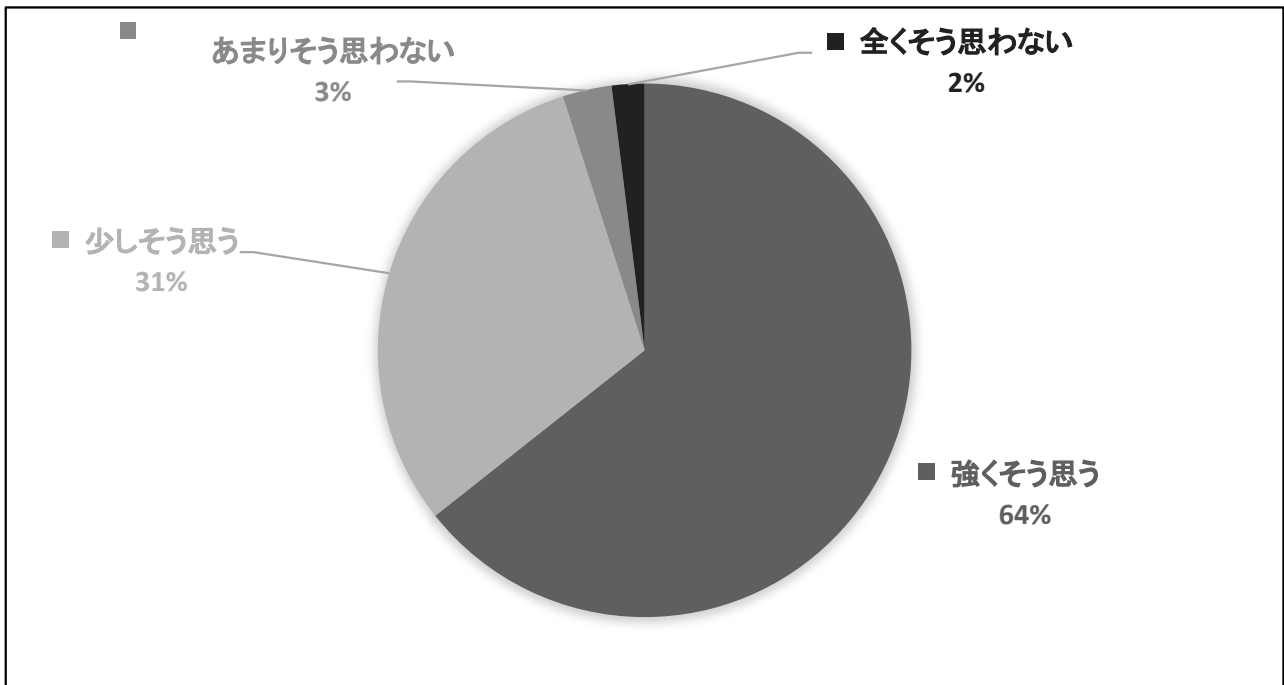
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-11. 自分の受講した科目において成績評価の方法や手順ははっきりと示されていたと思いますか。



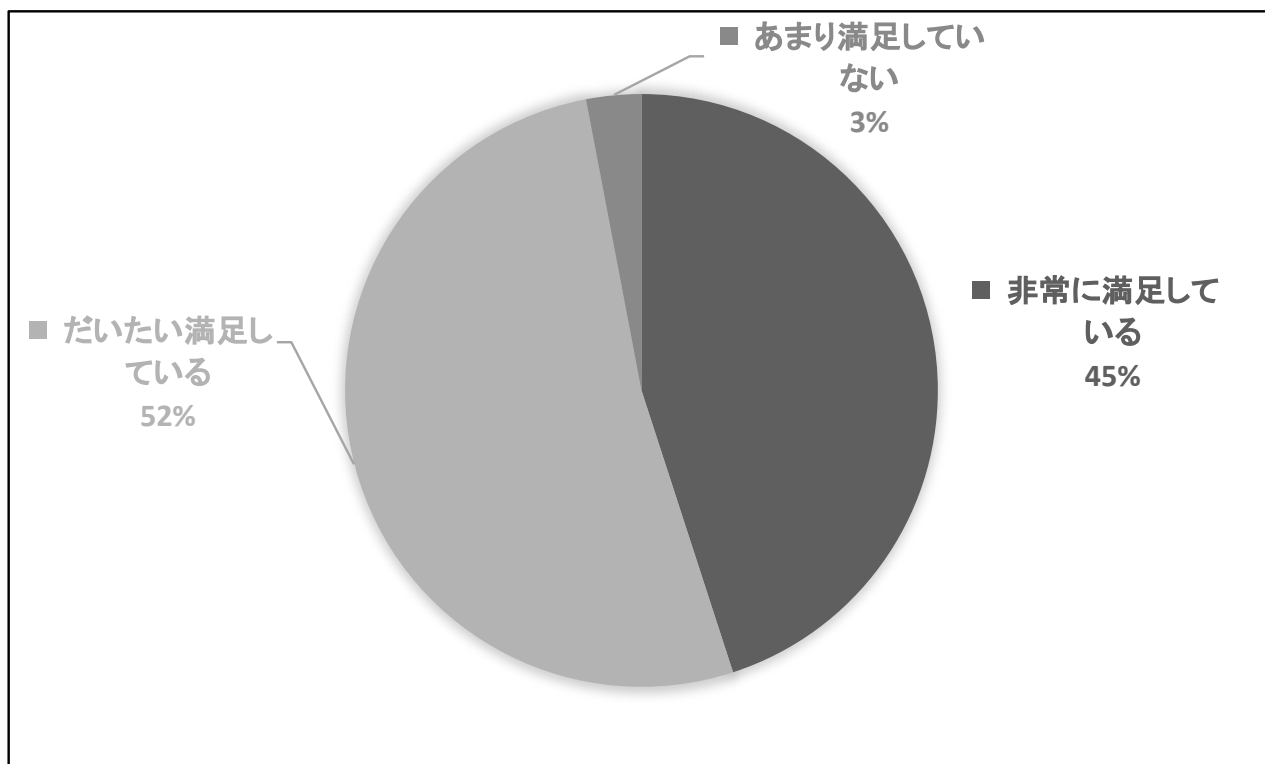
※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-12. 自分の受講した科目において成績評価は公正だったと思いますか。



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 2-13. 福島大学大学院での学修や研究を通じて自分自身が身につけた学力や能力についてどのように感じていますか。



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

◎就業後における大学院時代の経験の重要性

修了生調査では、図 2-14 で「修了した大学」「大学院修了時の専門分野」「成績（研究成果含む）」「サークル等での実績」「人的なネットワーク」が、採用時にどれだけ評価されたかを調査している。選択肢は、「とても重要」「ある程度重要」「あまり重要ではない」「重要ではない」の4つである。「とても重要」「ある程度重要」の合計割合が高い順に、「大学院修了時の専門分野」54%、「人的なネットワーク」47%、「成績（研究成果含む）」41%、「修了した大学」35%、「サークル等での実績」12%となる。

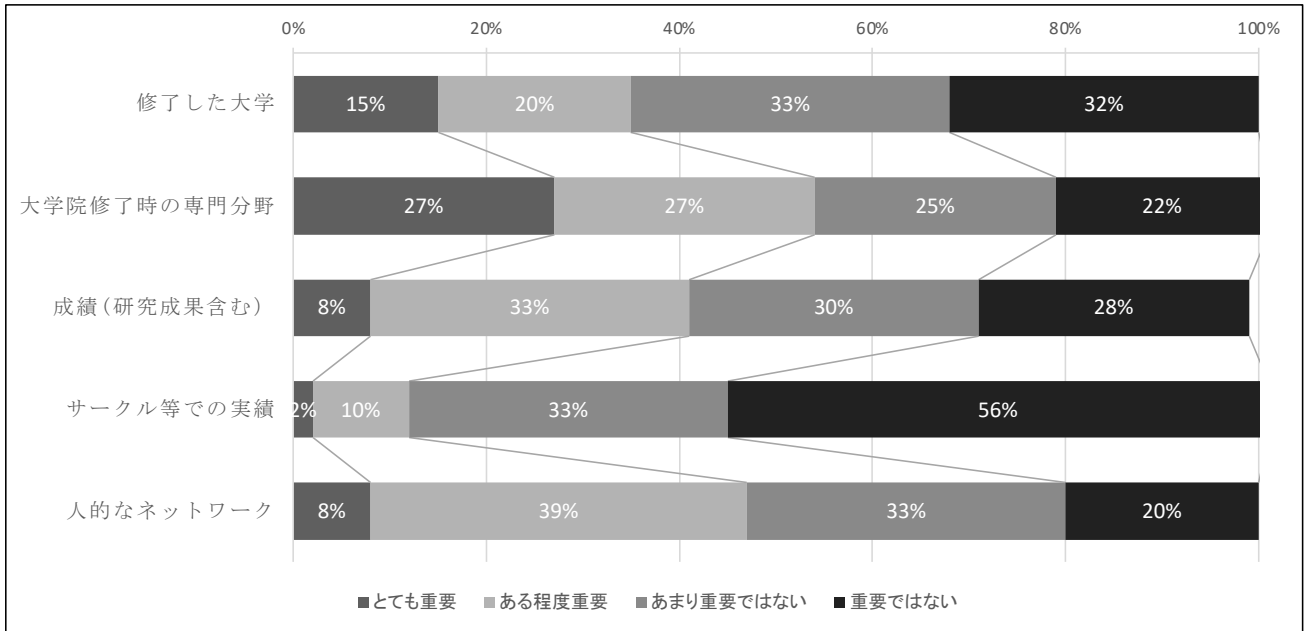
また修了生調査では、図 2-15 に示す大学院時代の経験（10項目）が、どの程度、現在の仕事で重要かについて調べている。選択肢は、前問と同様に、「とても重要」「ある程度重要」「あまり重要ではない」「重要ではない」の4つで、前問と同様である。「とても重要」「ある程度重要」の合計割合が高い順にみると、「学問を修得することによる考え方の訓練」92%、「専門分野の修得による考え方の訓練」87%、「先端の学問に触れることによる知的好奇心」86%、「教員との交流」86%、「友人・先輩との交流」84%、「大学院進学時に獲得した基礎学力」83%、「未知のことに目をひらかせられる経験」82%、「研究室・ゼミでの経験」69%、「修士論文・修士研究等の経験」68%、「アルバイトの経験」34%となっている。

◎各種能力の修得状況

図 2-16 では、社会人基礎力についての集計結果を示している。修了生調査では、現職場で働く上で重要であると考えられる能力、自分の優れた能力、自分にとって不足している能力について、複数回答で尋ねている。以下は、それぞれ選択肢の割合（分母は回答者総数）が高い順に3項目を見ていこう。まず働く上で重要であると考えられる能力では、「主体性」94%、「実行力」77%および「課題発見力」77%が挙げられた。次に福島大生なし自分の優れた能力は、「傾聴力」58%、「主体性」および「状況把握力」が同率で55%であった。一方、不足していると感じる能力は「働きかけ力」55%、「創造力」50%、「発信力」が44%であった。福島大学の修了生は、自分たちの主体性や状況把握力や傾聴力を比較的に高く評価し、働きかけ力や創造力や発信力に不足を感じている。特に、傾聴力が高いのは、修了生と卒業生調査の共通点である。働きかけ力が低いのも、卒業生調査と同様である。

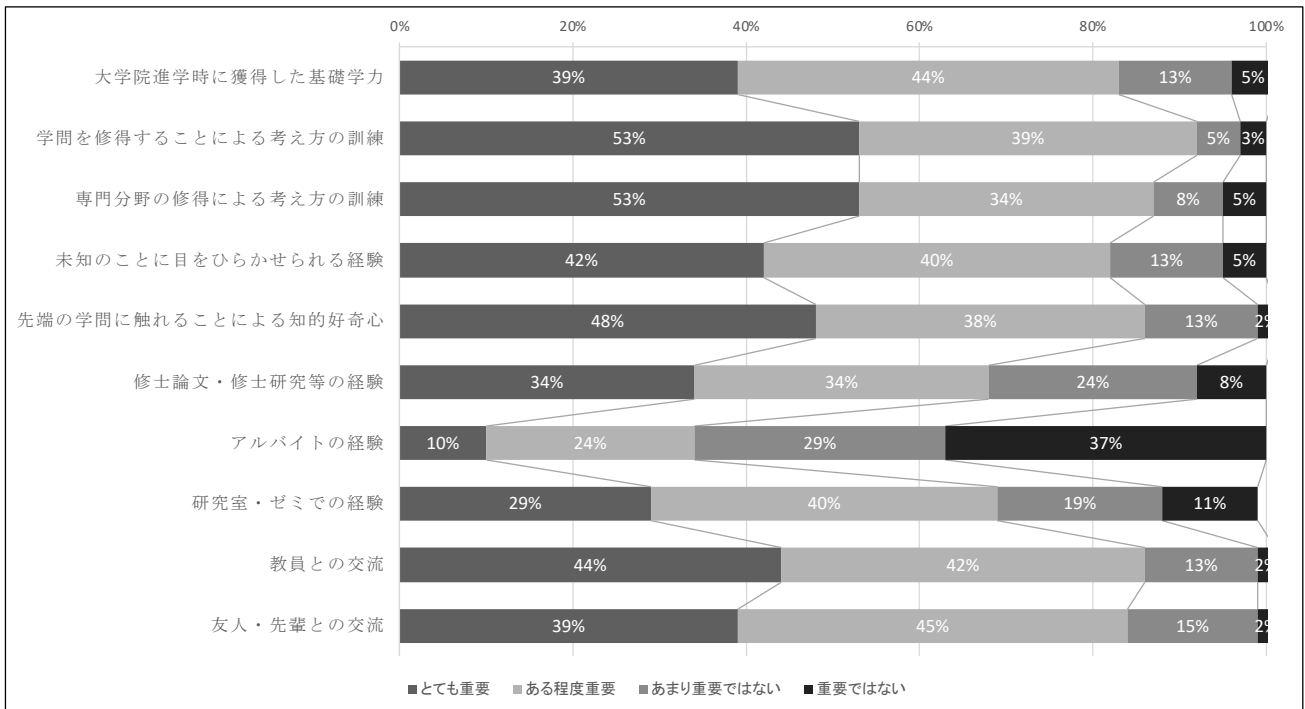
また、社会人基礎力以外にも、図 2-17 で示される能力に関する設問（4択）が修了生調査に含まれている。「とてもある」「ややある」の合計割合が高い上位3項目は、「多角的・総合的な思考」85%、「自ら学修する習慣」84%、「インターネットで情報を適切に集める力」83%であった。一方、合計割合が高い下位3項目は、「外国語の能力」25%、「健康や運動に関する科学的認識」41%、「異文化の理解」44%であった。福島大学の修了生は、自分たちの多角的・総合的な思考や自ら学修する習慣や情報収集力を比較的に高く評価する一方で、外国語能力や健康・運動に関する科学的認識や異文化の理解を比較的に低く評価している。そのうち、自分たちの情報収集力の修得力や自ら学修する習慣が高い点は、修了生および卒業生調査に共通した特徴である。また、外国語能力が低い点も、卒業生調査の結果と共通する。

図 2-14 採用された際に評価された点



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

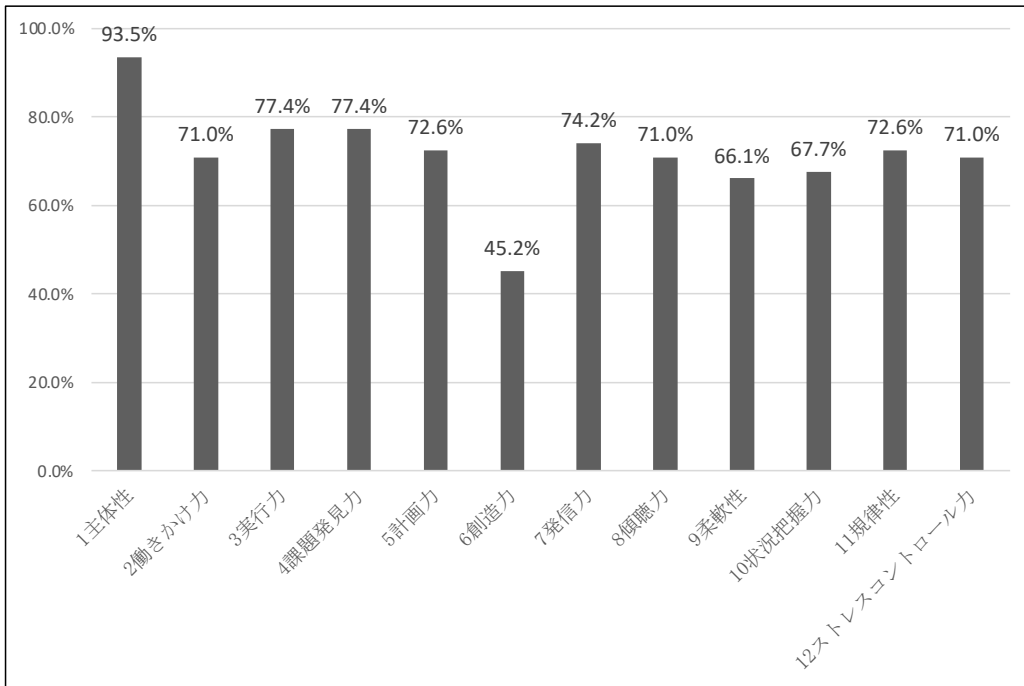
図 2-15 大学院時代の経験の重要性



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

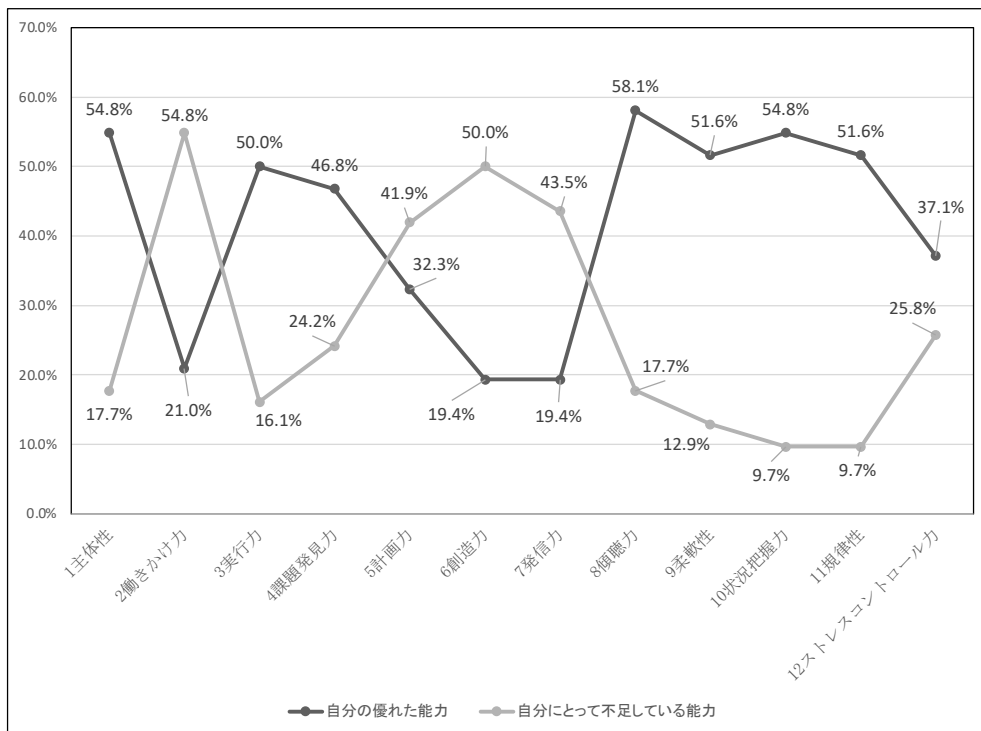
図 2-16 社会人基礎力について

働く上で重要であると考えられる能力



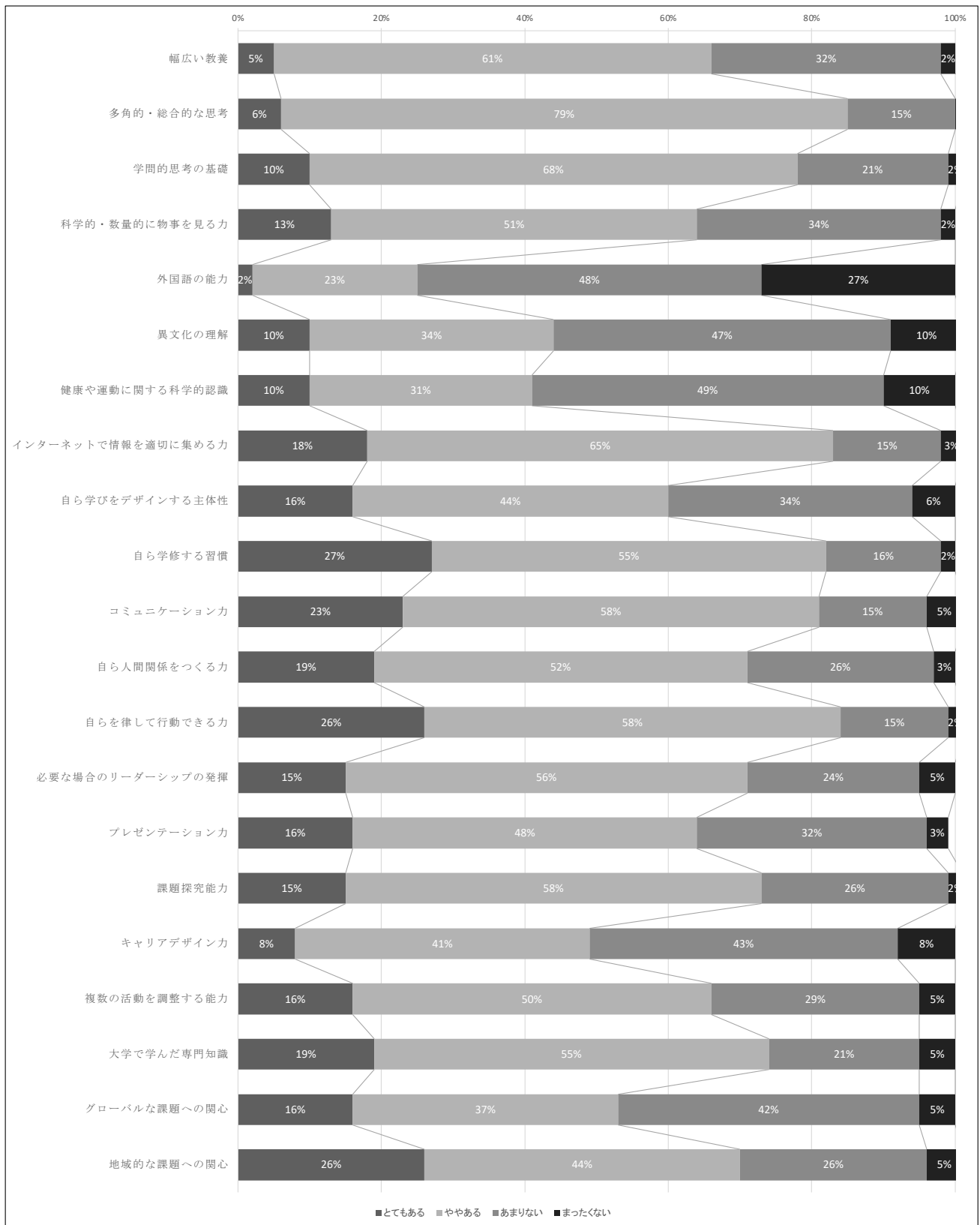
※上図の分母は回答者総数（65名）である。

自分の優れた能力、自分にとって不足している能力



※上図の分母は回答者総数（65名）である。

図 2-17 自分自身の能力の評価



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

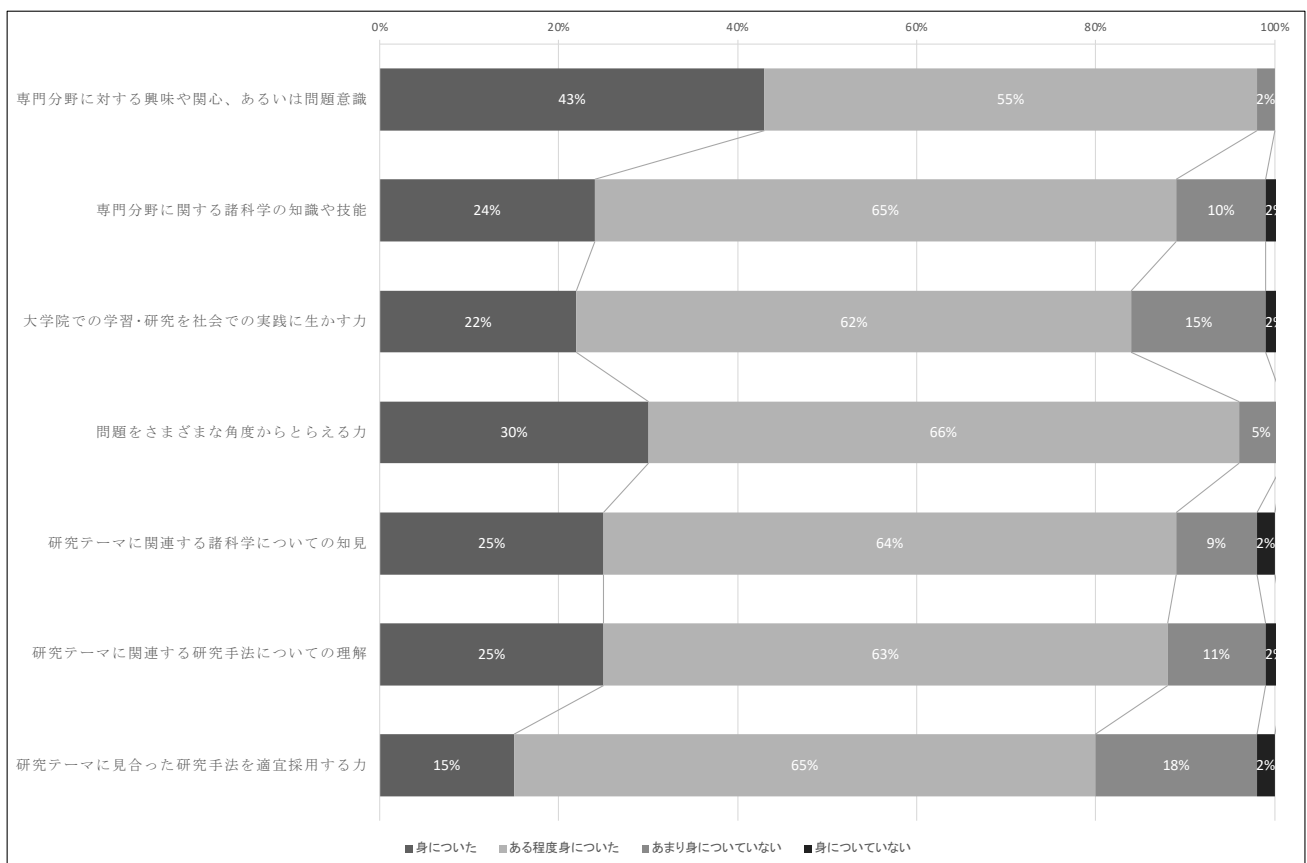
◎各研究科での学びについて

修了生調査では、福島大学大学院での学修・研究を通じた能力の修得について、全研究科共通の設問と各研究科固有の設問で、それぞれ尋ねている。各研究科固有の設問については、学生が在学時に所属した研究科に応じて変わる。また全研究科の共通設問と各研究科別の設問のいずれでも、「身についた」「ある程度身についた」「あまり身につけていない」「身につけていない」という4つの選択肢で、どれだけ能力が身についたかを尋ねている。

ここでは、全研究科共通の設問の回答結果をまとめる(図2-18)。最も高い割合で「身についた」「ある程度身についた」と答えた順に、「専門分野に対する興味や関心、あるいは問題意識」98%、「問題をさまざまな角度からとらえる力」96%、「専門分野に関する諸科学の知識や技能」89%、「研究テーマに関連する諸科学についての知見」89%、「研究テーマに関連する研究手法についての理解」88%、「大学院での学習・研究を社会での実践に生かす力」84%、「研究テーマに見合った研究手法を適宜採用する力」80%であった。いずれの能力でも、高い修得状況(8割超え)が示されている。

また各研究科固有の設問の集計結果は、本章の第2節に掲載されている。詳細の回答については、本章第2節をご参照いただきたい。

図2-18 大学院での学習・研究を通して下記の項目内容がどの程度身についたと思いますか。



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

◎自由記述

修了生調査の最後に、「印象に残っている教育・授業」および「在学中に身につけて欲しいこと」についての自由記述欄が設けられている。具体的な設問は、「あなたの印象に残っている福島大学での教育・授業などについて自由にご記入ください」「その他、福島大学の学生に、在学中身につけて欲しいことについて自由にご回答ください」となっている。ここでは簡単にまとめる。詳細は本章第2節の各研究科別に掲載されている。

概して言えば、修了生調査に寄せられた自由記述では、ゼミや授業内の議論が言及されることが多い。たとえば、印象に残る教育として、「ゼミでそれぞれの研究についての討論」（地域政策科学研究科）、「指導教官とのカンファレンス内での対話」（人間発達文化研究科）、「院生同士でディスカッションをする授業が印象に残りました」（人間発達文化研究科）、「学びの心理学を読み解く会。みんなで同じ文献を読んで考えたことが楽しかったです」（人間発達文化研究科）、「議論が深い」（地域政策科学研究科）、「幅広い分野の多くの書籍と先生方との対話」（経済学研究科）が挙げられる。

また自由記述から大学院時代の経験が高く評価される傾向がある。たとえば、「今の仕事や社会生活に直結し何一つ無駄はない。全てがいかされている」（人間発達文化研究科）、「研究をする事で新しい未来が拓けるような3年間でした。指導教官に支えられ研究を思いっきりできたことは、とても有意義でした。これから引き続き研究していこうという気持ちになりました。」（人間発達文化研究科）、「各先生方の講義やゼミを通して、地域社会において必要な政策や課題を主体的に考えることの重要性を改めて感じた。社会人になっても学び直しが出来る大学院課程は心強い存在、これからも地域にひらかれた福島大学であって欲しいです」（地域政策科学研究科）、「学問、研究の意義を改めて理解することができた。紆余曲折の実践をししながらも真理を追求する姿勢の重要さを感じた。先生方が学生に真摯に向き合って指導して下さいました」（地域政策科学研究科）、「自分が望めば、分野の垣根なく授業をとることができたこと」（共生システム理工学研究科）が挙げられる。

学生に身につけて欲しいことについては、多様な意見が寄せられている。たとえば、「研究分野を多面的・多角的にとらえ、学ぶ力と様々な研究分野の院生(学生)・教授や学校現場とのコミュニケーション」（人間発達文化研究科）、「疑問があったら積極的にフィールドワークして情報収集しましょう。若さは武器、何事も恐れずにチャレンジして新たな発見体験に繋げて下さい。学部領域を越えた交流の機会を持って専門性や知識に偏らない人間力増強を図って下さい」（地域政策科学研究科）、「海外の研究発表参画」（共生システム理工学研究科）、「多角的な視点で、人と自然、個人と社会を理解する知性と抱ける心。」（経済学研究科）が挙げられている。

こうした「福島大学での学生生活の評価」や、「後輩に身につけて欲しいこと」に関しては、建設的な意見が多く寄せられている。個人情報保護のため自由記述の掲載を割愛した。

第2節 単純集計

第1項 人間発達文化研究科の修了生

I. あなたの福島大学大学院の在学経験と、教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学大学院への入学年と修了年（西暦）をお答えください。

入学	2015	5 (17%)	卒業	2017	3 (10%)
	2016	2 (7%)		2018	5 (17%)
	2017	5 (17%)		2019	3 (10%)
	2018	6 (20%)		2020	8 (27%)
	2019	6 (20%)		2021	4 (13%)
	2020	5 (17%)		2022	6 (20%)
	未記入	1 (3%)		未記入	1 (3%)
	計	30 (100%)		計	30 (100%)

Q3：福島大学大学院修了時の所属研究科（専攻）について、該当する項目を選択してください。

人間発達文化研究科（教職教育専攻）	21 (70%)
人間発達文化研究科（地域文化創造専攻）	2 (7%)
人間発達文化研究科（学校臨床心理専攻）	7 (23%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Q4：福島大学大学院修了後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	28 (93%)
福島大学の大学院博士後期課程	0 (0%)
他大学の大学院博士後期課程	0 (0%)
その他	2 (7%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Q5-Q12：大学在籍時の福島大学院の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q5 専門的知識を身につける	26 (87%)	4 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q6 幅広い知識を身につける	20 (67%)	9 (30%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q7 ディベートやプレゼンテーション	17 (57%)	10 (33%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q8 実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）	12 (40%)	9 (30%)	6 (20%)	3 (10%)	0 (0%)	30 (100%)
Q9 実践的な外国語学修	1 (3%)	2 (7%)	7 (23%)	20 (67%)	0 (0%)	30 (100%)
Q10 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	14 (47%)	14 (47%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q11 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	10 (33%)	15 (50%)	3 (10%)	2 (7%)	0 (0%)	30 (100%)
Q12 職業観醸成プログラム	6 (20%)	13 (43%)	6 (20%)	5 (17%)	0 (0%)	30 (100%)

Q13-Q20：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q13 専門的知識を身につける	27 (90%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q14 幅広い知識を身につける	23 (77%)	7 (23%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q15 ディベートやプレゼンテーション	19 (63%)	10 (33%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q16 実学を学ぶプログラム (インターンシップなど)	16 (53%)	13 (43%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q17 実践的な外国語学修	6 (20%)	11 (37%)	8 (27%)	5 (17%)	0 (0%)	30 (100%)
Q18 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	20 (67%)	8 (27%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q19 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	17 (57%)	7 (23%)	5 (17%)	1 (3%)	0 (0%)	30 (100%)
Q20 職業観醸成プログラム	11 (37%)	13 (43%)	4 (13%)	2 (7%)	0 (0%)	30 (100%)

II. 福島大学大学院での教育について伺います。

Q21：全体的に見て、自分の受けた大学院の授業科目において、達成すべき目標や身につけるべき力は明確だったと思いますか。

非常に明確だった	11 (37%)
だいたい明確だった	18 (60%)
あまり明確でなかった	1 (3%)
全く明確でない	0 (0%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Q22：大学院の教育課程(カリキュラム)は、自分の目指す学問分野や職業分野の能力を獲得するうえで、体系的に編成されていたと思いますか。

強くそう思う	16 (53%)
少しそう思う	12 (40%)
あまりそう思わない	2 (7%)
全くそう思わない	0 (0%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Q23：講義系の科目(知識や理論の獲得を目指すもの)と演習・実習などの科目(実用的・実践的な力の獲得を目指すもの)の比率についてどのように感じましたか。

ちょうどよい	26 (87%)
講義系の科目が多すぎる	1 (3%)
演習・実習などの科目が多すぎる	3 (10%)
その他	0 (0%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Q24：大学院の科目を履修するうえで、履修アドバイスやガイダンスについてどのように感じましたか。

十分に行われたし、必要だと思う	18 (60%)
十分に行われなかったが、必要だと思う	10 (33%)
行われたが、あまり必要だと思わない	2 (7%)
行われなかったし、必要だと思わない	0 (0%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Q25：大学院での研究を計画的に進めていくうえで、研究指導は十分に行われたと思いますか。

強くそう思う	19(63%)
少しそう思う	10(33%)
あまりそう思わない	1(3%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	30(100%)

Q26：大学院での学修計画を立てるのにシラバスを活用しましたか。

大いに活用した	16(53%)
少し活用した	9(30%)
あまり活用しなかった	4(13%)
全く活用しなかった	1(3%)
未記入	0(0%)
計	30(100%)

Q27：図書館や研究室、実験器具の使用など、自分たちが自主的に学修を進めるための環境が十分整っていたと思いますか。

強くそう思う	13(43%)
少しそう思う	15(50%)
あまりそう思わない	2(7%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	30(100%)

Q28：学修指導や研究指導など、自分たちが自主的に学修を進めるために、教員は十分な配慮をしていたと思いますか。

強くそう思う	18(60%)
少しそう思う	10(33%)
あまりそう思わない	2(7%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	30(100%)

Q29：自分の受講した科目において成績評価の方法や手順ははっきりと示されていたと思いますか。

強くそう思う	7(23%)
少しそう思う	22(73%)
あまりそう思わない	1(3%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	30(100%)

Q30：自分の受講した科目において成績評価は公正だったと思いますか。

強くそう思う	17 (57%)
少しそう思う	11 (37%)
あまりそう思わない	1 (3%)
全くそう思わない	1 (3%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Q31：福島大学大学院での学修や研究を通じて自分自身が身につけた学力や能力についてどのように感じていますか。

非常に満足している	12 (40%)
だいたい満足している	18 (60%)
あまり満足していない	0 (0%)
全く満足していない	0 (0%)
未記入	0 (0%)
計	30 (100%)

Ⅲ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q32：就職した年を西暦でお答えください。

就職	1980	1 (3%)	2004	3 (10%)	2017	2 (7%)	未記入	2 (8%)
	1995	1 (3%)	2006	1 (3%)	2018	1 (3%)		
	2000	1 (3%)	2008	4 (13%)	2019	1 (3%)		
	2002	1 (3%)	2009	1 (3%)	2020	3 (10%)		
	2003	2 (7%)	2010	2 (7%)	2022	4 (13%)		

Q33/Q34：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	0 (0%)
	2 鉱業	0 (0%)
	3 建設業	0 (0%)
	4 製造業	0 (0%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0%)
	6 情報通信業	0 (0%)
	7 運輸業	0 (0%)
	8 卸売・小売業	0 (0%)
	9 金融・保険業	0 (0%)
	10 不動産業	0 (0%)
	11 飲食店、宿泊業	0 (0%)
	12 医療、福祉	2 (7%)
	13 教育、学習支援業	25 (83%)
	14 複合サービス事業	0 (0%)
	15 他に分類されないサービス業	1 (3%)
	16 他に分類されない公務	1 (3%)
	17 その他	1 (3%)
	未記入	0 (0%)
	計	30 (100%)

職種	1 一般事務	1 (3%)
	2 営業・販売職	0 (0%)
	3 サービス職	0 (0%)
	4 技術職	0 (0%)
	5 専門職	22 (73%)
	6 その他	7 (23%)
	未記入	0 (0%)
	計	30 (100%)

※その他内訳

教育	2
教員	2
公務員	2
心理職	1

※その他内訳

自営業

1

Q35：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	6(20%)
	2 30-99名	3(10%)
	3 100-499名	2(7%)
	4 500-999名	0(0%)
	5 1,000-4,999名	2(7%)
	6 5,000-9,999名	0(0%)
	7 10,000名以上	0(0%)
	官庁(国家公務)	0(0%)
	地方公共団体(地方公務)	1(3%)
	学校(教育機関)	16(53%)
	公団・事業団等(準公務)	0(0%)
	その他	0(0%)
	未記入	0(0%)
	計	30(100%)

Q36：現在の年収(総支給額)について、当てはまるものをひとつ選んでください。

規模	収入はない	0(0%)
	200万円未満	2(7%)
	200-299万円	4(13%)
	300-399万円	6(20%)
	400-499万円	1(3%)
	500-599万円	2(7%)
	600-699万円	8(27%)
	700-799万円	4(13%)
	分からない・答えたくない	3(10%)
	未記入	0(0%)
	計	30(100%)

Q37-Q41：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q37 修了した大学	6(20%)	6(20%)	7(23%)	10(33%)	1(3%)	30(100%)
Q38 大学院修了時の専門分野	11(37%)	8(27%)	5(17%)	5(17%)	1(3%)	30(100%)
Q39 成績(研究成果含む)	2(7%)	14(47%)	7(23%)	6(20%)	1(3%)	30(100%)
Q40 サークル等での実績	1(3%)	4(13%)	9(30%)	16(53%)	0(0%)	30(100%)
Q41 人的なネットワーク	4(13%)	13(43%)	8(27%)	5(17%)	0(0%)	30(100%)

Q42-Q44：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分の優れた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	Q42 働く上で重要な能力	Q43 自分の優れた能力	Q44 自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	27 (90%)	16 (53%)	6 (20%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	24 (80%)	6 (20%)	16 (53%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	23 (77%)	14 (47%)	5 (17%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	24 (80%)	12 (40%)	7 (23%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	25 (83%)	10 (33%)	8 (27%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	14 (47%)	3 (10%)	17 (57%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	25 (83%)	6 (20%)	14 (47%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	25 (83%)	20 (67%)	3 (10%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	23 (77%)	13 (43%)	5 (17%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	24 (80%)	19 (63%)	3 (10%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	23 (77%)	14 (47%)	3 (10%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	25 (83%)	12 (40%)	7 (23%)

注：ここでのパーセントは全体 (30) を分母とした場合の割合。

Q45-Q54：現在のお仕事において、下記の大学院時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q45 大学院進学時に獲得した基礎学力	14 (47%)	13 (43%)	1 (3%)	2 (7%)	0 (0%)	30 (100%)
Q46 学問を修得することによる考え方の訓練	16 (53%)	11 (37%)	2 (7%)	1 (3%)	0 (0%)	30 (100%)
Q47 専門分野の修得による考え方の訓練	18 (60%)	9 (30%)	2 (7%)	1 (3%)	0 (0%)	30 (100%)
Q48 未知のことに目をひらかせられる経験	11 (37%)	16 (53%)	2 (7%)	1 (3%)	0 (0%)	30 (100%)
Q49 先端の学問に触れることによる知的好奇心	13 (43%)	15 (50%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
Q50 修士論文・修士研究等の経験	8 (27%)	13 (43%)	7 (23%)	2 (7%)	0 (0%)	30 (100%)
Q51 アルバイトの経験	1 (3%)	7 (23%)	11 (37%)	11 (37%)	0 (0%)	30 (100%)
Q52 研究室・ゼミでの経験	10 (33%)	14 (47%)	5 (17%)	1 (3%)	0 (0%)	30 (100%)
Q53 教員との交流	12 (40%)	13 (43%)	4 (13%)	1 (3%)	0 (0%)	30 (100%)
Q54 友人・先輩との交流	8 (27%)	18 (60%)	4 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)

Q55-Q75：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q55 幅広い教養	2(7%)	16(53%)	12(40%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q56 多角的・総合的な思考	2(7%)	23(77%)	5(17%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q57 学問的思考の基礎	1(3%)	23(77%)	6(20%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q58 科学的・数量的に物事を見る力	1(3%)	15(50%)	13(43%)	0(0%)	1(3%)	30(100%)
Q59 外国語の能力	1(3%)	7(23%)	12(40%)	10(33%)	0(0%)	30(100%)
Q60 異文化の理解	4(13%)	13(43%)	13(43%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q61 健康や運動に関する科学的認識	2(7%)	11(37%)	16(53%)	1(3%)	0(0%)	30(100%)
Q62 インターネットで情報を適切に集める力	4(13%)	21(70%)	4(13%)	1(3%)	0(0%)	30(100%)
Q63 自ら学びをデザインする主体性	2(7%)	20(67%)	8(27%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q64 自ら学修する習慣	8(27%)	18(60%)	4(13%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q65 コミュニケーション力	7(23%)	19(63%)	4(13%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q66 自ら人間関係をつくる力	4(13%)	20(67%)	6(20%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q67 自らを律して行動できる力	5(17%)	21(70%)	3(10%)	1(3%)	0(0%)	30(100%)
Q68 必要な場合のリーダーシップの発揮	2(7%)	20(67%)	7(23%)	1(3%)	0(0%)	30(100%)
Q69 プレゼンテーション力	3(10%)	16(53%)	10(33%)	1(3%)	0(0%)	30(100%)
Q70 課題探究能力	3(10%)	20(67%)	7(23%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q71 キャリアデザイン力	3(10%)	13(43%)	14(47%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q72 複数の活動を調整する能力	5(17%)	16(53%)	9(30%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q73 大学院で学んだ専門知識	5(17%)	21(70%)	4(13%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q74 グローバルな課題への関心	5(17%)	12(40%)	13(43%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q75 地域的な課題への関心	5(17%)	15(50%)	9(30%)	1(3%)	0(0%)	30(100%)

IV. 1：全ての研究科の修了生にお聞きします。

Q76-Q82：福島大学大学院での学習・研究を通して下記の項目内容がどの程度身についたと思いますか。

【全ての研究科の修了全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
Q76 専門分野に対する興味や関心、あるいは問題意識	12(40%)	18(60%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q77 専門分野に関する諸科学の知識や技能	8(27%)	18(60%)	2(7%)	0(0%)	2(7%)	30(100%)
Q78 大学院での学習・研究を社会での実践に生かす力	6(20%)	23(77%)	1(3%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q79 問題をさまざまな角度からとらえる力	8(27%)	21(70%)	1(3%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q80 研究テーマに関連する諸科学についての知見	6(20%)	22(73%)	2(7%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q81 研究テーマに関連する研究手法についての理解	4(13%)	24(80%)	2(7%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
Q82 研究テーマに見合った研究手法を適宜採用する力	2(7%)	22(73%)	6(20%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)

Q83：所属していた研究科

専攻	人間発達文化研究科（学校臨床心理専攻）	7(23%)
	人間発達文化研究科（地域文化創造専攻）	2(7%)
	人間発達文化研究科（教職教育専攻）	21(70%)
	未記入	0(0%)
	計	30(100%)

IV. 2:各研究科の設問にお答えください。

Q84-Q86：あなたは以下の項目(研究科のディプロマポリシー)について、所属していた研究科で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【人間発達文化研究科の修了生】		身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
修士課程	Q84 人間や地域や文化に対する問題意識と、高度専門職業人にふさわしい知識と技能	7(23%)	21(70%)	2(7%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)
	Q85 課題を解決するために必要な組織や人材を活かしながら、修得した知識や技能を学校や地域で積極的に生かそうとする態度や技能	6(20%)	21(70%)	2(7%)	0(0%)	1(3%)	30(100%)
	Q86 人間や社会の発達における文化の役割を理解し、次世代を育成する実践力	4(13%)	23(77%)	3(10%)	0(0%)	0(0%)	30(100%)

V. あなた自身について伺います。

Q87：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	10 (33%)
	女性	19 (63%)
	未記入	1 (3%)
	計	30 (100%)

Q88：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	24	1 (3%)
	25	1 (3%)
	26	2 (7%)
	27	1 (3%)
	30	2 (7%)
	34	1 (3%)
	35	1 (3%)
	36	1 (3%)
	37	1 (3%)
	41	2 (7%)
	42	1 (3%)
	43	2 (7%)
	44	1 (3%)
	45	2 (7%)
	49	1 (3%)
	51	1 (3%)
	62	2 (7%)
	63	1 (3%)
	64	2 (7%)
	65	1 (3%)
未記入	3 (10%)	
計	30 (100%)	

Q89：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	24 (80%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	5 (17%)
	3 自営業主・家族従業者	1 (3%)
	4 無職	0 (0%)
	5 学生	0 (0%)
	6 その他	0 (0%)
	未記入	0 (0%)
	計	30 (100%)

第2項 地域政策科学研究科の修了生

I. あなたの福島大学大学院の在学経験と、教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学大学院への入学年と修了年（西暦）をお答えください。

入学	2013	1(13%)	卒業	2017	2(25%)
	2015	1(13%)		2018	1(13%)
	2016	1(13%)		2019	2(25%)
	2017	2(25%)		2020	1(13%)
	2018	2(25%)		2022	2(25%)
	2019	1(13%)		未記入	0(0%)
	未記入	0(0%)		計	8(100%)
	計	8(100%)			

Q3：福島大学大学院修了時の所属研究科（専攻）について、該当する項目を選択してください。

地域政策科学研究科（地域政策科学専攻）	8(100%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q4：福島大学大学院修了後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	7(88%)
福島大学の大学院博士後期課程	0(0%)
他大学の大学院博士後期課程	1(13%)
その他	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q5-Q12：大学在籍時の福島大学院の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q5 専門的知識を身につける	7(88%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q6 幅広い知識を身につける	5(63%)	2(25%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q7 ディベートやプレゼンテーション	5(63%)	2(25%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q8 実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）	1(13%)	2(25%)	1(13%)	4(50%)	0(0%)	8(100%)
Q9 実践的な外国語学修	0(0%)	2(25%)	2(25%)	4(50%)	0(0%)	8(100%)
Q10 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	6(75%)	2(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q11 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	3(38%)	3(38%)	1(13%)	1(13%)	0(0%)	8(100%)
Q12 職業観醸成プログラム	0(0%)	2(25%)	2(25%)	4(50%)	0(0%)	8(100%)

Q13-Q20：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q13 専門的知識を身につける	8(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q14 幅広い知識を身につける	6(75%)	1(13%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q15 ディベートやプレゼンテーション	7(88%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q16 実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）	4(50%)	3(38%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q17 実践的な外国語学修	1(13%)	4(50%)	2(25%)	1(13%)	0(0%)	8(100%)
Q18 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	7(88%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q19 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	6(75%)	2(25%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q20 職業観醸成プログラム	3(38%)	3(38%)	1(13%)	1(13%)	0(0%)	8(100%)

II. 福島大学大学院での教育について伺います。

Q21：全体的に見て、自分の受けた大学院の授業科目において、達成すべき目標や身につけるべき力は明確だったと思いますか。

非常に明確だった	4(50%)
だいたい明確だった	4(50%)
あまり明確でなかった	0(0%)
全く明確でない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q22：大学院の教育課程(カリキュラム)は、自分の目指す学問分野や職業分野の能力を獲得するうえで、体系的に編成されていたと思いますか。

強くそう思う	3(38%)
少しそう思う	2(25%)
あまりそう思わない	3(38%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q23：講義系の科目(知識や理論の獲得を目指すもの)と演習・実習などの科目(実用的・実践的な力の獲得を目指すもの)の比率についてどのように感じましたか。

ちょうどよい	6(75%)
講義系の科目が多すぎる	0(0%)
演習・実習などの科目が多すぎる	1(13%)
その他	0(0%)
未記入	1(13%)
計	8(100%)

Q24：大学院の科目を履修するうえで、履修アドバイスやガイダンスについてどのように感じましたか。

十分に行われたし、必要だと思う	6(75%)
十分に行われなかったが、必要だと思う	0(0%)
行われたが、あまり必要だと思わない	2(25%)
行われなかったし、必要だと思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q25：大学院での研究を計画的に進めていくうえで、研究指導は十分に行われたと思いますか。

強くそう思う	6(75%)
少しそう思う	2(25%)
あまりそう思わない	0(0%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q26：大学院での学修計画を立てるのにシラバスを活用しましたか。

大いに活用した	7(88%)
少し活用した	1(13%)
あまり活用しなかった	0(0%)
全く活用しなかった	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q27：図書館や研究室、実験器具の使用など、自分たちが自主的に学修を進めるための環境が十分整っていたと思いますか。

強くそう思う	4(50%)
少しそう思う	2(25%)
あまりそう思わない	2(25%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q28：学修指導や研究指導など、自分たちが自主的に学修を進めるために、教員は十分な配慮をしていたと思いますか。

強くそう思う	6(75%)
少しそう思う	2(25%)
あまりそう思わない	0(0%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q29：自分の受講した科目において成績評価の方法や手順ははっきりと示されていたと思いますか。

強くそう思う	4(50%)
少しそう思う	3(38%)
あまりそう思わない	1(13%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q30：自分の受講した科目において成績評価は公正だったと思いますか。

強くそう思う	8(100%)
少しそう思う	0(0%)
あまりそう思わない	0(0%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Q31：福島大学大学院での学修や研究を通じて自分自身が身につけた学力や能力についてどのように感じていますか。

非常に満足している	4(50%)
だいたい満足している	4(50%)
あまり満足していない	0(0%)
全く満足していない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	8(100%)

Ⅲ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q32：就職した年を西暦でお答えください。

就職	1974	1(13%)	未記入	2(25%)
	2002	1(13%)	計	8(100%)
	2011	2(25%)		
	2019	1(13%)		
	2020	1(13%)		

Q33/Q34：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	0(0%)
	2 鉱業	0(0%)
	3 建設業	0(0%)
	4 製造業	0(0%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	0(0%)
	6 情報通信業	0(0%)
	7 運輸業	1(13%)
	8 卸売・小売業	0(0%)
	9 金融・保険業	0(0%)
	10 不動産業	0(0%)
	11 飲食店、宿泊業	0(0%)
	12 医療、福祉	2(25%)
	13 教育、学習支援業	0(0%)
	14 複合サービス事業	0(0%)
	15 他に分類されないサービス業	0(0%)
	16 他に分類されない公務	3(38%)
	17 その他	1(13%)
	未記入	1(13%)
	計	8(100%)

職種	1 一般事務	2(25%)
	2 営業・販売職	1(13%)
	3 サービス職	0(0%)
	4 技術職	0(0%)
	5 専門職	3(38%)
	6 その他	1(13%)
	未記入	1(13%)
	計	8(100%)

※その他内訳

無職

1

※その他内訳

無職

1

Q35：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	1(13%)
	2 30-99名	0(0%)
	3 100-499名	0(0%)
	4 500-999名	0(0%)
	5 1,000-4,999名	0(0%)
	6 5,000-9,999名	0(0%)
	7 10,000名以上	1(13%)
	官庁(国家公務)	1(13%)
	地方公共団体(地方公務)	2(25%)
	学校(教育機関)	0(0%)
	公団・事業団等(準公務)	1(13%)
	その他	1(13%)
	未記入	1(13%)
	計	8(100%)

Q36：現在の年収(総支給額)について、当てはまるものをひとつ選んでください。

規模	収入はない	1(13%)
	300-399万円	2(25%)
	500-599万円	2(25%)
	600-699万円	1(13%)
	1500万円以上	1(13%)
	分からない・答えたくない	0(0%)
	未記入	1(13%)
	計	8(100%)

Q37-Q41：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q37 修了した大学	0(0%)	1(13%)	3(38%)	3(38%)	1(13%)	8(100%)
Q38 大学院修了時の専門分野	0(0%)	3(38%)	1(13%)	3(38%)	1(13%)	8(100%)
Q39 成績(研究成果含む)	0(0%)	3(38%)	1(13%)	3(38%)	1(13%)	8(100%)
Q40 サークル等での実績	0(0%)	0(0%)	2(25%)	5(63%)	1(13%)	8(100%)
Q41 人的なネットワーク	0(0%)	3(38%)	2(25%)	2(25%)	1(13%)	8(100%)

Q42-Q44：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分の優れた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	Q42 働く上で重要な能力	Q43 自分の優れた能力	Q44 自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	6(86%)	5(71%)	4(57%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	5(71%)	2(29%)	1(14%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	6(86%)	5(71%)	2(29%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	5(71%)	4(57%)	4(57%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	6(86%)	4(57%)	5(71%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	4(57%)	3(43%)	3(43%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	6(86%)	2(29%)	1(14%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	6(86%)	5(71%)	2(29%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	6(86%)	5(71%)	4(57%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	6(86%)	3(43%)	1(14%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	4(57%)	5(71%)	2(29%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	6(86%)	3(43%)	4(57%)

注：ここでのパーセントは全体(8)を分母とした場合の割合。

Q45-Q54：現在のお仕事において、下記の大学院時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q45 大学院進学時に獲得した基礎学力	2(25%)	3(38%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q46 学問を修得することによる考え方の訓練	5(63%)	2(25%)	0(0%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q47 専門分野の修得による考え方の訓練	4(50%)	2(25%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q48 未知のことに目をひらかせられる経験	3(38%)	3(38%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q49 先端の学問に触れることによる知的好奇心	4(50%)	1(13%)	1(13%)	1(13%)	1(13%)	8(100%)
Q50 修士論文・修士研究等の経験	3(38%)	3(38%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q51 アルバイトの経験	1(13%)	4(50%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q52 研究室・ゼミでの経験	2(25%)	3(38%)	1(13%)	1(13%)	1(13%)	8(100%)
Q53 教員との交流	2(25%)	4(50%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q54 友人・先輩との交流	3(38%)	3(38%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)

Q55-Q75：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q55 幅広い教養	0(0%)	6(75%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q56 多角的・総合的な思考	1(13%)	6(75%)	0(0%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q57 学問的思考の基礎	2(25%)	3(38%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q58 科学的・数量的に物事を見る力	2(25%)	3(38%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q59 外国語の能力	0(0%)	2(25%)	3(38%)	2(25%)	1(13%)	8(100%)
Q60 異文化の理解	1(13%)	3(38%)	1(13%)	2(25%)	1(13%)	8(100%)
Q61 健康や運動に関する科学的認識	2(25%)	2(25%)	1(13%)	1(13%)	2(25%)	8(100%)
Q62 インターネットで情報を適切に集める力	1(13%)	6(75%)	0(0%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q63 自ら学びをデザインする主体性	2(25%)	3(38%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q64 自ら学修する習慣	2(25%)	4(50%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q65 コミュニケーション力	2(25%)	3(38%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q66 自ら人間関係をつくる力	4(50%)	1(13%)	1(13%)	1(13%)	1(13%)	8(100%)
Q67 自らを律して行動できる力	4(50%)	2(25%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q68 必要な場合のリーダーシップの発揮	1(13%)	5(63%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q69 プレゼンテーション力	2(25%)	3(38%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q70 課題探究能力	2(25%)	4(50%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q71 キャリアデザイン力	0(0%)	3(38%)	3(38%)	1(13%)	1(13%)	8(100%)
Q72 複数の活動を調整する能力	1(13%)	5(63%)	1(13%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q73 大学院で学んだ専門知識	1(13%)	4(50%)	2(25%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)
Q74 グローバルな課題への関心	1(13%)	3(38%)	2(25%)	1(13%)	1(13%)	8(100%)
Q75 地域的な課題への関心	4(50%)	3(38%)	0(0%)	0(0%)	1(13%)	8(100%)

IV. 1：全ての研究科の修了生にお聞きします。

Q76-Q82：福島大学大学院での学習・研究を通して下記の項目内容がどの程度身についたと思いますか。

【全ての研究科の修了全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	未記入	計
Q76 専門分野に対する興味や関心、あるいは問題意識	4(50%)	4(50%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q77 専門分野に関する諸科学の知識や技能	1(13%)	6(75%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q78 大学院での学習・研究を社会での実践に生かす力	3(38%)	4(50%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q79 問題をさまざまな角度からとらえる力	2(25%)	6(75%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q80 研究テーマに関連する諸科学についての知見	3(38%)	5(63%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q81 研究テーマに関連する研究手法についての理解	3(38%)	5(63%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
Q82 研究テーマに見合った研究手法を適宜採用する力	2(25%)	5(63%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)

Q84：所属していた研究科

専攻	地域政策科学研究科(修士課程)	8(100%)
	未記入	0(0%)
	計	8(100%)

IV. 2:各研究科の設問にお答えください。

Q85-Q88：あなたは以下の項目(研究科のディプロマポリシー)について、所属していた研究科で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【地域政策科学研究科の修了生】		身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
修士課程	Q85 地域社会における諸問題に対して、学際的(法学、政治・行政学、社会学、文化諸科学) および政策科学的に考究する視点	3(38%)	5(63%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
	Q86 学際的かつ政策科学の知識基盤の上に、地域の多様な政策課題に対応した、理論的・応用的かつ実践的な研究能力	2(25%)	5(63%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
	Q87 発見し、調査・分析した諸問題につき、解決する応用的能力	2(25%)	6(75%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)
	Q88 自らの研究テーマについての時代の進展と地域社会の要請に応える高度な専門性	1(13%)	6(75%)	1(13%)	0(0%)	0(0%)	8(100%)

注：本表のパーセンテージはQ84の各研究科卒業生数を分母とした場合の割合。(修士課程：8)

V. あなた自身について伺います。

Q89：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	5 (63%)
	女性	3 (38%)
	未記入	0 (0%)
	計	8 (100%)

Q90：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	33	1 (13%)
	36	1 (13%)
	40	1 (13%)
	43	1 (13%)
	46	1 (13%)
	60	1 (13%)
	64	1 (13%)
	70	1 (13%)
	未記入	0 (0%)
	計	8 (100%)

Q91：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	6 (75%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	1 (13%)
	3 自営業主・家族従業者	0 (0%)
	4 無職	0 (0%)
	5 学生	1 (13%)
	6 その他	0 (0%)
	未記入	0 (0%)
	計	8 (100%)

第3項 経済学研究科の修了生

I. あなたの福島大学大学院の在学経験と、教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学大学院への入学年と修了年（西暦）をお答えください。

入学	2015	3 (25%)	卒業	2016	1 (8%)
	2016	1 (8%)		2017	2 (17%)
	2018	3 (25%)		2020	3 (25%)
	2019	3 (25%)		2021	2 (17%)
	2020	2 (17%)		2022	4 (33%)
	未記入	0 (0%)		未記入	0 (0%)
	計	12 (100%)		計	12 (100%)

Q3：福島大学大学院修了時の所属研究科（専攻）について、該当する項目を選択してください。

専攻	経済学研究科（経済学専攻）	6 (50%)
	経済学研究科（経営学専攻）	6 (50%)
	未記入	0 (0%)
	計	12 (100%)

Q4：福島大学大学院修了後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	9 (75%)
福島大学の大学院博士後期課程	0 (0%)
他大学の大学院博士後期課程	2 (17%)
その他	1 (8%)
未記入	0 (0%)
計	12 (100%)

Q5-Q12：大学在籍時の福島大学院の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q5 専門的知識を身につける	6 (50%)	5 (42%)	1 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (100%)
Q6 幅広い知識を身につける	7 (58%)	5 (42%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (100%)
Q7 ディベートやプレゼンテーション	4 (33%)	5 (42%)	3 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (100%)
Q8 実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）	0 (0%)	5 (42%)	4 (33%)	3 (25%)	0 (0%)	12 (100%)
Q9 実践的な外国語学修	0 (0%)	2 (17%)	2 (17%)	8 (67%)	0 (0%)	12 (100%)
Q10 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	8 (67%)	2 (17%)	2 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (100%)
Q11 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	2 (17%)	3 (25%)	6 (50%)	1 (8%)	0 (0%)	12 (100%)
Q12 職業観醸成プログラム	1 (8%)	5 (42%)	3 (25%)	3 (25%)	0 (0%)	12 (100%)

Q13-Q20：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q13 専門的知識を身につける	12(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q14 幅広い知識を身につける	7(58%)	4(33%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q15 ディベートやプレゼンテーション	7(58%)	4(33%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q16 実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）	5(42%)	5(42%)	2(17%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q17 実践的な外国語学修	2(17%)	5(42%)	5(42%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q18 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	11(92%)	0(0%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q19 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	4(33%)	6(50%)	2(17%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q20 職業観醸成プログラム	4(33%)	4(33%)	4(33%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)

II. 福島大学大学院での教育について伺います。

Q21：全体的に見て、自分の受けた大学院の授業科目において、達成すべき目標や身につけるべき力は明確だったと思いますか。

非常に明確だった	4(33%)
だいたい明確だった	7(58%)
あまり明確でなかった	1(8%)
全く明確でない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q22：大学院の教育課程(カリキュラム)は、自分の目指す学問分野や職業分野の能力を獲得するうえで、体系的に編成されていたと思いますか。

強くそう思う	5(42%)
少しそう思う	4(33%)
あまりそう思わない	2(17%)
全くそう思わない	1(8%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q23：講義系の科目(知識や理論の獲得を目指すもの)と演習・実習などの科目(実用的・実践的な力の獲得を目指すもの)の比率についてどのように感じましたか。

ちょうどよい	8(67%)
講義系の科目が多すぎる	3(25%)
演習・実習などの科目が多すぎる	1(8%)
その他	0(0%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q24：大学院の科目を履修するうえで、履修アドバイスやガイダンスについてどのように感じましたか。

十分に行われたし、必要だと思う	9(75%)
十分に行われなかったが、必要だと思う	3(25%)
行われたが、あまり必要だと思わない	0(0%)
行われなかったし、必要だと思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q25：大学院での研究を計画的に進めていくうえで、研究指導は十分に行われたと思いますか。

強くそう思う	6(50%)
少しそう思う	5(42%)
あまりそう思わない	0(0%)
全くそう思わない	1(8%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q26：大学院での学修計画を立てるのにシラバスを活用しましたか。

大いに活用した	3(25%)
少し活用した	5(42%)
あまり活用しなかった	3(25%)
全く活用しなかった	1(8%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q27：図書館や研究室、実験器具の使用など、自分たちが自主的に学修を進めるための環境が十分整っていたと思いますか。

強くそう思う	3(25%)
少しそう思う	6(50%)
あまりそう思わない	2(17%)
全くそう思わない	1(8%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q28：学修指導や研究指導など、自分たちが自主的に学修を進めるために、教員は十分な配慮をしていたと思いますか。

強くそう思う	7(58%)
少しそう思う	3(25%)
あまりそう思わない	2(17%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q29：自分の受講した科目において成績評価の方法や手順ははっきりと示されていたと思いますか。

強くそう思う	3(25%)
少しそう思う	9(75%)
あまりそう思わない	0(0%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	12(100%)

Q30：自分の受講した科目において成績評価は公正だったと思いますか。

強くそう思う	7 (58%)
少しそう思う	5 (42%)
あまりそう思わない	0 (0%)
全くそう思わない	0 (0%)
未記入	0 (0%)
計	12 (100%)

Q31：福島大学大学院での学修や研究を通じて自分自身が身につけた学力や能力についてどのように感じていますか。

非常に満足している	5 (42%)
だいたい満足している	6 (50%)
あまり満足していない	1 (8%)
全く満足していない	0 (0%)
未記入	0 (0%)
計	12 (100%)

Ⅲ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q32：就職した年を西暦でお答えください。

就職	1985	2 (17%)	1995	1 (8%)	未記入	3 (25%)
	1986	1 (8%)	2012	1 (8%)	計	12 (100%)
	1993	1 (8%)	2021	1 (8%)		

Q33/Q34：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	3 (25%)
	2 鉱業	0 (0%)
	3 建設業	1 (8%)
	4 製造業	1 (8%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0%)
	6 情報通信業	0 (0%)
	7 運輸業	0 (0%)
	8 卸売・小売業	1 (8%)
	9 金融・保険業	0 (0%)
	10 不動産業	0 (0%)
	11 飲食店、宿泊業	1 (8%)
	12 医療、福祉	0 (0%)
	13 教育、学習支援業	2 (17%)
	14 複合サービス事業	0 (0%)
	15 他に分類されないサービス業	1 (8%)
	16 他に分類されない公務	0 (0%)
	17 その他	0 (0%)
	未記入	2 (17%)
	計	12 (100%)

職種	1 一般事務	1 (8%)
	2 営業・販売職	2 (17%)
	3 サービス職	0 (0%)
	4 技術職	0 (0%)
	5 専門職	3 (25%)
	6 その他	4 (33%)
		未記入
	計	12 (100%)

※その他内訳

会社役員	1
経営	1
自営業	1
代表取締役	1

Q35：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	4(33%)
	2 30-99名	2(17%)
	3 100-499名	0(0%)
	4 500-999名	0(0%)
	5 1,000-4,999名	3(25%)
	6 5,000-9,999名	0(0%)
	7 10,000名以上	0(0%)
	官庁(国家公務)	0(0%)
	地方公共団体(地方公務)	0(0%)
	学校(教育機関)	1(8%)
	公団・事業団等(準公務)	0(0%)
	その他	0(0%)
	未記入	2(17%)
	計	12(100%)

Q36：現在の年収(総支給額)について、当てはまるものをひとつ選んでください。

規模	200-299万円	2(17%)
	600-699万円	3(25%)
	800-899万円	1(8%)
	1000-1099万円	1(8%)
	1200-1299万円	2(17%)
	1500万円以上	1(8%)
	未記入	2(17%)
	計	12(100%)

Q37-Q41：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q37 修了した大学	2(17%)	2(17%)	3(25%)	2(17%)	3(25%)	12(100%)
Q38 大学院修了時の専門分野	2(17%)	1(8%)	4(33%)	2(17%)	3(25%)	12(100%)
Q39 成績(研究成果含む)	2(17%)	3(25%)	2(17%)	2(17%)	3(25%)	12(100%)
Q40 サークル等での実績	0(0%)	1(8%)	4(33%)	4(33%)	3(25%)	12(100%)
Q41 人的なネットワーク	1(8%)	3(25%)	3(25%)	2(17%)	3(25%)	12(100%)

Q42-Q44：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分の優れた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	Q42 働く上で重要な能力	Q43 自分の優れた能力	Q44 自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	10(100%)	6(60%)	2(20%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	4(40%)	3(30%)	6(60%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	9(90%)	7(70%)	3(30%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	7(70%)	6(60%)	1(10%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	5(50%)	2(20%)	4(40%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	4(40%)	1(10%)	4(40%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	4(40%)	1(10%)	5(50%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	5(50%)	2(20%)	5(50%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	3(30%)	3(30%)	3(30%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	3(30%)	4(40%)	1(10%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	7(70%)	5(50%)	2(20%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	3(30%)	2(20%)	5(50%)

注：ここでのパーセントは全体(8)を分母とした場合の割合。

Q45-Q54：現在のお仕事において、下記の大学院時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q45 大学院進学時に獲得した基礎学力	7(58%)	2(17%)	1(8%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q46 学問を修得することによる考え方の訓練	3(25%)	7(58%)	0(0%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q47 専門分野の修得による考え方の訓練	5(42%)	5(42%)	0(0%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q48 未知のことに目をひらかせられる経験	6(50%)	1(8%)	3(25%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q49 先端の学問に触れることによる知的好奇心	4(33%)	3(25%)	3(25%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q50 修士論文・修士研究等の経験	7(58%)	2(17%)	1(8%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q51 アルバイトの経験	1(8%)	1(8%)	2(17%)	6(50%)	2(17%)	12(100%)
Q52 研究室・ゼミでの経験	0(0%)	4(33%)	3(25%)	3(25%)	2(17%)	12(100%)
Q53 教員との交流	6(50%)	3(25%)	1(8%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q54 友人・先輩との交流	5(42%)	2(17%)	2(17%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)

Q55-Q75：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q55 幅広い教養	0(0%)	6(50%)	4(33%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q56 多角的・総合的な思考	0(0%)	10(83%)	0(0%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q57 学問的思考の基礎	0(0%)	7(58%)	2(17%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q58 科学的・数量的に物事を見る力	0(0%)	5(42%)	4(33%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q59 外国語の能力	0(0%)	2(17%)	6(50%)	2(17%)	2(17%)	12(100%)
Q60 異文化の理解	0(0%)	2(17%)	7(58%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q61 健康や運動に関する科学的認識	1(8%)	3(25%)	5(42%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q62 インターネットで情報を適切に集める力	1(8%)	5(42%)	4(33%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q63 自ら学びをデザインする主体性	1(8%)	2(17%)	5(42%)	2(17%)	2(17%)	12(100%)
Q64 自ら学修する習慣	4(33%)	4(33%)	2(17%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q65 コミュニケーション力	1(8%)	7(58%)	0(0%)	2(17%)	2(17%)	12(100%)
Q66 自ら人間関係をつくる力	1(8%)	5(42%)	3(25%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q67 自らを律して行動できる力	2(17%)	5(42%)	3(25%)	0(0%)	2(17%)	12(100%)
Q68 必要な場合のリーダーシップの発揮	3(25%)	2(17%)	4(33%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q69 プレゼンテーション力	1(8%)	5(42%)	3(25%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q70 課題探究能力	0(0%)	7(58%)	2(17%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q71 キャリアデザイン力	0(0%)	3(25%)	4(33%)	3(25%)	2(17%)	12(100%)
Q72 複数の活動を調整する能力	0(0%)	5(42%)	3(25%)	2(17%)	2(17%)	12(100%)
Q73 大学院で学んだ専門知識	2(17%)	4(33%)	2(17%)	2(17%)	2(17%)	12(100%)
Q74 グローバルな課題への関心	2(17%)	4(33%)	3(25%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)
Q75 地域的な課題への関心	3(25%)	5(42%)	1(8%)	1(8%)	2(17%)	12(100%)

IV. 1：全ての研究科の修了生にお聞きします。

Q76-Q82：福島大学大学院での学習・研究を通して下記の項目内容がどの程度身についたと思いますか。

【全ての研究科の修了全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	未記入	計
Q76 専門分野に対する興味や関心、あるいは問題意識	4(33%)	7(58%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q77 専門分野に関する諸科学の知識や技能	2(17%)	7(58%)	2(17%)	1(8%)	0(0%)	12(100%)
Q78 大学院での学習・研究を社会での実践に生かす力	2(17%)	5(42%)	4(33%)	1(8%)	0(0%)	12(100%)
Q79 問題をさまざまな角度からとらえる力	3(25%)	7(58%)	2(17%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
Q80 研究テーマに関連する諸科学についての知見	2(17%)	5(42%)	3(25%)	1(8%)	1(8%)	12(100%)
Q81 研究テーマに関連する研究手法についての理解	3(25%)	5(42%)	3(25%)	1(8%)	0(0%)	12(100%)
Q82 研究テーマに見合った研究手法を適宜採用する力	2(17%)	7(58%)	2(17%)	1(8%)	0(0%)	12(100%)

Q84：所属していた研究科

専攻	経済学研究科（経済学専攻）	6(50%)
	経済学研究科（経営学専攻）	6(50%)
	未記入	0(0%)
	計	12(100%)

IV. 2:各研究科の設問にお答えください。

Q85-Q88：あなたは以下の項目(研究科のディプロマポリシー)について、所属していた研究科で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【経済学研究科の修了生】		身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	未記入	計
修士課程	Q85 経済学、経営学、会計学の専門分野の知識	3(25%)	4(33%)	2(17%)	2(17%)	1(8%)	12(100%)
	Q86 獲得した専門的知識を経済社会の諸課題に応用し、実践する力	3(25%)	6(50%)	2(17%)	1(8%)	0(0%)	12(100%)
	Q87 自らの問題意識のもとに研究課題を設定し、必要な情報や知見を収集・整理し、課題の解決に向けて分析を展開する能力	3(25%)	8(67%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)
	Q88 蓄積されてきた知見や諸議論を論理的思考のもとに整理・分析することができ、また、自らの主張・意見を、論理的に説明する能力	2(17%)	7(58%)	3(25%)	0(0%)	0(0%)	12(100%)

注：本表のパーセンテージはQ84の各研究科卒業生数を分母とした場合の割合。(修士課程：12)

V. あなた自身について伺います。

Q89：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	11(92%)
	女性	1(8%)
	未記入	0(0%)
	計	12(100%)

Q90：あなたの現在の年齢(満年齢)をお答えください。

年齢	36	1(8%)
	37	1(8%)
	41	1(8%)
	47	2(17%)
	50	1(8%)
	53	1(8%)
	56	2(17%)
	59	1(8%)
	61	2(17%)
	未記入	0(0%)
	計	12(100%)

Q91：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業状況	1 常時雇用の社員・職員	5(42%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	2(17%)
	3 自営業主・家族従業者	2(17%)
	4 無職	1(8%)
	5 学生	0(0%)
	6 その他	2(17%)
	未記入	0(0%)
	計	12(100%)

第4項 共生システム理工学研究科の修了生

I. あなたの福島大学大学院の在学経験と、教育への意識について伺います。

Q1/Q2：福島大学大学院への入学年と修了年（西暦）をお答えください。

入学	2009	1(7%)	卒業	2017	3(20%)
	2015	4(27%)		2018	2(13%)
	2016	1(7%)		2019	4(27%)
	2017	4(27%)		2021	3(20%)
	2019	2(13%)		2022	3(20%)
	2020	3(20%)		未記入	0(0%)
	未記入	0(0%)		計	15(100%)
	計	15(100%)			

Q3：福島大学大学院修了時の所属研究科(専攻)について、該当する項目を選択してください。

共生システム理工学研究科（共生システム理工学専攻）	15(94%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q4：福島大学大学院修了後の在学経験で該当する項目を選択してください。

なし	14(93%)
福島大学の大学院博士後期課程	1(7%)
他大学の大学院博士後期課程	0(0%)
その他	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q5-Q12：大学在籍時の福島大学院の授業について、以下のような授業はどの程度ありましたか。

	多かった	少しあった	あまりなかった	全くなかった	未記入	計
Q5 専門的知識を身につける	8(53%)	7(47%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q6 幅広い知識を身につける	6(40%)	8(53%)	1(7%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q7 ディベートやプレゼンテーション	8(53%)	3(20%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q8 実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）	4(27%)	5(33%)	3(20%)	3(20%)	0(0%)	15(100%)
Q9 実践的な外国語学修	2(13%)	2(13%)	9(60%)	2(13%)	0(0%)	15(100%)
Q10 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	6(40%)	7(47%)	2(13%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q11 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	5(33%)	3(20%)	4(27%)	3(20%)	0(0%)	15(100%)
Q12 職業観醸成プログラム	2(13%)	1(7%)	6(40%)	6(40%)	0(0%)	15(100%)

Q13-Q20：授業を今振り返って、それらは必要だと思いますか。

	とても必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	未記入	計
Q13 専門的知識を身につける	12(80%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q14 幅広い知識を身につける	12(80%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q15 ディベートやプレゼンテーション	9(60%)	6(40%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q16 実学を学ぶプログラム（インターンシップなど）	6(40%)	6(40%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q17 実践的な外国語学修	4(27%)	8(53%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q18 知識や情報を集め自分の考えを導き出す訓練	10(67%)	4(27%)	1(7%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q19 チームを組んで特定の課題に取り組む経験	8(53%)	6(40%)	1(7%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q20 職業観醸成プログラム	5(33%)	7(47%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)

Ⅱ. 福島大学大学院での教育について伺います。

Q21：全体的に見て、自分の受けた大学院の授業科目において、達成すべき目標や身につけるべき力は明確だったと思いますか。

非常に明確だった	0(0%)
だいたい明確だった	3(20%)
あまり明確でなかった	11(73%)
全く明確でない	1(7%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q22：大学院の教育課程(カリキュラム)は、自分の目指す学問分野や職業分野の能力を獲得するうえで、体系的に編成されていたと思いますか。

強くそう思う	2(13%)
少しそう思う	11(73%)
あまりそう思わない	2(13%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q23：講義系の科目(知識や理論の獲得を目指すもの)と演習・実習などの科目(実用的・実践的な力の獲得を目指すもの)の比率についてどのように感じましたか。

ちょうどよい	12(80%)
講義系の科目が多すぎる	2(13%)
演習・実習などの科目が多すぎる	1(7%)
その他	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q24：大学院の科目を履修するうえで、履修アドバイスやガイダンスについてどのように感じましたか。

十分に行われたし、必要だと思う	7(47%)
十分に行われなかったが、必要だと思う	4(27%)
行われたが、あまり必要だと思わない	3(20%)
行われなかったし、必要だと思わない	1(7%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q25：大学院での研究を計画的に進めていくうえで、研究指導は十分に行われたと思いますか。

強くそう思う	11(73%)
少しそう思う	4(27%)
あまりそう思わない	0(0%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q26：大学院での学修計画を立てるのにシラバスを活用しましたか。

大いに活用した	5(33%)
少し活用した	7(47%)
あまり活用しなかった	2(13%)
全く活用しなかった	1(7%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q27：図書館や研究室、実験器具の使用など、自分たちが自主的に学修を進めるための環境が十分整っていたと思いますか。

強くそう思う	8(53%)
少しそう思う	5(33%)
あまりそう思わない	2(13%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q28：学修指導や研究指導など、自分たちが自主的に学修を進めるために、教員は十分な配慮をしていたと思いますか。

強くそう思う	12(80%)
少しそう思う	2(13%)
あまりそう思わない	1(7%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q29：自分の受講した科目において成績評価の方法や手順ははっきりと示されていたと思いますか。

強くそう思う	9(60%)
少しそう思う	4(27%)
あまりそう思わない	2(13%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q30：自分の受講した科目において成績評価は公正だったと思いますか。

強くそう思う	10(67%)
少しそう思う	4(27%)
あまりそう思わない	1(7%)
全くそう思わない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Q31：福島大学大学院での学修や研究を通じて自分自身が身につけた学力や能力についてどのように感じていますか。

非常に満足している	8(53%)
だいたい満足している	6(40%)
あまり満足していない	1(7%)
全く満足していない	0(0%)
未記入	0(0%)
計	15(100%)

Ⅲ. あなたの現在のお仕事について伺います。

現在お仕事をされていない方は、最後に就かれていたお仕事についてご回答ください。

Q32：就職した年を西暦でお答えください。

就職	2008	1 (7%)	2019	5 (33%)	未記入	0 (0%)
	2017	3 (20%)	2021	2 (13%)	計	15 (100%)
	2018	1 (7%)	2022	3 (20%)		

Q33/Q34：現在のお仕事の業種/職種について当てはまるものを選択してください。

業種	1 農林水産業	0 (0%)
	2 鉱業	1 (7%)
	3 建設業	3 (20%)
	4 製造業	2 (13%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0%)
	6 情報通信業	3 (20%)
	7 運輸業	0 (0%)
	8 卸売・小売業	0 (0%)
	9 金融・保険業	0 (0%)
	10 不動産業	0 (0%)
	11 飲食店、宿泊業	0 (0%)
	12 医療、福祉	0 (0%)
	13 教育、学習支援業	1 (7%)
	14 複合サービス事業	0 (0%)
	15 他に分類されないサービス業	0 (0%)
	16 他に分類されない公務	3 (20%)
	17 その他	1 (7%)
		未記入
	計	15 (100%)

職種	1 一般事務	1 (7%)
	2 営業・販売職	0 (0%)
	3 サービス職	0 (0%)
	4 技術職	9 (60%)
	5 専門職	5 (33%)
	6 その他	0 (0%)
		未記入
	計	15 (100%)

※その他内訳

建築設計事務所 & コンサルタント業務 1

Q35：勤務先の規模(常用雇用者数)について当てはまるものを選択してください。

規模	1 29名以下	1 (7%)	
	2 30-99名	0 (0%)	
	3 100-499名	3 (20%)	
	4 500-999名	0 (0%)	
	5 1,000-4,999名	2 (13%)	
	6 5,000-9,999名	1 (7%)	
	7 10,000名以上	4 (27%)	
	官庁(国家公務)	0 (0%)	
	地方公共団体(地方公務)	2 (13%)	
	学校(教育機関)	2 (13%)	
	公団・事業団等(準公務)	0 (0%)	
	その他	0 (0%)	
		未記入	0 (0%)
		計	15 (100%)

Q36：現在の年収（総支給額）について、当てはまるものをひとつ選んでください。

規模	200万円未満	1(7%)
	200-299万円	2(13%)
	300-399万円	3(20%)
	400-499万円	4(27%)
	500-599万円	3(20%)
	600-699万円	1(7%)
	800-899万円	1(7%)
	未記入	0(0%)
計	15(100%)	

Q37-Q41：あなたが現在の職場に採用された際に評価された点として、以下の項目はどの程度重要だったと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q37 修了した大学	1(7%)	3(20%)	7(47%)	4(27%)	0(0%)	15(100%)
Q38 大学院修了時の専門分野	3(20%)	4(27%)	5(33%)	3(20%)	0(0%)	15(100%)
Q39 成績（研究成果含む）	1(7%)	0(0%)	8(53%)	6(40%)	0(0%)	15(100%)
Q40 サークル等での実績	0(0%)	1(7%)	5(33%)	9(60%)	0(0%)	15(100%)
Q41 人的なネットワーク	0(0%)	5(33%)	7(47%)	3(20%)	0(0%)	15(100%)

Q42-Q44：次の社会人基礎力について、現在の職場において働く上で重要であると考えられる能力、自分の優れた能力、自分に不足している能力についてお伺いします。

該当する項目全てを選択してください(複数選択可)。

	Q42 働く上で重要な能力	Q43 自分の優れた能力	Q44 自分にとって不足している能力
1 物事に進んで取り組む力(主体性)	15(100%)	7(47%)	3(20%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	11(73%)	2(13%)	8(53%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	10(67%)	5(33%)	1(7%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	12(80%)	7(47%)	5(33%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	9(60%)	4(27%)	10(67%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	6(40%)	5(33%)	5(33%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	11(73%)	3(20%)	5(33%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	8(53%)	9(60%)	2(13%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	9(60%)	11(73%)	2(13%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	9(60%)	8(53%)	1(7%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	11(73%)	8(53%)	2(13%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	10(67%)	6(40%)	3(20%)

注：ここでのパーセントは全体（15）を分母とした場合の割合。

Q45-Q54：現在のお仕事において、下記の大学院時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q45 大学院進学時に獲得した基礎学力	1(7%)	9(60%)	4(27%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q46 学問を修得することによる考え方の訓練	9(60%)	4(27%)	1(7%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q47 専門分野の修得による考え方の訓練	6(40%)	5(33%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q48 未知のことに目をひらかせられる経験	6(40%)	5(33%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q49 先端の学問に触れることによる知的好奇心	8(53%)	4(27%)	2(13%)	0(0%)	1(7%)	15(100%)
Q50 修士論文・修士研究等の経験	3(20%)	6(40%)	4(27%)	2(13%)	0(0%)	15(100%)
Q51 アルバイトの経験	3(20%)	3(20%)	5(33%)	4(27%)	0(0%)	15(100%)
Q52 研究室・ゼミでの経験	6(40%)	4(27%)	3(20%)	2(13%)	0(0%)	15(100%)
Q53 教員との交流	7(47%)	6(40%)	2(13%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q54 友人・先輩との交流	8(53%)	5(33%)	2(13%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)

Q55-Q75：あなたは以下の自分自身の能力をどのように評価しますか。

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	未記入	計
Q55 幅広い教養	1(7%)	10(67%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q56 多角的・総合的な思考	1(7%)	10(67%)	4(27%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q57 学問的思考の基礎	3(20%)	9(60%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q58 科学的・数量的に物事を見る力	5(33%)	8(53%)	2(13%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q59 外国語の能力	0(0%)	3(20%)	9(60%)	3(20%)	0(0%)	15(100%)
Q60 異文化の理解	1(7%)	3(20%)	8(53%)	3(20%)	0(0%)	15(100%)
Q61 健康や運動に関する科学的認識	1(7%)	3(20%)	8(53%)	3(20%)	0(0%)	15(100%)
Q62 インターネットで情報を適切に集める力	5(33%)	8(53%)	1(7%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q63 自ら学びをデザインする主体性	5(33%)	2(13%)	6(40%)	2(13%)	0(0%)	15(100%)
Q64 自ら学修する習慣	3(20%)	8(53%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q65 コミュニケーション力	4(27%)	7(47%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q66 自ら人間関係をつくる力	3(20%)	6(40%)	6(40%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q67 自らを律して行動できる力	5(33%)	8(53%)	2(13%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q68 必要な場合のリーダーシップの発揮	3(20%)	8(53%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q69 プレゼンテーション力	4(27%)	6(40%)	5(33%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q70 課題探究能力	4(27%)	5(33%)	6(40%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
Q71 キャリアデザイン力	2(13%)	6(40%)	5(33%)	1(7%)	1(7%)	15(100%)
Q72 複数の活動を調整する能力	4(27%)	5(33%)	5(33%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q73 大学院で学んだ専門知識	4(27%)	5(33%)	5(33%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q74 グローバルな課題への関心	2(13%)	4(27%)	8(53%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
Q75 地域的な課題への関心	4(27%)	4(27%)	6(40%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)

IV. 1: 全ての研究科の修了生にお聞きします。

Q76-Q82: 福島大学大学院での学習・研究を通して下記の項目内容がどの程度身についたと思いますか。

【全ての研究科の修了全員】	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	未記入	計
Q76 専門分野に対する興味や関心、あるいは問題意識	8 (53%)	7 (47%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
Q77 専門分野に関する諸科学の知識や技能	4 (27%)	10 (67%)	1 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
Q78 大学院での学習・研究を社会での実践に生かす力	3 (20%)	8 (53%)	4 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
Q79 問題をさまざまな角度からとらえる力	6 (40%)	8 (53%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (7%)	15 (100%)
Q80 研究テーマに関連する諸科学についての知見	5 (33%)	9 (60%)	1 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
Q81 研究テーマに関連する研究手法についての理解	6 (40%)	7 (47%)	2 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
Q82 研究テーマに見合った研究手法を適宜採用する力	4 (27%)	8 (53%)	3 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)

Q83: 所属していた研究科

共生システム理工学研究科 (共生システム理工学専攻)	15 (94%)
未記入	0 (0%)
計	15 (100%)

IV. 2: 各研究科の設問にお答えください。

Q84-Q86: あなたは以下の項目(研究科のディプロマポリシー)について、所属していた研究科で学んだことを通じてどの程度身につけることができましたか。

【共生システム理工学研究科の修了生】	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	未記入	計
共生システム工学 Q84 共生のシステム科学という新たな枠組みの中で、従来の科学技術の枠組みにとらわれず、多元的な視点から事象をとらえようとする姿勢	4 (27%)	8 (53%)	3 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
Q85 課題解決に必要な、各分野における専門的な知識・技術・技能	4 (27%)	8 (53%)	3 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (100%)
Q86 専門的な知識・技術・技能を具体的な課題解決に実践的に活かす能力	5 (33%)	6 (40%)	3 (20%)	0 (0%)	1 (7%)	15 (100%)

注: 本表のパーセンテージは Q83 の各研究科卒業生数を分母とした場合の割合。

V. あなた自身について伺います。

Q87：あなたの性別をお答えください。

性別	男性	13(87%)
	女性	2(13%)
	未記入	0(0%)
	計	15(100%)

Q88：あなたの現在の年齢（満年齢）をお答えください。

年齢	24	2(13%)
	26	1(7%)
	27	2(13%)
	28	4(27%)
	29	1(7%)
	30	2(13%)
	40	1(7%)
	69	1(7%)
	71	1(7%)
	未記入	0(0%)
	計	15(100%)

Q89：あなたの現在の就業状況についてお答えください。

就業 状況	1 常時雇用の社員・職員	12(80%)
	2 パート・アルバイト・臨時の社員・職員	1(7%)
	3 自営業主・家族従業者	1(7%)
	4 無職	0(0%)
	5 学生	0(0%)
	6 その他	1(7%)
	未記入	0(0%)
	計	15(100%)

※その他内訳

客員准教授

1

第3章 就職先に対する大学・大学院教育の成果に関するアンケート

第1節 概要と分析

本章では、「就職先（企業等・公共機関）に対する大学・大学院教育の成果に関するアンケート」の集計結果をまとめている。第1節では、企業等・公共機関の調査票を総合した集計結果について紹介する。具体的には、属性（所在地・従業員数・業種・採用状況）、大学時代の経験の重要性、福島大学卒業生の能力水準、および自由記述（在学中に身につけて欲しいこと）について概括する。なお第2節では企業等と公共機関ごとの回答をまとめている。企業等・公共機関の詳細回答については、本章第2節をご参照いただきたい。

◎属性

アンケート回答者の属性は次の通りである。まず回答総数は138件で、このうち企業等が102件(74%)、公共機関が36件(26%)である(表3-1)。また企業等の回答者の本社の所在地、従業員数、業種についても尋ねている。本社の所在地については、高い順に、福島県64件(63%)、宮城県7件(7%)、東京都6件(6%)と続く(その他の合計で15件、未記入10件、本章第2節参照)。従業員数(正社員のみ)は、「29名以下」11件(11%)、「30-99名」23件(23%)、「100-499名以下」39件(38%)、「500-999名以下」11件(11%)、「1000-4,999名以下」16件(16%)、「5,000-9,999名以下」1件(1%)、「10,000名以上」0件(0%)、未記入1件(1%)となっている(本章第2節参照)。業種について、高い順に、「卸売・小売業」19件(19%)、「医療・福祉」14件(14%)、「製造業」11件(11%)、「他に分類されないサービス業」11件(11%)、「金融・保険業」10件(10%)、「情報通信業」9件(9%)と続く(その他の合計で28件、未記入0件、本章第2節参照)。

企業等、公共機関に共通の設問として、過去3年間の大卒者および大学院修了者の採用者数を尋ねている。また、過去3年間で採用者数の多い上位3校の大学名についても、企業等、公共機関に共通して尋ねている。これらの結果については、本章第2節をご参照いただきたい。

表3-1 調査対象

調査対象	回答者
企業	102(74%)
公共機関	36(26%)
計	138(100%)

◎就業後における大学時代の経験の重要性

就職先調査のうち、企業等および公共機関を対象とした質問紙では、図 3-1 に示す「卒業（修了）した大学」「卒業（修了）時の専門分野」「成績（研究成果含む）」「サークル等での実績」「人的なネットワーク」を大卒者の選考時にどの程度重視するかを尋ねている。選択肢は、「とても重要」「ある程度重要」「あまり重要ではない」「重要ではない」の 4 選択である。「とても重要」「ある程度重要」の合計割合が高い順にみると、「成績（研究成果含む）」60%、「サークルなどでの実績」50%、「人的なネットワーク」48%、「卒業（修了）時の専門分野」47%、「卒業（修了）した大学」44%である。なお、卒業生調査における同様の設問（第 1 章参照）と比べると、卒業生が 5 項目すべてにおいて重要性を比較的強く捉えるのに対して（おおむね 4 割以下）、企業等・公共機関では成績を比較的高く評価しており、両者のギャップが見られた。

ここでは、卒業生の採用・雇用者の選考時の違いに着目して検討してみる。表 3-1 の値は、この項目に関する「とても重要」「ある程度重要」と答えた回答者の割合である。Mann-Whitney の U 検定³を用いて、卒業生自身と就職先の「採用・選考時の評価点」を検討してみた結果、「成績（研究成果含む）」、「サークル等の実績」、「人的なネットワーク」では、卒業生と就職先の間には有意差がみられた。特に企業側では成績（研究成果を含む）を最も重視している。大学・大学院時代の成績は就職では重視されないとも言われることが多いが、今回の調査では企業は成績を最も重視していることが示唆されている。

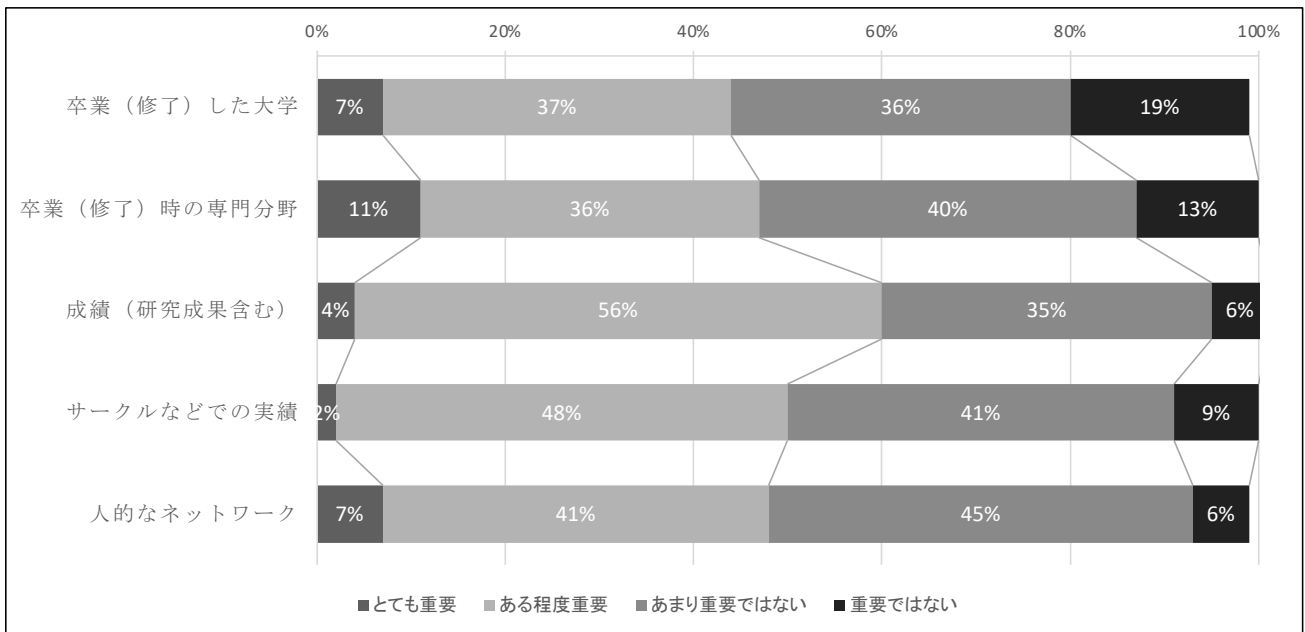
また就職先調査では、図 3-2 に示す大学時代の経験（10 項目）が、どの程度、働く上で重要かについて尋ねている。選択肢は、前問と同様に、「とても重要」「ある程度重要」「あまり重要ではない」「重要ではない」の 4 択である。「とても重要」「ある程度重要」の合計割合が高い順に、「友人・先輩との交流」94%、「学問を修得することによる考え方の訓練」91%、「未知のことに目をひらかせられる経験」86%、「先端の学問に触れることによる知的好奇心」83%、「大学進学時に獲得した基礎学力」81%、「アルバイトの経験」78%、「研究室・ゼミでの経験」78%、「専門分野の修得による考え方の訓練」69%、「教員との交流」67%、「卒業論文・卒業研究、修士論文などの経験」56%である。

同様に、卒業生の採用・雇用者の選考時の違いに焦点を当てて検討する。表 3-2 の値は、この項目に関する「とても重要」「ある程度重要」と答えた回答者の割合を示している。卒業生は「専門分野の修得による考え方の訓練」、「卒業論文等の経験」、「アルバイトの経験」、「教員との交流」を重要視しているが、それと比較すると企業はこれらの経験をあまり重視していないことがわかる。一方、「研究室・ゼミでの経験」「友人・先輩との交流」は、卒業生より雇用者に重要視されている。これらの項目では、Mann-Whitney の U 検定により、いずれも有意な差がみられた。

さらに、就職先調査では、学部卒業者と大学院修了者に求める能力等の違いについて尋ねている（図表省略）。その結果、「違いはない」と答えた企業や公共機関が 92%、「違いがある」と答えたのが 8%となっている。具体的な違いを尋ねると、「学部者より、論理的思考力や課題解決能力について上のレベルを求める」といった意見が多く寄せられている。詳細については、本章の第 2 節をご参照いただきたい。

³ 調査データ数が少ない、また卒業生と採用企業のデータを用いて比較するため（対応のないデータ）、ここではノンパラメトリック検定・対応のない独立 2 群の差の検定である Mann-Whitney の U 検定を採用した。

図 3-1 採用選考時に重視する点



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

表 3-1 卒業生自身と就職先による「採用・選考時の評価点」

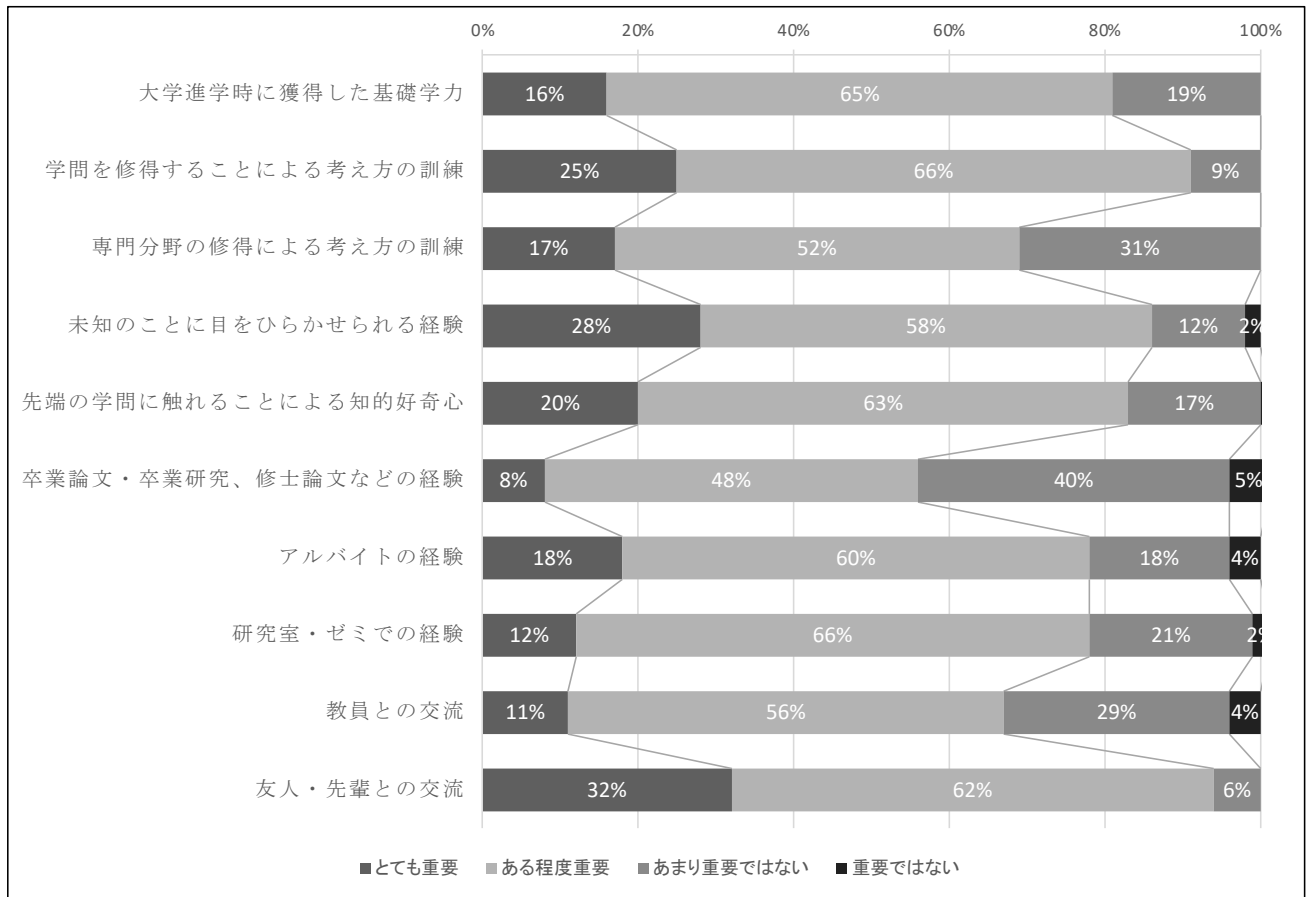
	卒業生	就職先
修了した大学	46%	44%
大学修了時の専門分野	46%	47%
成績(研究成果含む)	36%	60% ***
サークル等での実績	27%	50% ***
人的なネットワーク	37%	48% **

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

注1：「とても重要」「ある程度重要」と答えた人の割合

注2：Mann-WhitneyのU検定による

図 3-2 大学・大学院時代の経験の重要性



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

表 3-2 卒業生自身と採用先による「大学時代の経験の重要性」

	卒業生	就職先
1.大学進学時に獲得した基礎学力	76%	81%
2.学問を修得することによる考え方の訓練	84%	91%
3.専門分野の修得による考え方の訓練	81%	69%***
4.未知のことに目をひらかせられる経験	78%	86%
5.先端の学問に触れることによる知的好奇心	73%	83%
6.卒業論文・卒業研究等の経験	64%	56%**
7.アルバイトの経験	82%	78%***
8.研究室・ゼミでの経験	76%	78%**
9.教員との交流	70%	67%*
10.友人・先輩との交流	88%	94%*

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

注1: 「とても重要」「ある程度重要」と答えた人の割合

注2: Mann-Whitney のU検定による

注3: □の箇所は卒業生が就職先より高く評価する項目であり、色づけの箇所は就職先が卒業生より高く評価する項目である。

◎各種能力の修得状況

図3-3は、社会人基礎力についての集計結果を示すものである。就職先調査では、大卒者の選考時に重視する能力、福島大学の卒業生・修了生に優れたの能力、不足している能力のそれぞれについて、複数選択で尋ねている。以下は、それぞれ選択肢の割合（分母は回答者総数）が高い順に3項目を見ていこう。まず大卒者の選考時に重視する能力については、「主体性」88%、「規律性」85%、「傾聴力」83%である。次に、福島大学の卒業生・修了生に優れたの能力は、「規律性」68%、「傾聴力」61%、「実行力」58%である。一方、福島大生に不足している能力は「働きかけ力」と「創造力」が同率で33%、「主体性」31%である。卒業生調査を比較すると、就職先調査では、福島大生に不足している能力の選択率が低い。その原因は、他大学との卒業生との差（不足）を強く感じていないためであると考えられる。ただし、不足の能力としての選択が優れた能力を上回るのは、「働きかけ力」と「創造力」であり、卒業生と共通する評価である。この結果は、平成22年度調査⁴、令和元年度調査⁵と同様な傾向が見られた。

また就職先調査では、採用した大卒者の働く上での能力について「とてもある」「ややある」「あまりない」「まったくない」の4択で尋ねている（図3-4）。「とてもある」「ややある」の合計割合が高い上位の3項目は、「コミュニケーション力」、「自ら人間関係をつくる力」、「自らを律して行動できる力」が同率で100%で、「自ら学修する習慣」と「必要な場合のリーダーシップの発揮」が同率で99%、「多角的・総合的な思考」97%である。一方、「とてもある」「ややある」の合計割合が高い下位3項目は、「外国語の能力」35%、「健康や運動に関する科学的認識」39%、「異文化の理解」46%であった。卒業生調査を比較すると、就職先が「自ら人間関係をつくる力」、「多角的・総合的な思考」、「必要な場合のリーダーシップの発揮」、「自ら学修する習慣」を非常に高く評価しているが、卒業生の調査結果と異なる。

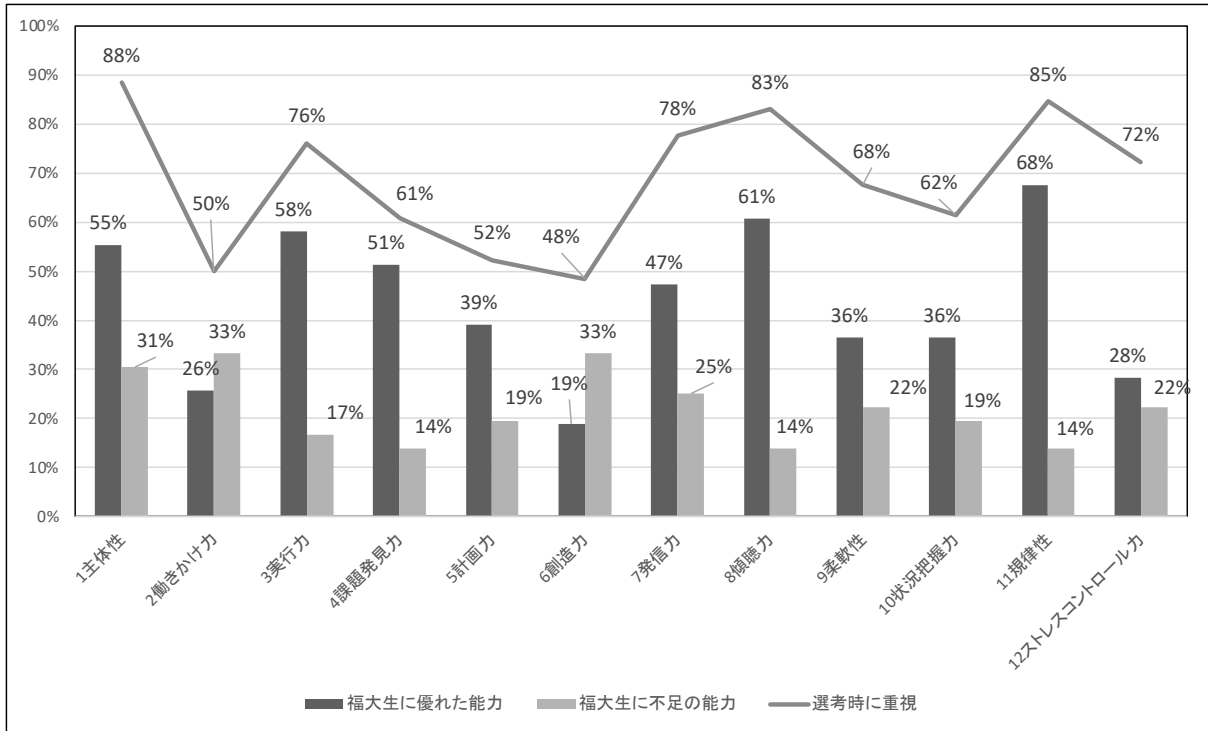
さらに、就職先調査では、採用した方の働く上での能力において、学部卒業者と大学院修了者に求める能力等の違いについて尋ねている。その結果は、「違いはない」95%、「違いがある」5%となっている（図3-5）。具体的な違いとしては「より高い専門性と課題解決能力」（企業等）、「専門的知識の発揮」（公共機関）、「学部者より、論理的思考力や課題解決能力について上のレベルを求める」（企業等）、「問題解決力についてやイレギュラーなケースへの対応判断」（企業等）等が挙げられており、高度な専門性、課題解決能力及び対応判断力が求められるようである。

⁴ 丸山和昭（2012）「福島大学卒業生の能力像 - 卒業生・企業アンケートの結果から」『福島大学総合教育研究センター紀要』12巻、pp11-18. pdf

⁵ 高等教育企画室（2019）『福島大学の教育に関する卒業生・修了生・就職先調査報告書』（令和元年度）福島大学教育推進機構

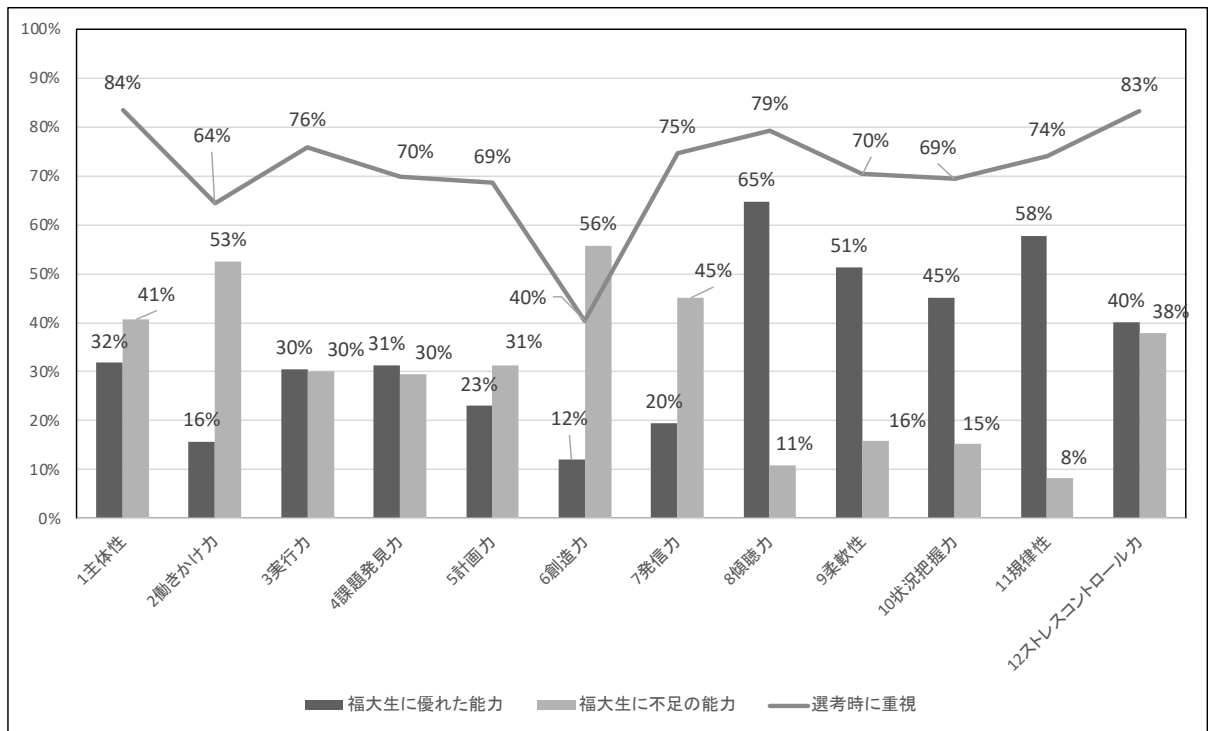
図 3-3 社会人基礎力について

企業・公共機関



※上図の分母は回答者総数（138 件）である。

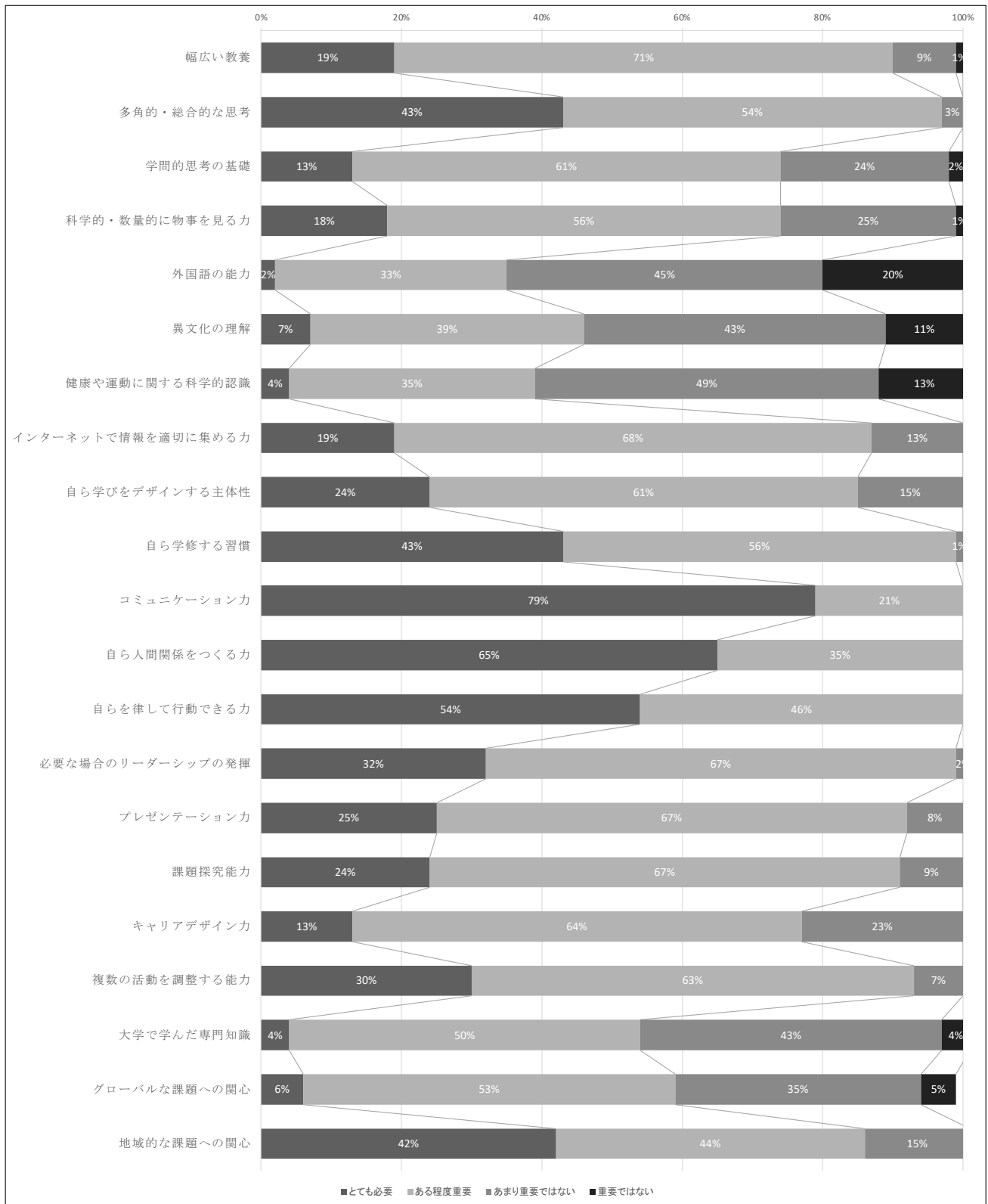
卒業生



※上図の分母は回答者総数（347 名）である。

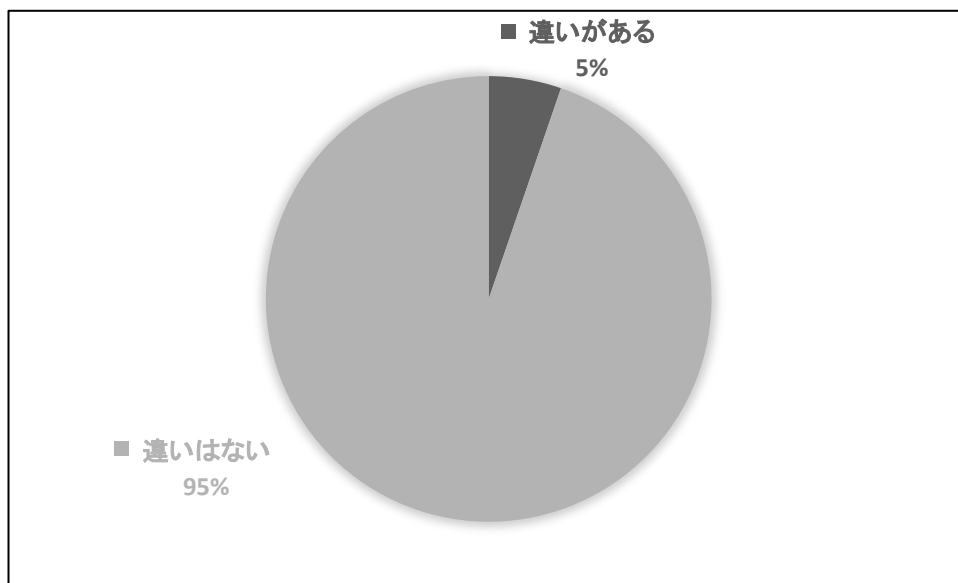
図 3-4 採用した大卒者の働く上での能力

貴社(貴事業所)・貴機関が採用した大卒者の働く上での能力について、以下の項目は、貴社(貴事業所)・貴機関で働く上で重要だと思いますか。



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

図 3-5 採用した大卒者の働く上での能力に学部卒業者と大学院修了者に求める能力の違い



※上図では「未記入」を除いた割合を示している。

◎自由記述

最後に、就職先調査では、在学中に身につけて欲しいことについての自由記述欄を設けている。具体的な設問は、「その他、福島大学の学生に、在学中身につけて欲しいことについて自由にご回答ください」である。ここでは簡潔にまとめるが、詳細については本章第2節に掲載している。

就職先調査に寄せられた自由記述は多岐にわたるが、比較的、コミュニケーション能力に関する言及が多いようである。たとえば、「学内外の活動を通じて多様な価値観に触れ、柔軟性とコミュニケーション能力を培って下さい」（企業等）、「同僚や保護者、地域等とのつながり、協働を大切にするためのコミュニケーション力」（公共機関）、「人とのかかわり方や知識だけでないコミュニケーション能力」（企業等）などの意見が挙げられる。特に近年、コロナ禍の影響で大学生の人間関係におけるコミュニケーションが制限され、大学でのコミュニケーション力を鍛える機会が失われている。そのため、学生のコミュニケーション能力が企業から求められるようになってきている。

また課題解決能力および学び習慣を求める意見もある。たとえば、「様々なことに挑戦して失敗ししながら、自分なりの課題解決力をつけてください」（企業等）、「課題解決の過程を明らかにし準備する力とストレスに対応する力」（公共機関）、「業務遂行能力の維持・向上のため、常に勉強し続ける姿勢」（公共機関）、「前例に囚われず、積極的に良い手法を提案していく姿勢も勉学やその他活動の中で学習してもらい、市政の質の向上に努められる職員として共に働けることを期待しています」（公共機関）等の意見が挙げられる。

一方、大学院修了者に対しては、「卒業生と同様」という意見が多いものの、卒業生より高度な能力を求める意見もあった。例えば、「上記（補足：卒業生）に加えて、専門的知識、経験、考え方など、より高度な能力の行政への活用」（公共機関）や、「より専門的な知識」（企業等）などが挙げられる。本調査では、雇用者側から見た卒業生と修了者の能力の違いについて探索的に調査を行ったが、次回調査ではこれらの調査結果を活用して、さらに多角的に検討する。「一般的には学部卒業での就職が多い中、大学院まで進学することの意義を見出してほしい」という雇用者からの意見に応えたいと考えている。

こうした福島大生に身につけて欲しいことなどについては、建設的な意見が多く寄せられている。個人情報保護のため自由記述の掲載を割愛した。

第2節 単純集計

第1項 企業等アンケート

I. 貴社（貴事業所）の概要について伺います。

Q1：本社（本所）の所在地について、都道府県名を記入してください。

本社 所在地	茨城県	2(2%)
	岩手県	3(3%)
	宮城県	7(7%)
	広島県	1(1%)
	埼玉県	1(1%)
	山形県	1(1%)
	秋田県	2(2%)
	新潟県	1(1%)
	神奈川県	1(1%)
	青森県	1(1%)
	大阪府	1(1%)
	東京都	6(6%)
	栃木県	1(1%)
	福島県	64(63%)
	未記入	10(10%)
	計	102(100%)

Q2：貴社（貴事業所）の従業員数（正社員のみ）について該当するものを選択してください。

規模	1 29名以下	11(11%)
	2 30-99名	23(23%)
	3 100-499名	39(38%)
	4 500-999名	11(11%)
	5 1,000-4,999名	16(16%)
	6 5,000-9,999名	1(1%)
	7 10,000名以上	0(0%)
	未記入	1(1%)
	計	102(100%)

Q3：貴社（貴事業所）の業種について該当するものを選択してください。

業種	1 農林水産業	0 (0%)
	2 鉱業	0 (0%)
	3 建設業	7 (7%)
	4 製造業	11 (11%)
	5 電気・ガス・熱供給・水道業	3 (3%)
	6 情報通信業	9 (9%)
	7 運輸業	1 (1%)
	8 卸売・小売業	19 (19%)
	9 金融・保険業	10 (10%)
	10 不動産業	3 (3%)
	11 飲食店、宿泊業	1 (1%)
	12 医療、福祉	14 (14%)
	13 教育、学習支援業	2 (2%)
	14 複合サービス事業	2 (2%)
	15 他に分類されないサービス業	11 (11%)
	16 他に分類されない公務	0 (0%)
	17 その他	9 (9%)
		未記入
	計	102 (100%)

II. 貴社（貴事業所）の大学卒業者・大学院卒業者の採用状況についてお伺いいたします。

Q4-Q7：過去3年間（2020～2022年計）の貴社（貴事業所）の「大学新卒者」の採用者数について、その人数をご記入ください。なお、該当者がいない場合「0」と記入してください。また、不明の部分については、空欄のまま次の設問にお進みください。

【学部】	過去3年間（2020～2022年計）		うち、2022年4月入社	
	Q4 大卒全体の採用者数	Q5 うち福島大学からの採用者数	Q6 大卒全体の採用者数	Q7 うち福島大学からの採用者数
0人	2 (2%)	10 (10%)	19 (19%)	51 (50%)
1人	11 (11%)	51 (50%)	10 (10%)	37 (36%)
2～5人	21 (21%)	34 (33%)	37 (36%)	11 (11%)
6～10人	20 (20%)	2 (2%)	15 (15%)	1 (1%)
11～20人	17 (17%)	2 (2%)	6 (6%)	0 (0%)
21～40人	10 (10%)	1 (1%)	6 (6%)	0 (0%)
41～60人	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
61～80人	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)
81～100人	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)
101～200人	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)
201～300人	3 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
301～400人	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
401～500人	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
501～1000人	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
1001人以上	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
未記入	4 (4%)	2 (2%)	3 (3%)	2 (2%)
計	102 (100%)	102 (100%)	102 (100%)	102 (100%)

Q8-Q11: 過去3年間(2020~2022年計)の貴社(貴事業所)の「大学院新卒者」の採用者数について、その人数をご記入ください。なお、該当者がいない場合「0」と記入してください。また、不明の部分については、空欄のまま次の設問にお進みください。

【大学院】	過去3年間(2020~2022年計)		うち、2022年4月入社	
	Q8 大卒全体の採用者数	Q9 うち福島大学からの採用者数	Q10 大卒全体の採用者数	Q11 うち福島大学からの採用者数
0人	68(67%)	76(75%)	81(79%)	91(89%)
1人	13(13%)	24(24%)	9(9%)	9(9%)
2~5人	13(13%)	0(0%)	4(4%)	0(0%)
6~10人	0(0%)	0(0%)	3(3%)	0(0%)
11~20人	3(3%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
21~40人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
41~60人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
61~80人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
81~100人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
101~200人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
201~300人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
301~400人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
401~500人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
501~1000人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
1001人以上	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
未記入	5(5%)	2(2%)	5(5%)	2(2%)
計	102(100%)	102(100%)	102(100%)	102(100%)

Q12-Q14: 貴社（貴事業所）において、過去3年間で採用者数の多い上位3校の大学名をご記入ください。

1位	
福島大学	22 (22%)
東北学院大学	12 (12%)
日本大学	9 (9%)
福島学院大学	3 (3%)
山形大学	3 (3%)
東北大学	2 (2%)
東北工業大学	2 (2%)
東日本国際大学	2 (2%)
仙台大学	2 (2%)
医療創生大学	2 (2%)
法政大学	1 (1%)
福島県立医科大学	1 (1%)
白鷗大学	1 (1%)
東北福祉大学	1 (1%)
東海大学	1 (1%)
青森公立大学	1 (1%)
盛岡大学	1 (1%)
新潟大学	1 (1%)
常磐大学	1 (1%)
秋田大学	1 (1%)
桜の聖母短期大学	1 (1%)
国際医療福祉大学	1 (1%)
広島工業大学	1 (1%)
岩手大学	1 (1%)
岩手県立大学	1 (1%)
関西大学	1 (1%)
会津大学	1 (1%)
茨城大学	1 (1%)
未記入	25 (25%)
計	102 (100%)

2位	
福島大学	21 (21%)
日本大学	8 (8%)
東北学院大学	6 (6%)
東北福祉大学	5 (5%)
明治大学	2 (2%)
東北工業大学	2 (2%)
仙台大学	2 (2%)
常磐大学	2 (2%)
山形大学	2 (2%)
茨城大学	2 (2%)
八戸学院大学	1 (1%)
白鷗大学	1 (1%)
東洋大学	1 (1%)
東日本国際大学	1 (1%)
専修大学	1 (1%)
盛岡大学	1 (1%)
新潟産業大学	1 (1%)
尚絅学院大学	1 (1%)
秋田県立大学	1 (1%)
弘前大学	1 (1%)
広島修道大学	1 (1%)
郡山女子大学	1 (1%)
九州大学	1 (1%)
会津大学	1 (1%)
横浜国立大学	1 (1%)
茨城キリスト教大学	1 (1%)
医療創生大学	1 (1%)
ものづくり大学	1 (1%)
未記入	32 (31%)
計	102 (100%)

3位	
福島大学	7 (7%)
日本大学	5 (5%)
東北学院大学	4 (4%)
会津大学	2 (2%)
岩手大学	2 (2%)
東京電機大学	2 (2%)
東日本国際大学	2 (2%)
東北芸術工科大学	2 (2%)
東北工業大学	2 (2%)
東北福祉大学	2 (2%)
福島大学、山形大学	1 (1%)
福島大学、東北大学、明治学院大学	1 (1%)
福島大学、福島学院大学	1 (1%)
医療創生大学	1 (1%)
茨城キリスト教大学	1 (1%)
茨城大学	1 (1%)
奥羽大学	1 (1%)
宮城学院女子大学	1 (1%)
共栄大学	1 (1%)
熊本大学	1 (1%)
郡山女子大学	1 (1%)
高崎経済大学	1 (1%)
埼玉大学	1 (1%)
山形大学	1 (1%)
山形大学・岩手大学	1 (1%)
山口大学	1 (1%)
秋田大学	1 (1%)
秋田大学、東北学院大学、宮城学院女子大学、神奈川大学	1 (1%)
尚絅学院大学	1 (1%)
信州大学	1 (1%)
新潟国際情報大学	1 (1%)
新潟大学	1 (1%)
東北大学	1 (1%)
東北大学・東北学院大学	1 (1%)
青森中央学院大学	1 (1%)
仙台白百合女子大学、尚絅学院大学、宮城学院女子大学	1 (1%)
東京農業大学	1 (1%)
白鷗大学	1 (1%)
福島学院大学	1 (1%)
文教大学	1 (1%)
未記入	42 (41%)
計	102 (100%)

Q15-Q19：貴社（貴事業所）では、大卒者の選考時に以下の項目のようなことをどの程度重視していますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q15 卒業（修了）した大学	9(9%)	40(39%)	36(35%)	14(14%)	3(3%)	102(100%)
Q16 卒業（修了）時の専門分野	11(11%)	39(38%)	41(40%)	10(10%)	1(1%)	102(100%)
Q17 成績（研究成果含む）	4(4%)	59(58%)	30(29%)	5(5%)	4(4%)	102(100%)
Q18 サークル等での実績	3(3%)	47(46%)	41(40%)	7(7%)	4(4%)	102(100%)
Q19 人的なネットワーク	9(9%)	42(41%)	45(44%)	3(3%)	3(3%)	102(100%)

Ⅲ. 貴社（貴事業所）で採用した大卒者の働く上での能力についてお伺いたします。

Q21-Q23：次の社会人基礎力について、貴社（貴事業所）が大卒者の選考時に重視するのはどの能力ですか。また、福島大学の卒業生・修了生について優れている、及び不足していると感じられるのはどの能力ですか。それぞれ当てはまる項目全てを選択してください（複数選択可）。

	Q20 選考時に重視する能力	Q21 福島大学生の優れた能力	Q22 福島大学生に不足している能力
1 物事に進んで取組む力(主体性)	91(90%)	36(53%)	11(32%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	46(46%)	16(24%)	11(32%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	74(73%)	39(57%)	6(18%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	59(58%)	35(51%)	4(12%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	50(50%)	26(38%)	6(18%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	45(45%)	11(16%)	10(29%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	76(75%)	31(46%)	9(26%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	86(85%)	40(59%)	5(15%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	64(63%)	23(34%)	8(24%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	55(54%)	24(35%)	7(21%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	84(83%)	45(66%)	5(15%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	73(72%)	17(25%)	8(24%)

注：ここでのパーセントは全体（102）を分母とした場合の割合。

Q24：選考時に重視する能力について、学部卒業者と大学院修了者に求める能力等に違いがありますか。

違いがある	8(8%)
違いはない	91(89%)
未記入	3(3%)
計	102(100%)

Q25：上記で違いがあると回答した方にお尋ねします。

より高い専門性
より高い専門性と課題解決能力
より高度な専門性
課題発見・分析力
学部者より、論理的思考力や課題解決能力について上のレベルを求める
現状を分析し課題を明確化して実践する力、そしてそれを評価・反省し、次に具体的な方策を考え、取り組む力。実践を整理し発表する力。
専門知識を活かせるかどうか
より高い専門性

Q26-Q35：貴社（貴事業所）で働く上で以下に掲げた大学・大学院時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q26 大学進学時に獲得した基礎学力	13 (13%)	67 (66%)	19 (19%)	0 (0%)	3 (3%)	102 (100%)
Q27 学問を修得することによる考え方の訓練	23 (23%)	66 (65%)	10 (10%)	0 (0%)	3 (3%)	102 (100%)
Q28 専門分野の修得による考え方の訓練	15 (15%)	51 (50%)	32 (31%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q29 未知のことに目をひらかせられる経験	27 (26%)	56 (55%)	12 (12%)	2 (2%)	5 (5%)	102 (100%)
Q30 先端の学問に触れることによる知的好奇心	21 (21%)	60 (59%)	16 (16%)	1 (1%)	4 (4%)	102 (100%)
Q31 卒業論文・卒業研究、修士論文などの経験	8 (8%)	46 (45%)	38 (37%)	6 (6%)	4 (4%)	102 (100%)
Q32 アルバイトの経験	21 (21%)	55 (54%)	18 (18%)	4 (4%)	4 (4%)	102 (100%)
Q33 研究室・ゼミでの経験	12 (12%)	65 (64%)	19 (19%)	2 (2%)	4 (4%)	102 (100%)
Q34 教員との交流	12 (12%)	53 (52%)	28 (27%)	5 (5%)	4 (4%)	102 (100%)
Q35 友人・先輩との交流	33 (32%)	60 (59%)	5 (5%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)

Q36：学部卒業者と大学院修了者に求める大学・大学院時代の経験に違いがありますか。

違いがある	7 (7%)
違いはない	89 (87%)
未記入	6 (6%)
計	102 (100%)

Q37：上記で違いがあると回答した方にお尋ねします。

より専門的な知識とその知識の活用方
課題に対する取り組み方
業界ないし部署とリンクする専門分野への研究
系統立てて物事を理解・整理する（研究計画や論文執筆）能力
研究活動を通して得られる問題解決力
現状を分析し課題を明確化して実践する力、そしてそれを評価・反省し、次に具体的な方策を考え、取り組む力。実践を整理し発表する力。
専門分野を既に習得しているという視点からの考え方や問題解決力
より専門的な知識とその知識の活用方

Q38-Q58：貴社（貴事業所）が採用した大卒者の働く上での能力について、以下の項目は、貴社（貴事業所）で働く上で重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q38 幅広い教養	15 (15%)	71 (70%)	11 (11%)	1 (1%)	4 (4%)	102 (100%)
Q39 多角的・総合的な思考	38 (37%)	55 (54%)	4 (4%)	0 (0%)	5 (5%)	102 (100%)
Q40 学問的思考の基礎	11 (11%)	58 (57%)	27 (26%)	2 (2%)	4 (4%)	102 (100%)
Q41 科学的・数量的に物事を見る力	17 (17%)	53 (52%)	28 (27%)	1 (1%)	3 (3%)	102 (100%)
Q42 外国語の能力	2 (2%)	25 (25%)	46 (45%)	25 (25%)	4 (4%)	102 (100%)
Q43 異文化の理解	4 (4%)	34 (33%)	46 (45%)	14 (14%)	4 (4%)	102 (100%)
Q44 健康や運動に関する科学的認識	4 (4%)	27 (26%)	52 (51%)	15 (15%)	4 (4%)	102 (100%)
Q45 インターネットで情報を適切に集める力	18 (18%)	64 (63%)	15 (15%)	1 (1%)	4 (4%)	102 (100%)
Q46 自ら学びをデザインする主体性	22 (22%)	59 (58%)	16 (16%)	0 (0%)	5 (5%)	102 (100%)
Q47 自ら学修する習慣	41 (40%)	56 (55%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q48 コミュニケーション力	81 (79%)	18 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	102 (100%)
Q49 自ら人間関係をつくる力	65 (64%)	33 (32%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q50 自らを律して行動できる力	50 (49%)	48 (47%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q51 必要な場合のリーダーシップの発揮	31 (30%)	65 (64%)	2 (2%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q52 プレゼンテーション力	26 (25%)	62 (61%)	10 (10%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q53 課題探究能力	24 (24%)	63 (62%)	10 (10%)	0 (0%)	5 (5%)	102 (100%)
Q54 キャリアデザイン力	12 (12%)	59 (58%)	27 (26%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q55 複数の活動を調整する能力	27 (26%)	62 (61%)	9 (9%)	0 (0%)	4 (4%)	102 (100%)
Q56 大学・大学院で学んだ専門知識	4 (4%)	44 (43%)	46 (45%)	4 (4%)	4 (4%)	102 (100%)
Q57 グローバルな課題への関心	4 (4%)	47 (46%)	40 (39%)	7 (7%)	4 (4%)	102 (100%)
Q58 地域的な課題への関心	39 (38%)	43 (42%)	17 (17%)	0 (0%)	3 (3%)	102 (100%)

Q59：貴社（貴事業所）が採用した方の働く上での能力について、学部卒業者と大学院修了者に求める能力等に違いがありますか。

違いがある	6 (6%)
違いはない	91 (89%)
未記入	5 (5%)
計	102 (100%)

Q60：上記で違いがあると回答した方にお尋ねします。大学院修了者にはどのような能力を求められますか。具体的な違いをご記入ください。

より高い専門性と課題解決能力
より高度な専門性
より専門的な知識をどう活かしていけるかということ
課題に対して仮説を立て検証していく能力
学部者より、論理的思考力や課題解決能力について上のレベルを求める
問題解決力についてやイレギュラーなケースへの対応判断
より高い専門性と課題解決能力
より高度な専門性

第2項 機関アンケート

I. 貴機関の大学卒業者・大学院卒業者の採用状況についてお伺いいたします。

Q1-Q4: 過去3年間(2020~2022年計)の貴機関の「大学新卒者」の採用者数について、その人数をご記入ください。なお、該当者がいない場合「0」と記入してください。また、不明の部分については、空欄のまま次の設問にお進みください。

【学部】	過去3年間(2020~2022年計)		うち、2022年4月入社	
	Q1 大卒全体の採用者数	Q2 うち福島大学からの採用者数	Q3 大卒全体の採用者数	Q4 うち福島大学からの採用者数
0人	1(1%)	6(6%)	2(2%)	18(18%)
1人	3(3%)	12(12%)	3(3%)	6(6%)
2~5人	4(4%)	8(8%)	9(9%)	7(7%)
6~10人	6(6%)	3(3%)	4(4%)	2(2%)
11~20人	1(1%)	3(3%)	6(6%)	1(1%)
21~40人	7(7%)	2(2%)	3(3%)	1(1%)
41~60人	2(2%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)
61~80人	0(0%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)
81~100人	2(2%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
101~200人	2(2%)	1(1%)	3(3%)	0(0%)
201~300人	1(1%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)
301~400人	1(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
401~500人	2(2%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)
501~1000人	1(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
1001人以上	1(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
未記入	2(2%)	1(1%)	2(2%)	1(1%)
計	36(100%)	36(100%)	36(100%)	36(100%)

Q5-Q8: 過去3年間(2020~2022年計)の貴機関の「大学院新卒者」の採用者数について、その人数をご記入ください。なお、該当者がいない場合「0」と記入してください。また、不明の部分については、空欄のまま次の設問にお進みください。

【大学院】	過去3年間(2020~2022年計)		うち、2022年4月入社	
	Q5 大卒全体の採用者数	Q6 うち福島大学からの採用者数	Q7 大卒全体の採用者数	Q8 うち福島大学からの採用者数
0人	16(16%)	26(72%)	24(67%)	27(75%)
1人	8(8%)	5(14%)	2(6%)	3(8%)
2~5人	4(4%)	0(0%)	3(9%)	1(3%)
6~10人	0(0%)	1(3%)	0(0%)	0(0%)
11~20人	2(2%)	0(0%)	2(6%)	0(0%)
21~40人	2(2%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
41~60人	0(0%)	0(0%)	1(3%)	0(0%)
61~80人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
81~100人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
101~200人	1(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
201~300人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
301~400人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
401~500人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
501~1000人	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
1001人以上	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
未記入	3(3%)	4(11%)	4(11%)	5(14%)
計	36(100%)	36(100%)	36(100%)	36(100%)

Q9-Q11：貴機関において、過去5年間で採用者数の多い上位3校の大学名をご記入ください。

1位	
福島大学	8(22%)
岩手大学	3(8%)
日本大学	2(6%)
東北大学	1(3%)
東北学院大学	1(3%)
仙台大学	1(3%)
山形大学	1(3%)
弘前大学	1(3%)
宇都宮大学	1(3%)
茨城大学	1(3%)
未記入	16(45%)
計	36(100%)

2位	
福島大学	4(12%)
東北福祉大学	3(9%)
新潟大学	2(6%)
白鷗大学	1(3%)
日本大学	1(3%)
東北大学、東北学院大学、中央大学	1(3%)
青森大学	1(3%)
盛岡大学	1(3%)
高崎経済大学	1(3%)
弘前大学	1(3%)
岩手県立大学	1(3%)
茨城キリスト教大学	1(3%)
未記入	19(53%)
計	36(100%)

3位	
岩手県立大学	2(6%)
東北学院大学	2(6%)
山形大学	1(3%)
日本大学	1(3%)
福島大学	1(3%)
東北福祉大学	1(3%)
仙台大学	1(3%)
常磐大学	1(3%)
弘前大学他	1(3%)
郡山女子大学	1(3%)
会津大学	1(3%)
未記入	21(59%)
計	36(100%)

Q12-Q16：貴機関では、大卒者の選考時に以下の項目のようなことをどの程度重視していますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q12 卒業（修了）した大学	0(0%)	8(22%)	11(31%)	11(31%)	6(17%)	36(100%)
Q13 卒業（修了）時の専門分野	3(8%)	8(22%)	12(33%)	7(19%)	6(17%)	36(100%)
Q14 成績（研究成果含む）	1(3%)	12(33%)	14(39%)	2(6%)	7(19%)	36(100%)
Q15 サークル等での実績	14(39%)	11(31%)	4(11%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)
Q16 人的なネットワーク	11(31%)	13(36%)	5(14%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)

Ⅱ. 貴機関で採用した大卒者の働く上での能力についてお伺いたします。

Q17-Q19：次の社会人基礎力について、貴機関が大卒者の選考時に重視するのはどの能力ですか。また、福島大学の卒業生・修了生について優れている、及び不足していると感じられるのはどの能力ですか。それぞれ当てはまる項目全てを選択してください(複数選択可)。

	Q17 選考時に重視する能力	Q18 福島大学生の優れた能力	Q19 福島大学生に不足している能力
1 物事に進んで取り組む力(主体性)	24(83%)	5(83%)	0(0%)
2 他人に働きかけ巻き込む力(働きかけ力)	19(66%)	3(50%)	1(50%)
3 目的を設定し確実に行動する力(実行力)	25(86%)	4(67%)	0(0%)
4 現状を分析し課題を明らかにする力(課題発見力)	20(69%)	3(50%)	1(50%)
5 課題解決の過程を明らかにし準備する力(計画力)	18(62%)	3(50%)	1(50%)
6 新しい価値を生み出す力(創造力)	18(62%)	3(50%)	1(50%)
7 自分の意見を分かりやすく伝える力(発信力)	25(86%)	4(67%)	0(0%)
8 相手の意見を丁寧に聴く力(傾聴力)	22(76%)	5(83%)	0(0%)
9 意見の違いや立場の違いを理解する力(柔軟性)	24(83%)	4(67%)	0(0%)
10 自分と周囲のとの関係性を理解する力(状況把握力)	25(86%)	3(50%)	0(0%)
11 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)	26(90%)	5(83%)	0(0%)
12 ストレスに対応する力(ストレスコントロール力)	21(72%)	4(67%)	0(0%)

注：ここでのパーセントは全体（36）を分母とした場合の割合。

Q20：選考時に重視する能力について、学部卒業者と大学院修了者に求める能力等に違いがありますか。

違いがある	0(0%)
違いはない	35(97%)
未記入	1(3%)
計	36(100%)

Q21：上記で違いがあると回答した方にお尋ねします。

該当なし

Q22-Q31：貴機関で働く上で以下に掲げた大学・大学院時代の経験はどの程度重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q22 大学進学時に獲得した基礎学力	7(19%)	17(47%)	6(17%)	0(0%)	6(17%)	36(100%)
Q23 学問を修得することによる考え方の訓練	9(25%)	19(53%)	2(6%)	0(0%)	6(17%)	36(100%)
Q24 専門分野の修得による考え方の訓練	7(19%)	15(42%)	7(19%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)
Q25 未知のことに目をひらかせられる経験	8(22%)	17(47%)	3(8%)	0(0%)	8(22%)	36(100%)
Q26 先端の学問に触れることによる知的好奇心	4(11%)	19(53%)	5(14%)	0(0%)	8(22%)	36(100%)
Q27 卒業論文・卒業研究、修士論文などの経験	2(6%)	14(39%)	12(33%)	0(0%)	8(22%)	36(100%)
Q28 アルバイトの経験	1(3%)	20(56%)	5(14%)	1(3%)	9(25%)	36(100%)
Q29 研究室・ゼミでの経験	3(8%)	18(50%)	7(19%)	0(0%)	8(22%)	36(100%)
Q30 教員との交流	2(6%)	18(50%)	8(22%)	0(0%)	8(22%)	36(100%)
Q31 友人・先輩との交流	8(22%)	19(53%)	2(6%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)

Q32：学部卒業者と大学院修了者に求める大学・大学院時代の経験に違いがありますか。

違いがある	0(0%)
違いはない	35(97%)
未記入	1(3%)
計	36(100%)

Q33：上記で違いがあると回答した方にお尋ねします。

該当なし

Q34-Q54：貴機関が採用した大卒者の働く上での能力について、以下の項目は、貴機関で働く上で重要だと思いますか。

	とても重要	ある程度重要	あまり重要ではない	重要ではない	未記入	計
Q34 幅広い教養	10(28%)	20(56%)	1(3%)	0(0%)	5(14%)	36(100%)
Q35 多角的・総合的な思考	17(47%)	14(39%)	0(0%)	0(0%)	5(14%)	36(100%)
Q36 学問的思考の基礎	6(17%)	20(56%)	3(8%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)
Q37 科学的・数量的に物事を見る力	6(17%)	19(53%)	4(11%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)
Q38 外国語の能力	1(3%)	17(47%)	11(31%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)
Q39 異文化の理解	5(14%)	16(44%)	9(25%)	0(0%)	6(17%)	36(100%)
Q40 健康や運動に関する科学的認識	1(3%)	17(47%)	10(28%)	1(3%)	7(19%)	36(100%)
Q41 インターネットで情報を適切に集める力	6(17%)	23(64%)	1(3%)	0(0%)	6(17%)	36(100%)
Q42 自ら学びをデザインする主体性	8(22%)	18(50%)	3(8%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)
Q43 自ら学修する習慣	15(42%)	16(44%)	0(0%)	0(0%)	5(14%)	36(100%)
Q44 コミュニケーション力	23(64%)	9(25%)	0(0%)	0(0%)	4(11%)	36(100%)
Q45 自ら人間関係をつくる力	19(53%)	12(33%)	0(0%)	0(0%)	5(14%)	36(100%)
Q46 自らを律して行動できる力	20(56%)	12(33%)	0(0%)	0(0%)	4(11%)	36(100%)
Q47 必要な場合のリーダーシップの発揮	10(28%)	21(58%)	0(0%)	0(0%)	5(14%)	36(100%)
Q48 プレゼンテーション力	6(17%)	25(69%)	1(3%)	0(0%)	4(11%)	36(100%)
Q49 課題探究能力	7(19%)	23(64%)	1(3%)	0(0%)	5(14%)	36(100%)
Q50 キャリアデザイン力	5(14%)	22(61%)	2(6%)	0(0%)	7(19%)	36(100%)
Q51 複数の活動を調整する能力	12(33%)	18(50%)	0(0%)	0(0%)	6(17%)	36(100%)
Q52 大学・大学院で学んだ専門知識	1(3%)	19(53%)	8(22%)	1(3%)	7(19%)	36(100%)
Q53 グローバルな課題への関心	4(11%)	21(58%)	5(14%)	0(0%)	6(17%)	36(100%)
Q54 地域的な課題への関心	16(44%)	14(39%)	2(6%)	0(0%)	4(11%)	36(100%)

Q55：学部卒業者と大学院修了者に求める大学・大学院時代の経験に違いがありますか。

違いがある	1 (3%)
違いはない	33 (92%)
未記入	2 (6%)
計	36 (100%)

Q56：上記で違いがあると回答した方にお尋ねします。

専門的知識の発揮

令和 4 年度(2022 年度)
卒業生・修了生・就職先調査報告書

令和 5 年 3 月発行

編 集: 福島大学教育推進機構高等教育企画室

発 行: 福島大学教育推進機構